

Natural for Windows

パラメータリファレンス

バージョン 6.3.3

October 2008

This document applies to Natural バージョン 6.3.3 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © Software AG 1992-2008. All rights reserved.

The name Software AG™, webMethods™, Adabas™, Natural™, ApplinX™, EntireX™ and/or all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

目次

1	パラメータリファレンス	1
2	プロファイルパラメータについて	3
	プロファイルパラメータの使用方法	4
	一般的なプロファイルパラメータとセッションパラメータの説明	4
3	セッションパラメータについて	5
	セッションパラメータの使用方法	6
	セッションパラメータの設定方法	6
	セッションパラメータの評価	8
4	ACIVERS - EntireX Broker ACI で使用する ACI バージョンの定義	9
5	ACTPOLICY - DCOM クラスのデフォルトアクティベーションポリシーの定義	11
6	AD - 属性定義	13
	AD パラメータの構文	14
	フィールド表現	15
	フィールド揃え	16
	フィールド入力／出力特性	16
	英数字フィールドの解釈	18
	必須入力	18
	入力値の長さ	18
	フィールド大文字／小文字特性	19
	充填文字	19
7	AL - 英数字フィールド出力長	21
8	AUTO - 自動ログオン	23
9	AUTOREGISTER - レジストリの自動更新	25
10	AUTORPC - Natural RPC の自動実行	27
11	BATCH - バッチモードシミュレーション	29
12	BATCHMODE - バッチモード	31
13	BMBLANK - 末尾の空白の表示	33
14	BMCONTROL - 制御文字の表示	35
15	BMFRAME - ウィンドウフレーム文字	37
16	BMSIM - バッチモード類似出力	39
17	BMTIME - 処理時間の表示	41
18	BMTITLE - ウィンドウタイトルの表示	43
19	BMVERSION - Natural バージョンの表示	45
20	BPID - バッファプール ID の指定	47
21	BPID2 - セカンダリバッファプールの指定	49
22	BPNAME - Natural グローバルバッファプールの名前	51
23	BPSFI - バッファプール内のオブジェクトを最初に検索	53
24	CC - バッチモードでのエラー処理	55
25	CD - カラー定義	57
26	CDYNAM - Natural 以外のプログラムのダイナミックロード	59
27	CF - 端末コマンドの文字	61
28	CLEAR - NEXT モードでの CLEAR キーの処理	63
29	CM - コマンドモード	65

30 CMOBJIN - Natural INPUT データ用のバッチ入力ファイル	67
31 CMPRINT - バッチ出力ファイル	69
32 CMPRT _{nn} - 追加レポート	71
33 CMSYNIN - Natural コマンドおよび INPUT データ用のバッチ入力ファイル	73
34 CMWRK _{nn} - Natural ワークファイル	75
35 COMPR - RPC バッファ圧縮の設定	77
36 COMSERVERID - DCOM サーバー ID の決定	79
37 CP - デフォルトのコードページ名	81
38 CPCVERR - コードページ変換エラー	83
39 CPOBJIN - バッチ入力ファイルのコードページ	85
40 CPPRINT - バッチ出力ファイルのコードページ	87
41 CPRPC - コードページ名の定義	89
42 CPSYNIN - コマンド用のバッチ入力ファイルのコードページ	91
43 CV - 属性制御変数	93
44 CVMIN - 入力時に変更された制御変数	95
45 DBSHORT - データベースショートネームの解釈	97
46 DBUPD - データベース更新	99
47 DC - 小数点表記の文字	101
48 DD - 日差	103
49 DF - 日付フォーマット	105
50 DFOUT - 出力の日付フォーマット	107
51 DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定	109
52 DFSTACK - スタックの日付フォーマット	111
53 DFTITLE - 標準レポートタイトルの日付出力フォーマット	113
54 DL - 出力の表示長	115
55 DTFORM - 日付フォーマット	117
56 DU - ダンプ生成	119
57 DY - ダイナミック属性	121
DY パラメータの構文	122
例	124
58 DYNPARM - ダイナミックパラメータ使用の制御	127
59 ECHO - バッチ入力データの出力制御	129
60 EDTBPSIZE - Software AG Editor バッファプールサイズ	131
61 EDTLFILES - Software AG Editor 論理ファイルの数	133
62 EJ - ページ換え	135
63 EM - 編集マスク	137
構文	138
編集マスク内の空白	139
デフォルトの編集マスク	139
数値フィールドの編集マスク	140
英数字フィールドの編集マスク	142
バイナリフィールド (フォーマット B) の編集マスク	144
16 進編集マスク	145
日付 (フォーマット D) と時刻 (フォーマット T) のフィールドの編集マ スク	147

論理フィールド（フォーマット L）の編集マスク	151
64 EMFM - 編集マスクフリーモード	153
65 EMU - Unicode 編集マスク	155
66 ENDIAN - コンパイルオブジェクトのエンディアンモード	157
67 ENDMSG - セッション終了メッセージの表示	159
68 ES - 空白行省略	161
69 ESCAPE - 端末コマンド %% および % の無効化	163
70 ESXDB - Entire System Server DDM に使用されるデータベース ID	165
71 ET - END/BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行	167
72 ETA - エラートランザクションプログラム	169
73 ETDB - トランザクションデータのデータベース	171
74 ETEOP - プログラム終了時の END TRANSACTION の発行	173
75 ETID - Adabas ユーザー ID	175
76 ETPDB - Entire Transaction Propagator マスタファイルを含むデータベース	177
77 ETPSIZE - Entire Transaction Propagator Buffer のサイズ	179
78 FC - INPUT ステートメントの充填文字	181
79 FC - DISPLAY ステートメントの充填文字	183
80 FCDP - ダイナミックに保護された入力フィールドの充填文字	185
81 FDDM - DDM 用の Natural システムファイル	187
82 FDIC - Predict システムファイル	189
83 FL - 浮動小数点数の仮数部長	191
84 FNAT - システムプログラム用の Natural システムファイル	193
85 FREEGDA - ユーティリティモードでの GDA の解放	195
86 FS - ユーザー定義変数のデフォルトのフォーマット/長さの設定	197
87 FSEC - Natural Security システムファイル	199
88 FUSER - ユーザープログラム用の Natural システムファイル	201
89 GC - グループヘッダーの充填文字	203
90 GFID - グローバルフォーマット ID	205
91 HC - ヘッダーの中央揃え	207
92 HE - ヘルプルーチン	209
HE パラメータの構文	210
ヘルプルーチンの実行	212
例	212
93 HI - ヘルプ文字	215
94 HW - ヘッダー幅	217
95 IA - INPUT 割り当て文字	219
96 IC - 挿入文字	223
97 ICU - Unicode 挿入文字	225
98 ID - INPUT 区切り文字	227
99 IKEY - PA キーおよび PF キーの処理	229
100 IM - 入力モード	231
101 INIT-LIB - 自動ログオンのライブラリ	233
102 IP - INPUT プロンプトテキスト	235
103 IS - 重複抑制	237
104 KC - ステートメントキーワードのチェック	239

105	KCHECK - ステートメントキーワードのチェック	241
106	KD - キー定義	243
107	LC - 小文字から大文字への変換	245
108	LC - 先頭文字	247
109	LCU - Unicode 先頭文字	249
110	LDB - ローカル Adabas データベースのレスポンス待ち時間	251
111	LE - 処理ループの制限を超過したときの処理	253
112	LFILE - 論理システムファイルの定義	255
	LFILE パラメータの構文	257
	LFILE パラメータの例	257
113	LOGONRQ - RPC サーバー要求にログオンが必要	259
114	LS - 行サイズ	261
	プロファイルパラメータ LS	262
	セッションパラメータ LS	262
	ステートメントでの指定	263
115	LT - 処理ループの制限	265
116	MADIO - 画面 I/O 処理間の最大 DBMS コール	267
117	MAINPR - デフォルトの出力レポート番号の上書き	269
118	MASKCME - MASK の MOVE EDITED との互換性	271
119	MAXBUFF - 最大バッファサイズ	273
120	MAXCL - プログラムコールの最大数	275
121	MAXYEAR - 日付/時刻値の最大年	277
122	MC - マルチプルバリュースフィールドカウンタ	279
123	MFSET - マルチフェッチ設定	281
124	ML - メッセージ行の位置	283
125	MP - レポートの最大ページ数	285
126	MS - 手動による省略	287
127	MSGSF - システムエラーメッセージの短い形式/完全な形式での表示	289
128	MT - 最大 CPU 時間	291
129	NATLOG - Natural ログファイル	293
	例	294
130	NATVERS - Natural 環境間の切り替え	297
131	NC - Natural システムコマンドの使用	299
132	NCFVERS - NCF ファイルプロトコルバージョン	301
133	NL - 数値出力長	303
134	NOAPPLERR - メッセージ番号接頭文字 NAT の省略	305
135	OPF - ヘルプルーチンによる保護されたフィールドの上書き	307
136	OPRB - データベースのオープン/クローズ処理	309
	OPRB 文字列の構文	311
137	PARM - 代替パラメータファイル	313
138	PC - ピリオディックグループカウンタ	315
139	PCHECK - CALLNAT ステートメントのパラメータチェック	317
140	PERSIST - パラメータファイルのパーススタントフラグ	319
141	PM - 出力モード	321
	プロファイルパラメータ PM	322

セッションパラメータ PM	322
142 PRGPAR - 終了時に制御を受け取るプログラムに渡されるデータ	323
143 PROGRAM - セッション終了後に制御を受け取る Natural 以外のプログラム	325
144 PS - Natural レポートのページサイズ	327
145 PSIGNF - パック十進数の正記号の内部表現	329
146 RCFIND - FIND ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理	331
147 RCGET - GET ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理	333
148 RDACTIVE - リモートデバッガの有効化	335
149 RDNODE - リモートデバッガノード名	337
150 RDPORT - リモートデバッガポート	339
151 RDS - リモートディレクトリサーバーの定義	341
152 RECAT - ダイナミックな再カタログ	343
153 REINP - 不正データに対する内部的な REINPUT ステートメントの発行	345
154 ROSY - システムファイルへの読み取り専用アクセス	347
155 RTINT - ランタイム中断の許可	349
156 SA - サウンド端末アラーム	351
157 SB - 選択ボックス	353
構文上の考慮事項	354
ランタイムの考慮事項	355
158 SD - 2 画面間の時間遅延	357
159 SERVER - RPC サーバーセッションとしての Natural セッションの開始	359
160 SF - フィールド間の空白	361
161 SG - 符号桁	363
162 SM - ストラクチャードモードでのプログラミング	365
163 SNAT - 構文エラー時のベル	367
164 SORTSZE - ソートバッファのサイズ	369
165 SPODDEBUGPORT - SPoD でのデバッグ用のデバッガポート	371
166 SRETAIN - ソースのフォーマットの保持	373
167 SRVNAME - RPC サーバーの名前	375
168 SRVNODE - ノードの名前	377
169 SRVUSER - RPC サーバーレジストリ用のユーザー ID	379
170 SRVWAIT - RPC サーバーの待ち時間	381
171 SSIZE - エディタによって割り当てられるソースエリアのサイズ	383
172 STACK - スタックへのデータ/コマンドの配置	385
173 STARTUP - システム変数 *STARTUP のプログラム名	387
174 STEPLIB - *STEPLIB システム変数の初期設定	389
175 SUBCHAR - デフォルトコードページの置換文字	391
176 UTF8 - ソースの UTF-8 フォーマット	393
177 SYMGEN - シンボルテーブルの生成	395
178 SYNERR - 構文エラーの制御	397
179 TC - 末尾文字	399
180 TCU - Unicode 末尾文字	401
181 TD - 時差	403
182 TF - データベース ID/ファイル番号の変換	405
183 THSEP - ダイナミック千桁単位セパレータ	407

184 THSEPCH - 千桁単位セパレータ文字	409
185 TIMEOUT - RPC サーバーレスポンスに対する待ち時間	411
186 TMPSTORTUNIQU - ソートワークファイル名を生成するための代替アルゴリズム ム	413
187 TQ - 引用符の変換	415
188 TQMARK - 引用符の変換	417
189 TRACE - Natural RPC サーバーのトレースレベルの定義	419
190 TRANSP - サーバートランスポートプロトコル	421
191 TRYALT - 代替サーバーアドレスの試行	423
192 UC - 下線付き文字	425
193 UDB - ユーザーデータベース ID	427
194 ULANG - ユーザー言語	429
195 USEDIC - ディクショナリサーバーの共通論理名	431
196 USER - ユーザー ID	433
197 USEREP - リポジトリの使用	435
198 USIZE - ユーザーバッファのサイズ	437
199 WEBIO - Web I/O インターフェイスの使用	439
200 WFOFPA - ワークファイルのオープン	441
201 WH - ホールド状態でのレコードの待機	443
202 WORK - ワークファイルの割り当て	445
203 XADB - トランザクション処理調整用のデータベース	447
204 XREF - Natural 用の XRef データの作成	449
拡張 XRef データ生成 (内部使用のみ)	451
205 YSLW - 年スライド/固定ウィンドウ	453
206 ZD - ゼロ割り算のチェック	455
207 ZP - ゼロ出力	457
索引	459

1 パラメータリファレンス

このドキュメントには、Natural プロファイルおよびセッションパラメータに関する詳細情報が記載されています。次の項目で構成されています。

	プロファイルパラメータについて	プロファイルパラメータの使用方法に関する全般情報（関連ドキュメントへのリファレンスリストを含む）が記載されています。
	セッションパラメータについて	セッションパラメータの使用方法と評価に関する全般情報が記載されています。
	パラメータ（アルファベット順）	すべてのプロファイルパラメータとセッションパラメータについてアルファベット順で説明します。

パラメータの使用方法に関する全般情報については、『オペレーション』ドキュメントの「プロファイルパラメータの使用方法」を参照してください。

2 プロファイルパラメータについて

- プロファイルパラメータの使用方法 4
- 一般的なプロファイルパラメータとセッションパラメータの説明 4

次のトピックについて説明します。

プロファイルパラメータの使用方法

Natural プロファイルパラメータの使用方法は、Natural がサポートするプラットフォームによって異なるため、パラメータの使用方法に関する全般情報は対応するプラットフォーム固有のドキュメントに記載されています。

次のドキュメントを参照してください。

- 『オペレーション』ドキュメントの「プロファイルパラメータの使用方法」
- 『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「新しいパラメータファイルの作成」
- 『コンフィグレーションユーティリティ』の「プロファイルパラメータの概要」

一般的なプロファイルパラメータとセッションパラメータの説明

Natural プロファイルパラメータと同じ名前と機能を持つ Natural セッションパラメータが存在する場合、両方のパラメータの説明が 1 つのドキュメントにまとめて記載されています。

3 セッションパラメータについて

- セッションパラメータの使用方法 6
- セッションパラメータの設定方法 6
- セッションパラメータの評価 8

次のトピックについて説明します。

セッションパラメータの使用方法

Natural では、セッションパラメータを次のような目的で使用します。

- 特定の属性の指定
- 処理時間の制限の設定
- 特定の条件に対する特定の応答の設定
- 各種サイズ制限の設定
- さまざまな出力レポートの定義

これらのパラメータは、Natural のインストール時に Natural 管理者によって Natural の全ユーザーに有効なデフォルト値に設定されます。

セッションに適用されるパラメータ値を確認するには、システムコマンド GLOBALS を入力します（『システムコマンド』ドキュメントを参照）。

セッションパラメータの設定方法

Natural セッションパラメータは次のような方法で設定できます。

- Natural をインストールするときに、デフォルトパラメータファイル（NATPARM）で指定します。
- Natural を呼び出すときに、ダイナミックパラメータで指定します（Natural の『オペレーション』ドキュメントを参照）。
- システムコマンド GLOBALS で指定します。
- Natural スタジオの [ツール] メニューの [セッションパラメータ] コマンドで指定します。
- SET GLOBALS ステートメントで指定します（レポートモードのみ）。
- FORMAT ステートメントで指定します。
- INPUT、DISPLAY、WRITE などのステートメント内でパラメータを指定します（ステートメント内でパラメータも評価されます）。
- 端末コマンドで指定します。

パラメータ値 "ON" および "OFF" の代わりに、それぞれ "T" (true) または "F" (false) を指定することもできます。

セッションレベルでのセッションパラメータの変更 - GLOBALS コマンドの使用

Natural セッションでは、Natural 管理者が設定した一部のパラメータ値を変更できます。

Natural セッション内でこれらのパラメータを変更するには、次のシステムコマンドを発行します。

GLOBALS

GLOBALS コマンドを発行すると、現在のセッションに有効なパラメータ値を示した画面が表示されます。この画面で、要件に合わない値を変更できます。

GLOBALS コマンドで設定したパラメータ値は、再び GLOBALS コマンドを発行して変更しない限り、Natural セッションが終了するまで有効です（セッション中に保存する全オブジェクトに適用されます）。

プログラムレベルでのセッションパラメータの変更 - FORMAT ステートメントの使用

単一プログラム（レポート）の実行に対して特定のパラメータを変更できます。そのためには、プログラムで FORMAT ステートメントを使用して、これらのパラメータのセッション設定を上書きします。

FORMAT ステートメントの例：

```
FORMAT AL=10 HC=R
```

FORMAT ステートメントで設定したパラメータは、そのプログラムの別の FORMAT ステートメントで変更されない限り、プログラムの実行が終了するまで有効です。

セッションレベルで指定できなくてもプログラムレベルで指定できるパラメータがいくつかありますが、すべてのセッションパラメータをプログラムレベルで変更できるわけではありません。プログラムで指定可能なパラメータの大部分は出力レポートのフォーマットに関するパラメータです。

ステートメントレベルでのセッションパラメータの変更

FORMAT ステートメントで変更可能なパラメータの大部分は個々のステートメント（特に、DISPLAY、WRITE、INPUT、REINPUT など）でも変更できます。

この場合、ステートメント名の後ろにパラメータを（カッコで囲んで）指定します。

例：

セッションパラメータについて

```
DISPLAY (SF=4) NAME JOB-TITLE CURR-CODE SALARY
```

ステートメントレベルで設定したパラメータは、そのパラメータを指定したステートメントにのみ有効です。ステートメントレベルでの設定は、そのパラメータに対する他のレベルでのすべての設定をそのステートメントに対してのみ上書きします。

フィールドレベルでのセッションパラメータの変更

DISPLAY、WRITE、INPUT、またはREINPUTステートメント内で、個々のフィールドまたは出力項目ごとに変更できるパラメータもあります。

この場合、フィールド名の後ろにパラメータを（カッコで囲んで）指定します。

例：

```
DISPLAY NAME (AL=10) JOB-TITLE CURR-CODE SALARY
```

パラメータはそのフィールドにのみ有効になります。フィールドレベルでの設定は、そのパラメータに対する他のレベルでのすべての設定をそのフィールドに対してのみ上書きします。ただし、フィールドレベルで設定可能なパラメータは、ステートメントレベルで設定可能なパラメータの一部のみです。

セッションパラメータの評価

DISPLAY、FORMAT、PRINT、INPUT、REINPUT、WRITE、WRITE TITLE、WRITE TRAILERの各ステートメントで指定したパラメータはプログラムのコンパイル時に処理されるため、プログラムの対応するオブジェクトモジュールに含まれます。

評価には次の階層が使用されます。

1. エlement／フィールドレベルで設定されたパラメータ（優先度が最も高い）
2. ステートメントレベルで設定されたパラメータ
3. FORMAT ステートメントで設定されたパラメータ
4. デフォルトパラメータ設定（優先度が最も低い）

SET GLOBALS ステートメントでパラメータを設定した場合、実行時環境が変更されます。これらの変更は、別の SET GLOBALS ステートメント（または GLOBALS システムコマンド）によって上書きされるまで有効です。

4 ACIVERS - EntireX Broker ACI で使用する ACI バージョ ンの定義

この Natural プロファイルパラメータでは、EntireX Broker ACI で使用する API バージョンを指定します。使用されている Broker スタブ、および呼び出し先 EntireX Broker は、ここに定義された ACI バージョンをサポートしている必要があります。サポートされている API バージョンについては、EntireX ドキュメントを参照してください。ACIVERS の設定により、使用している API バージョンに応じて、EntireX Broker の特殊機能が有効になります。詳細については、Natural の『リモートプロシージャコール』ドキュメントの「*EntireX Broker Access* のセットアップ」を参照してください。

ACIVERS は、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

可能な設定	1 - 9	1桁の数字。 上位バージョンでは、さらに多くの機能を使用できます。
デフォルト設定	2	API バージョン 2 が使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

5 ACTPOLICY-DCOM クラスのデフォルトアクティベーションポリシーの定義

この Natural プロファイルパラメータでは、DCOM クラスのデフォルトのアクティベーションポリシーを定義します。REGISTER コマンドにより DCOM クラスとして Natural クラスが登録される場合に評価されます。

可能な設定	ES	外部的な単一アクティベーションが実行されます。
	EM	外部的な複数アクティベーションが実行されます。
	IM	内部的な複数アクティベーションが実行されます。
デフォルト設定	EM	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

6 AD - 属性定義

▪ AD パラメータの構文	14
▪ フィールド表現	15
▪ フィールド揃え	16
▪ フィールド入力／出力特性	16
▪ 英数字フィールドの解釈	18
▪ 必須入力	18
▪ 入力値の長さ	18
▪ フィールド大文字／小文字特性	19
▪ 充填文字	19

このセッションパラメータで、フィールド／エレメントレベルまたはステートメントレベルでフィールド属性を指定します。

関連セッションパラメータ：[CD](#) - カラー定義

可能な設定	下記参照	複数の属性を任意の順序で指定できます。
デフォルト設定	下記参照	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	DISPLAY INPUT NEWPAGE WITH TITLE PRINT REINPUT WRITE WRITE TITLE WRITE TRAILER	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	ASSIGN CALLNAT CALLDBPROC COMPUTE MOVE OPEN DIALOG PERFORM SEND EVENT SEND METHOD	パラメータはエレメントレベルで指定できます。ただし、使用できるのは、関連ステートメント記述に指定された属性のみです。
適用可能なコマンド：	なし	

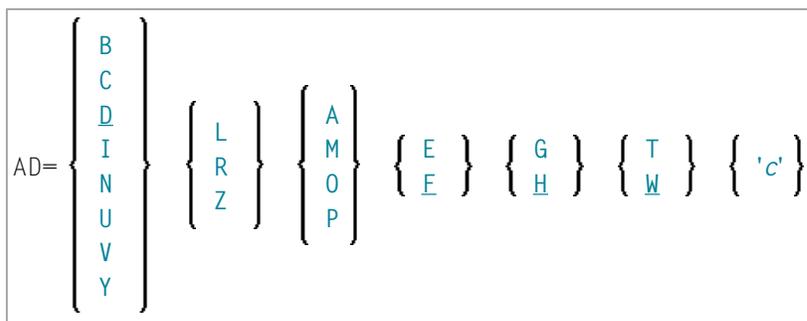
 **Note:** AD パラメータはファンクションコールでも指定できます。ただし、使用できるのは、「ファンクションコール」セクションで指定されている属性のみです。

以下では次のトピックについて説明します。

AD パラメータの構文

```
AD=[field-representation] [field-alignment] [field-i/o-characteristics]
[interpretation-of-alphanumeric-fields] [mandatory-input] [input-value-length]
[field-upper/lower-case] [filler-character]
```

複数の属性を任意の順序で指定できます。可能な値は次のとおりです。



属性および有効な値の意味を次に説明します。

例：

```
DISPLAY #FIELD A (AD=R)
INPUT #FIELD B (AD=M)
INPUT (AD=IM) #FIELD A #FIELD B
```

フィールド表現

値	意味	ステートメント	説明
B	点滅 (*)	ASSIGN	フィールドの値は点滅（ブリンク）して表示されます。
C	手書き／斜体 (*)	COMPUTE	フィールドの値はイタリックで表示されます。
D	デフォルトの輝度	MOVE DISPLAY FORMAT	フィールドの値は標準輝度で表示されます（つまり、強調表示されない）。これはデフォルト値です。
I	高輝度	INPUT	フィールドの値は高輝度で表示されます。
N	非表示	PRINT	フィールドに入力した値は表示されません。
U	下線付き	REINPUT	フィールドの値は下線付きで表示されます。
V	反転表示 (*)	WRITE	フィールドの値は反転して表示されます。
Y	ダイナミック属性	INPUT DISPLAY PRINT WRITE	属性制御変数（フォーマットC）を使用して属性を制御することを示します。

アスタリスク () の付いたフィールド表現属性では対応するハードウェア機能が必要です。これらの機能がないと、ランタイムに無視されます。

フィールド揃え

値	意味	ステートメント	説明
L	左詰め	DISPLAY FORMAT	フィールドの値は左詰めに表示されます。英数字フィールドのデフォルト値です。
R	右詰め	INPUT PRINT REINPUT	フィールドの値は右詰めに表示されます。数値フィールドのデフォルト値です。
Z	先頭のゼロ	WRITE	数値は先頭にゼロを付けて右詰めに表示されます。

フィールド入力／出力特性

値	意味	ステートメント	説明
A	入力フィールド、非保護	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドの値を入力します。これはデフォルト値です。
	入力のみ	CALLNAT CALLDBPROC OPEN DIALOG PERFORM SEND EVENT SEND METHOD ファンクション コール	<p>AD=A でパラメータをマークすると、その値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアードプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）に渡されませんが、呼び出し先オブジェクトからの値を受け取ります。</p> <p>呼び出し先オブジェクトのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたフィールドの場合、呼び出し元オブジェクトは値を受け取ることができません。この場合、AD=A では、オブジェクトが呼び出される前に、フィールドを個々のフォーマットの低い値（英数字には空白、バイナリにはバイナリゼロ、および数値フィールドにはゼロ）にリセットするだけです。</p> <p>CALLNAT の場合、AD=A は、クライアント／サーバー環境で Natural RPC 経由で実行されたりリモートサブプログラムにおいて、送信されたデータの負荷を軽減するために役立つことがあります。サブプログラムがローカルに実行される場合、AD=A フィールドは、オブジェクトが呼び出される前に、個々のフォーマットの低い値にリセットされます。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは初期化された変形として渡されます。外部コンポーネントが値を返すことができるかどうかは、外部コンポーネントのドキュメントに記載されています。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
M	出力フィールド、変更可能	INPUT FORMAT	フィールドの値は INPUT ステートメントの実行中に表示され、ユーザーはこの値を変更できます。フィールドは変更可能な出力フィールドです。

値	意味	ステートメント	説明
	変更可能	CALLNAT CALLDBPROC OPEN DIALOG PERFORM SEND EVENT SEND METHOD ファンクション コール	<p>デフォルトでは、パラメータの渡された値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアードプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）で変更できます。また、変更した値を呼び出し元オブジェクトに戻すことができます。ここで元の値を上書きします。</p> <p>呼び出し先オブジェクトのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたフィールドの場合、値は戻されません。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは BY REFERENCE で渡されます。外部コンポーネントが参照パラメータごとに受け入れるのか値パラメータごとに受け入れるのかについては、外部コンポーネントのドキュメントを参照してください。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
0	出力フィールド、書き込み保護	INPUT FORMAT	フィールドの値は INPUT ステートメントの実行中に表示されます。フィールドは変更不可の出力フィールドです。
	変更不可	CALLNAT CALLDBPROC OPEN DIALOG PERFORM SEND EVENT SEND METHOD ファンクション コール	<p>AD=0 でパラメータをマークした場合、渡された値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアードプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）で変更できますが、変更した値を呼び出し元オブジェクトに戻すことはできません。つまり、呼び出し元オブジェクトのフィールドには元の値が維持されます。</p> <p>内部的に、AD=0 は BY VALUE と同じ方法で処理されます（DEFINE DATA ステートメントの説明の「パラメータデータ定義」セクションを参照）。</p> <p>SEND METHOD では、メソッドが Natural で実装される場合、パラメータは、メソッドのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたように処理されます（INTERFACE ステートメントの説明の「PARAMETER 節」セクションを参照）。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは BY VALUE で渡されます。外部コンポーネントが参照パラメータごとに受け入れるのか値パラメータごとに受け入れるのかについては、外部コンポーネントのドキュメントを参照してください。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
P	一時保護	INPUT REINPUT	属性制御変数（フォーマット C）、DY パラメータ（ダイナミック属性）、REINPUT ステートメントとともに使用します。



Note: AD パラメータのフィールド入出力特性 A、M、および 0 は、ファンクションコールでも指定できます。

英数字フィールドの解釈

値	意味	ステートメント	説明
Q	英数字フィールドを数値フィールドのように表示します。	ASSIGN COMPUTE MOVE DISPLAY FORMAT INPUT PRINT REINPUT WRITE	この属性はメインフレームコンピュータでのみ利用可能です。対応するハードウェア機能が必要です。 英数字フィールドは、数値フィールドのように解釈されます。フィールドがプロファイルパラメータまたはセッションパラメータ PM=I の範囲内で表示された場合、フィールドの値は、右から左へではなく、左から右へ解釈されます。

必須入力

値	意味	ステートメント	説明
E	必須入力	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドに値を入力する必要があります。入力がない場合、エラーメッセージが発行されます。これは入力専用フィールド (AD=A) のみに関連しています。
F	任意入力	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドに値を入力できます。ただし、入力しなくてもかまいません。これはデフォルト値です。

入力値の長さ

値	意味	ステートメント	説明
G	値のサイズ	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応して入力する値は、フィールド長と同じにする必要があります。これは入力専用フィールド (AD=A) のみに関連しています。
H	値のサイズ	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応して入力する値は、フィールド長より短くてもかまいません。これはデフォルト値です。

フィールド大文字／小文字特性

値	意味	ステートメント	説明
T	小文字から大文字への変換	INPUT FORMAT	入力値は大文字に変換されます。
W	小文字可	INPUT FORMAT	小文字の値を入力できます。AD=W を有効にするには、Natural プロファイルパラメータ LC に値 "ON" を指定する必要があります。これはデフォルト値です。

充填文字

値	意味	ステートメント	説明
'c'	充填文字	INPUT FORMAT	AD=A（入力フィールド、非保護）またはAD=M（出力フィールド、変更可能）が指定されている場合、空フィールドに文字 c が充填されます（表示のみ）。

値が変更可能フィールド（AD=M）に表示される前に、値で占有されていないフィールド位置は、次のように特定の充填文字で充填されます。

- フォーマット I、N、および P フィールドの場合、先頭位置または末尾位置（フィールド揃えに基づく）が充填されます。
- フォーマット A フィールドの場合、末尾位置が充填されます。

ユーザーが INPUT ステートメントに対応して値を入力すると、値がフィールドに割り当てられる前に、次のようになります。

- フォーマット I、N、および P フィールドの場合は先頭および末尾の充填文字の両方が削除されます。
- フォーマット A フィールドの場合は末尾の充填文字が削除されます。

 **Caution:** 先頭位置または末尾位置の値の一部として存在する可能性のある充填文字は、予期しない結果が生じないように避ける必要があります。例えば、充填文字「0」（ゼロ）をフォーマット N5 のフィールドに定義し、値 "00100" を入力データとして入力した場合、先頭のゼロと末尾のゼロが削除され、残った値 "1" のみがフィールドに割り当てられるようになります。同様の理由で、マイナス記号「-」を数値フィールドの充填文字として使用することは避ける必要があります（負の値が入力されるため）。

7 AL - 英数字フィールド出力長

このセッションパラメータでは、英数字フィールドのデフォルト出力長を指定します。指定した値がフィールド長より短い場合、右側が切り捨てられます。

可能な設定	1~ n	n は LS (行サイズ) パラメータから 1 を引いた値
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	なし	

Notes:

1. INPUT ステートメントの入力フィールド (属性定義 AD=A または AD=M) に AL セッションパラメータを使用することはお勧めしません。
2. フィールドに編集マスク (セッションパラメータ EM を参照) と AL セッションパラメータの両方が指定されている場合は、編集マスクが優先されます。

例:

```
FORMAT AL=20
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

8 AUTO - 自動ログオン

この Natural プロファイルパラメータを使用すると、Natural セッションの開始時に特定のライブラリに自動的にログオンします。

可能な設定	ON	Natural セッションの開始時に自動ログオンが実行されます。
	OFF	自動ログオンは実行されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

プロファイルパラメータ `INIT-LIB` の設定は、ログオンのライブラリ ID として使用されます。

 **Note:** Natural Security で `AUTO=ON` を使用した場合、他のユーザー ID でのログオンができなくなり、`INIT-LIB` パラメータは評価されません（詳細については、『Natural Security』ドキュメントを参照）。

9 AUTOREGISTER - レジストリの自動更新

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural クラスがカタログされるたびに、DCOM クラスとして登録するかどうかを決定します。代わりに、Natural クラスはシステムコマンド REGISTER を使用して手動で登録することもできます。このパラメータは NaturalX で使用されます。

可能な設定	ON	レジストリは自動的に更新されます。
	OFF	レジストリは自動的に更新されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

10 AUTORPC - Natural RPC の自動実行

このNatural プロファイルパラメータでは、Natural RPCが、ローカルに（クライアントサイドで）検出されなかったサブプログラムを自動的にリモートに（サーバーサイドで）実行しようとするかどうかを決定します。詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントの「スタブおよびRPC 自動実行」を参照してください。

AUTORPC はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	ON	Natural RPC は、自動的にリモートで実行しようとします。
	OFF	Natural RPC は、自動的にリモートで実行しようとしません。 AUTORPC=OFF を指定した場合、スタブを使用してリモートに CALLNAT を実行できます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	ランタイムに、SYSRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用してこの値を上書きできます。

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

11 BATCH - バッチモードシミュレーション

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural を開始するときに、システム変数 *DEVICE を "BATCH" に設定します。

可能な設定	ON	プロファイルパラメータ BATCH を設定して Natural を開始すると、エラーメッセージは表示されませんが、ログファイルに書き込まれます。ログファイルは、 <i>natbatch.log</i> という名前で Natural バイナリディレクトリに保存されます。
	OFF	エラーメッセージは表示されますが、ログファイルには書き込まれません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

Natural をバッチモードで実行するには、パラメータ BATCH の代わりに **BATCHMODE** を使用してください。

12 BATCHMODE - バッチモード

このNatural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。Naturalを開始するときに、バッチモードを有効にし、システム変数 *DEVICE を "BATCH" に設定します。

可能な設定	ON	Natural はバッチモードで実行されます。
デフォルト設定	OFF	Natural は対話式モードまたはバッチモードシミュレーションで実行されま す。
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

13 BMBLANK - 末尾の空白の表示

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

バッチ出力ファイル **CMPRINT** の末尾の空白の表示を制御するために使用します。

このパラメータは、パラメータ **BMSIM** が "MF" に設定されている場合にのみ適用されます。BMSIM が "MF" に設定されている場合、末尾の空白が自動的に生成されます。BMSIM が "OS" または "VM" に設定されている場合、BMBLANK は無効です。

可能な設定	ON	末尾の空白は CMPRINT に書き込まれます。
	OFF	末尾の空白は CMPRINT に書き込まれません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

14 BMCONTROL - 制御文字の表示

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

バッチ出力ファイル **CMPRINT** の制御文字（フォームフィード、改行など）の出力を制御します。

可能な設定	ON	制御文字は CMPRINT に書き込まれます。
	OFF	制御文字は CMPRINT に書き込まれません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

15 BMFRAME - ウィンドウフレーム文字

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

このパラメータでは、バッチ出力ファイル **CMPRINT** に書き込まれるウィンドウフレーム文字を定義できます。

一連の 6 文字を指定します。

可能な設定	6 文字	文字の位置：	表示：
		1	水平バー
		2	垂直バー
		3	左上角
		4	右上角
		5	左下角
		6	右下角
デフォルト設定	-!++++		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		

例：

次のフレームを定義するには、BFRAME=123456 を指定する必要があります。

```
3111111111114  
2          2  
2          2  
5111111111116
```

16 BMSIM - バッチモード類似出力

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

バッチモード出力ファイル `CMPRINT` の全体的な概観のために使用します。

可能な設定	MF	Natural for Mainframe バージョン 2.3 と同様に出力されます。CMPRINT の各行は末尾の空白で充填されます。	
		制御文字は CMPRINT の各行の先頭に表示されます。制御文字コードは IBM 制御文字オプション ASA に類似しています。	
		次の制御文字コードが使用されます。	
		制御コード	解釈
		空白	制御文字なしの標準出力行
		0	空白行を 1 行挿入
		-	空白行を 2 行挿入
	+	この行を 2 回出力 (太字出力)	
	1	この行を出力する前にフォームフィード	
	VM	Natural for OpenVMS バージョン 2.1 と同様に出力されます。	
		次の制御文字コードが使用されます。	
		制御コード	解釈
		\n	この行を出力する前に改行
\f		この行を出力する前にフォームフィード	
バッチコマンドファイル <code>CMSYNIN</code> に FIN コマンドが指定されていない場合、それが生成されます。			
OS	Natural for UNIX または OpenVMS と同様に出力されます。		
	次の制御文字コードが使用されます。		

		制御コード	解釈
		\n	この行を出力する前に改行
		\f	この行を出力する前にフォームフィード
デフォルト設定	OS		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		

17 BMTIME - 処理時間の表示

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

Natural 処理に費やされた経過時間および CPU 時間を表示するために使用します。この出力はバッチ出力ファイル `CMPRINT` の末尾に書き込まれます。

可能な設定	ON	経過時間および使用された CPU 時間はバッチ出力ファイルの末尾に書き込まれます。
	OFF	出力はバッチ出力ファイルに書き込まれません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

時間のフォーマットは次のとおりです。

`DDDxHH:II:SS.UU`

上記の意味は次のとおりです。

- `DDD` は日数（最大 999）です。
- `DDD` が 999 以下の場合、`x` は空白です。
または `DDD` が 999 を超過する場合は "+"（プラス記号）です。
- `HH` は時間数です。
- `II` は分数です。
- `SS` は秒数です。
- `UU` は 100 分の 1 単位の秒数です。

例：

```
Used CPU time:  0 00:00:00.56  
Elapsed time:  0 00:00:16.20
```

18 BMTITLE - ウィンドウタイトルの表示

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

バッチ出力ファイル **CMPRINT** のウィンドウタイトルの表示を制御するために使用します。

可能な設定	ON	ウィンドウタイトルは CMPRINT に表示されます。
	OFF	ウィンドウタイトルは CMPRINT に表示されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

19 BMVERSION - Natural バージョンの表示

この Natural プロファイルパラメータは、起動時間および終了時間を含む Natural バージョンの表示を制御するために使用します。

可能な設定	ON	Natural バージョンおよび起動時間はバッチ出力ファイル CMPRINT の先頭行に書き込まれ、終了時間は CMPRINT の末尾に書き込まれます。
	OFF	Natural バージョンおよび起動時間は CMPRINT には書き込まれません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

20 BPID - バッファプール ID の指定

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural バッファプールの名前 (ID) を指定します。

可能な設定	1~8 文字	Natural バッファプールの名前。
デフォルト設定	NATBP	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



Note: デフォルトのバッファプール「NATBP」は削除しないでください。削除すると、Natural が正常に機能しなくなる可能性があります。

21 BPID2 - セカンダリバッファプールの指定

この Natural プロファイルパラメータでは、セカンダリバッファプールの名前 (ID) を指定します。

プライマリバッファプールとして読み取り専用バッファプールを使用して Natural を実行している場合、読み取り専用バッファにないオブジェクトはロードできません。これを回避するには、Natural を実行時にセカンダリ標準バッファプール (読み取り / 書き込みアクセス可能) に接続し、そこで不明オブジェクトをアクティブにします。詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「セカンダリ読み取り / 書き込みバッファプール」を参照してください。

可能な設定	1~8 文字	セカンダリバッファプールの名前。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

22 BPNAME - Natural グローバルバッファプールの名前

前

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural グローバルバッファプールの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字または空白	Natural グローバルバッファプールの名前。 BPNAME=' ' (空白) を設定した場合、ローカル Natural バッファプールが使用されます。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

23

BPSFI-バッファプール内のオブジェクトを最初に

検索

この Natural プロファイルパラメータでは、実行対象のオブジェクトが要求されたときにバッファプール内およびシステムファイル内を検索する順序を決定します。

次の2つの検索順序を選択できます。

可能な設定	ON	<p>検索順序1が使用されます。すべてのライブラリについて、最初にバッファプール内を検索され、次にシステムファイル内を検索されます。</p> <p>オブジェクトは見つかるまで次の順序で検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. バッファプールで、最初に現在のライブラリが検索され、次に STEPLIB が順番に検索されます。その後、2つの SYSTEM ライブラリが検索されます。2. システムファイルで、最初に現在のライブラリが検索され、次に STEPLIB が順番に検索されます。その後、2つの SYSTEM ライブラリが検索されます。 <p>パフォーマンス上の理由で、実稼働環境では BPSFI=ON を設定することをお勧めします。</p> <p>注意: BPSFI=ON を設定する場合、検索対象のすべてのライブラリでオブジェクト名が一意であることを確認してください。検索対象の複数のライブラリに同名のオブジェクトが存在する場合、予期しない結果が生じることがあります。</p>
	OFF	<p>検索順序2が使用されます。各ライブラリについて、バッファプール内とシステムファイル内が交互に検索されます。</p> <p>オブジェクトは見つかるまで次の順序で検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 現在のライブラリで、最初にバッファプール内を検索され、次にシステムファイル内を検索されます。2. 各 STEPLIB で、最初にバッファプール内を検索され、次にシステムファイル内を検索されます。

		<p>3. 2つの各 SYSTEM ライブラリで、最初にバッファプール内が検索され、次にシステムファイル内が検索されます。</p> <p>開発環境で、現在の独自ライブラリから最新のオブジェクトを確実に取得するには、BPSFI=OFF を設定することをお勧めします。</p>
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* スタジオの使用』ドキュメントの「*Steplib*」および「オブジェクト実行の検索順序」を参照してください。

24 CC-バッチモードでのエラー処理

このNatural プロファイルパラメータでは、バッチモードでのNatural プログラムのコンパイル／実行中にエラーが検出された場合の処理を指定します。このパラメータはバッチモードにのみ適用されます。

ユーザー記述のエラー処理ルーチンを使用している場合は適用されません。

可能な設定	ON	Natural は、先頭2桁が%%の行が見つかるまで、またはエンドオブファイル条件になるまで、バッチ入力ファイル CMSYNIN および CMOBJIN に対する入力データストリームをフラッシュします。入力ストリームにデータがまだ存在する場合、Natural は %% を含む行の後から再びデータを読み込みます。	
	OFF	Natural は入力ストリームの次のプログラム（またはコマンド）を処理しようとしています。 すべての入力が処理されると、Natural はリターンコード 61 で終了し、Natural エラー 9987（実行／コンパイル中にエラーが発生）をバッチ出力ファイルに書き込みます（プロファイルパラメータ ENDMSG が "ON" に設定されている場合）。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定			
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	
		適用可能なコマンド：	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

25 CD - カラー定義

このセッションパラメータでは、フィールドのカラー属性を指定します。カラー画面を使用しない場合、このパラメータはランタイムに無視されます。

関連セッションパラメータ：AD - 属性定義

可能な設定	BL	青
	GR	緑
	NE	デフォルト色
	PI	ピンク
	RE	赤
	TU	空色
	YE	黄色
デフォルト設定	NE	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	ASSIGN MOVE REINPUT	パラメータはステートメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

例：

INPUT (CD=RE) #A #B

26 CDYNAM - Natural 以外のプログラムのダイナミックロード

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural によって Natural 以外のプログラムをダイナミックにロードするかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural プログラムの実行中、任意の数の Natural 以外のプログラムをダイナミックにロードできます。
	OFF	Natural によって Natural 以外のプログラムのダイナミックロードは実行されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

27 CF - 端末コマンドの文字

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Natural 端末コマンドの先頭に使用する文字（制御文字）を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ CF をセッションパラメータ CF で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	<p>端末コマンドは指定文字で開始する必要があります。CF パラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ HI パラメータ（ヘルプ文字）または IA パラメータ（INPUT 割り当て文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ DC パラメータ（小数点文字）または ID パラメータ（INPUT 区切り文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ マップエディタでは、CF パラメータで定義された文字に関係なく、端末コマンドの制御文字は（マップで使用されるデリミタ文字とのコンフリクトを避けるため）常に「%」です。 	
	OFF	<p>端末コマンドに制御文字は使用できません。ただし、SET CONTROL ステートメントで端末コマンドを発行することはできます。</p>	
デフォルト設定	%	<p>端末コマンドは「%」で始める必要があります。</p>	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	<p>『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。</p>	

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

28

CLEAR - NEXT モードでの CLEAR キーの処理

NEXT モードでプログラムを実行中に CLEAR キーが押されると、Natural で特定の Natural 端末コマンドが実行されるようになります。

可能な設定	任意の文字	デフォルトの処理を変更するには、端末コマンド制御文字 (CF パラメータで指定した文字) の後に追加したときに有効な Natural 端末コマンドとなる文字を、このパラメータ値として指定します。 例： CF=% CLEAR=R NEXT モードで CLEAR キーが押されると、Natural では端末コマンド %R を実行します。
デフォルト設定	%	デフォルトでは、CLEAR キーが押されると、Natural ではユーザーが端末コマンド %% を入力した場合と同じ処理を実行します。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

29 CM-コマンドモード

この Natural プロファイルパラメータは、Natural コマンドモード（NEXT および MORE）を抑制するために使用します。

可能な設定	ON	NEXT および MORE は、コマンド入力に有効です。
	OFF	NEXT になると、Natural セッションは終了します。MORE 行は、書き込み保護（入力不可能）されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	no	
セッション内の指定	不可	

30 イル

CMOBBIN - Natural INPUT データ用のバッチ入力ファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

Natural の INPUT ステートメントによって読み込まれるデータ用に使用されます。または、これらのタイプのデータは、関連する RUN または EXECUTE コマンドの直後に CMSYNIN ファイルに配置できます。実際に処理される文字数は、1 行当たり 512 文字に制限されています。



Note: このパラメータに指定するファイル名またはパスに特殊文字（バックスラッシュなど）やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMOBBIN="C:\tmp\data.txt"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

プロファイルパラメータ **CMSYNIN** の設定が **CMOBBIN** の設定と等しい場合、Natural は **CMSYNIN** から入力を読み込みます。

エラーが発生した場合、Natural はプロファイル/セッションパラメータ **CC** の設定に従って対応します。

31 CMPRINT - バッチ出力ファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

Natural プログラムの DISPLAY、PRINT、および WRITE ステートメントによる出力レポート用のバッチ出力ファイルを指定するために使用します。また、CMSYNIN からの Natural コマンド、および CMOBJIN からの INPUT データが CMPRINT に書き込まれます。



Note: このパラメータに指定するファイル名またはパスに特殊文字（バックスラッシュなど）やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMPRINT="C:\tmp\out.txt"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

32 CMPRTnn - 追加レポート

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

セッション中に実行される任意の Natural プログラムによって参照される追加レポート用に使用されます。 *nn* は、01~31 の 2 桁の 10 進数で、DISPLAY、PRINT、および WRITE ステートメントのレポートで使用される LPT デバイスに対応します。

可能な設定	任意の文字列	このパラメータに割り当てられたファイル名またはパスにバックslash (\) やスペースなどの特殊文字が含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。 例： CMPRT07="C:\tmp\report7.txt"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ユーザーが可変の出力ファイル名を指定できるようにするには、英字フォーマットのシステム変数および数値カウンタマーカを CMPRT*nn* のファイル名指定に埋め込むことができます。

サポートされている英字フォーマットのシステム変数は次のとおりです。

- *APPLIC-ID
- *APPLIC-NAME
- *DEVICE
- *ETID
- *INIT-USER
- *LIBRARY-ID
- *NET-USER
- *PID
- *PROGRAM

*USER
*USER-NAME

これらの文字列（大文字のみ）のいずれかが出力ファイル指定内で検出されると、ランタイムに適切なシステム変数の内容に置き換えられます。また、カウンタマーカ（#）が使用されることもあります。これは、各出力ファイルに対して自動的に増分される2桁のカウンタによって置き換えられます。

例：

ファイル出力をファイル 01 に生成する PRINT という名前のプログラムを実行している Natural セッション（プロセス ID 1234、ETID XYZ）で CMPRT01=abc_*PID_*ETID_*PROGRAM#.dat を指定した場合、次の名前の出力ファイルが生成されます（プログラムを3回実行したと仮定した場合）。

```
abc_1234_XYZ_PRINT_01.dat  
abc_1234_XYZ_PRINT_02.dat  
abc_1234_XYZ_PRINT_03.dat
```

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの*Natural*の使用」も参照してください。

33 CMSYNIN - Natural コマンドおよび INPUT データ用のバッチ入力ファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

CMSYNIN は、バッチ入力ファイル用に使用されます。Natural プログラムの実行中に INPUT ステートメントによって読み込まれる Natural コマンドとデータを含みます（オプション）。実際に処理される文字数は、1 行当たり 512 文字に制限されています。

 **Note:** このパラメータに指定するファイル名またはパスにバックスラッシュ (\) などの特殊文字やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMSYNIN="C:\tmp\cmd.txt"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの Natural の使用」も参照してください。

34 CMWRKnn - Natural ワークファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

CMWRKnn は、セッション中に実行される任意の Natural プログラムによって参照される Natural ワークファイル用に使用されます。

nn は、01~32 の 2 桁の 10 進数で、READ WORK FILE または WRITE WORK FILE ステートメントで使用される番号に対応します。

 **Note:** このパラメータに指定するファイル名またはパスにバックスラッシュ (\) などの特殊文字やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMWRK05="C:\tmp\workfile5.sag"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの Natural の使用」も参照してください。

35 COMPR - RPC バッファ圧縮の設定

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、RPC バッファ圧縮を設定するために使用します。自動的な Natural RPC 実行が使用されており (AUTORPC=ON)、スタブなしで CALLNAT が実行される場合にのみ有効です。スタブが使用される場合は、圧縮はスタブ生成中にすでに設定されています。詳細については、Natural の『リモートプロシージャコール』ドキュメントの「圧縮の使用」を参照してください。

COMPR はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	0	圧縮は実行されません。
	1	送信バッファには、変更可能なフィールドと出力フィールドおよびフォーマットバッファが含まれます。返信バッファには、変更可能なフィールドと入力フィールドが含まれます。
	2	COMPR=1 と同様、さらに返信バッファにもフォーマットバッファが含まれます。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	このパラメータの設定は、GLOBAL Sシステムコマンドを使用して変更できます。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

36 COMSERVERID - DCOM サーバー ID の決定

この Natural プロファイルパラメータは、（NaturalX で使用される）DCOM サーバー名を決定するために使用します。

可能な設定	指定なし、または 1～32 文字	DCOM サーバー名。
デフォルト設定	指定なし	COMSERVERID を指定しなかった場合、デフォルトのサーバー名 "DEFAULT" が使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

37 CP - デフォルトのコードページ名

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural データのデフォルトのコードページを定義します。すべてのコードページデータ（Natural ソース、A フォーマットフィールドの内容など）がこのコードページフォーマットで保存されると想定されます。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	目的のコードページの名前です。
	' ' (空白)	システムのコードページにリセットします。
デフォルト設定	' ' (空白)	システムのコードページです。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

38

CPCVERR - コードページ変換エラー

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、次の変換時に発生する変換エラーが Natural エラーにつながるかどうかを指定します。

- Unicode からコードページへの変換
- コードページから Unicode への変換
- あるコードページから別のコードページへの変換

いずれにしても、変換後には、ターゲットオペランドに変換結果が格納されます。この変換結果では、関連するコードページについて、変換できないすべての文字が、ICU で定義された置換文字で置き換えられます。このパラメータは、Natural ソースの変換（ソースエリアへのロード時、またはカタログ時）には関係しません。

メインフレームプラットフォームでは、端末エミュレーションの I/O の前に Unicode フィールドがコードページに変換されたとは見なされません。この場合、置換文字は NATCONFIG で定義されたプレースホルダ文字に置き換えられます。

以下の項目も参照してください。

- 『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」



Note:

可能な設定	ON	ICU 変換時に 1 つ以上のコードポイントが正しく変換されなかった場合、Natural エラー NAT3413 が発行されます。
	OFF	ICU 変換時に 1 つ以上のコードポイントが正しく変換されなくても、エラーは生成されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント： SET GLOBALS

	適用可能なコマンド：	GLOBALS
--	------------	---------

39 CPOBJIN - バッチ入力ファイルのコードページ

この Natural プロファイルパラメータでは、**CPOBJIN** で定義されるバッチ入力ファイルのコードページを指定します。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	ICU コードページ名 (IANA 名を推奨)。
	' ' (空白)	システムのコードページにリセットします。
デフォルト設定	' ' (空白)	システムのコードページです。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

40 CPPRINT - バッチ出力ファイルのコードページ

この Natural プロファイルパラメータでは、**CMPRINT** で定義されるバッチ出力ファイルのコードページを指定します。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	ICU コードページ名 (IANA 名を推奨)。
	' ' (空白)	システムのコードページにリセットします。
デフォルト設定	' ' (空白)	システムのコードページです。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

41 CPRPC - コードページ名の定義

この Natural プロファイルパラメータでは、Entire Conversion Service (ECS) で使用されるコードページの名前を決定します。現在、トランスポートプロトコル ACI (EntireX Broker) が使用されるとき、Natural RPC 機能にのみ適用されます。

ECS および EntireX Broker の詳細については、EntireX Broker ドキュメントの Software AG の国際化に関するセクションを参照してください。

『Unicode およびコードページのサポート』の「Unicode / コードページ環境の設定と管理」の「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~40 文字	Entire Conversion Services の有効なコードページ名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

42 CPSYNIN-コマンド用のバッチ入力ファイルのコードページ

このNatural プロファイルパラメータでは、**CMSYNIN** で定義されるコマンド用バッチ入力ファイルのコードページを指定します。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	ICU コードページ名 (IANA 名を推奨)。
	' ' (空白)	システムのコードページにリセットします。
デフォルト設定	' ' (空白)	システムのコードページです。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

43 CV - 属性制御変数

このセッションパラメータは、属性制御変数を参照するために使用します。属性制御変数はフォーマットC（『プログラミングガイド』の「特別なフォーマット」）で定義され、フィールド属性をダイナミックに割り当てるために使用されます。

可能な設定	B、C、D、I、N、U、V	フィールド表現属性（セッションパラメータ AD を参照）。
	P	フィールド保護（セッションパラメータ AD を参照）。
	BL、GR、NE、PI、RE、TU、YE	カラー（カラーコードの詳細については、セッションパラメータ CD を参照）。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント：	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #ATTR(C)
1 #A (N5)
END-DEFINE
...
MOVE (AD=I CD=RE) TO #ATTR
```

```
INPUT #A (CV=#ATTR)  
...
```

IF ステートメントの MODIFIED オプションを指定することで、属性制御変数を使用して、フィールドの内容が INPUT ステートメントの実行時に変更されたかどうかをチェックできます。

```
IF #ATTR MODIFIED ...
```

単一の属性制御変数を複数の入力フィールドに適用できます。そのためには、ステートメントレベルで1回指定するか、エレメントレベルで複数回指定します。この場合、制御変数を参照しているフィールドが変更されると、「modified」ステータスインジケータが設定されます。ステートメントレベルとフィールドレベルの両方で CV パラメータが指定され、個々のフィールドの属性制御変数が空の場合、フィールドにはステートメントの属性制御変数が使用されます。

属性制御変数は、対応する配列のランクに応じて、最大3次元まで拡張できます（例えば、CONTR(*)、CONTR(*,*)、CONTR(*,*,*)）。

44 CVMIN - 入力時に変更された制御変数

このNaturalプロファイルパラメータでは、属性制御変数が付加されているフィールドの設定が同じ設定で上書きされたときに属性制御変数に MODIFIED ステータスを割り当てるかどうかを決定します。属性制御変数に MODIFIED ステータスが割り当てられた場合、MODIFIED オプションはこれを TRUE として評価します。これは、入力が手動によるものか、スタックからの読み込みによるものか、またはバッチモードでの指定によるものかに関係なく、適用されます。

可能な設定	ON	フィールド設定が同じ設定で上書きされた場合、対応する制御変数に MODIFIED ステータスが割り当てられます。
	OFF	フィールド設定が同じ設定で上書きされた場合、対応する制御変数に MODIFIED ステータスは割り当てられません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

45 DBSHORT - データベースショートネームの解釈

このNaturalプロファイルパラメータは、データベースショートネームを表示するかどうかを決定するために使用します。

可能な設定	ON	ショートネームは表示されます。
	OFF	ショートネームは表示されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	システムコマンド <code>COMPOPT</code> を参照してください。

46 DBUPD - データベース更新

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッション中にデータベース更新を許可するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	データベース更新は許可されます。
	OFF	データベース更新は許可されません。データベースを更新する Natural ステートメント (STORE、UPDATE、DELETE) は実行されず、エラーメッセージが返されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR1042N*	

DBUPD 設定は、Natural システムコマンドの実行には影響しません。

47 DC - 小数点表記の文字

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、小数点表記に使用する文字を決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DC をセッションパラメータ DC で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	DC に割り当てる文字は、変数、定数、編集マスクなど小数点が可能なすべての表記に影響します。DC パラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ IA プロファイル/セッションパラメータ (INPUT 割り当て文字) または ID プロファイル/セッションパラメータ (INPUT 区切り文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ CF プロファイル/セッションパラメータ (端末コマンドの制御文字) または HI プロファイルパラメータ (ヘルプ文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 		
デフォルト設定	. (ピリオド)			
ダイナミックな指定	可			
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS	パラメータはランタイムに評価されます。
		適用可能なコマンド:	GLOBALS	パラメータは GLOBALS システムコマンドを使用してダイナミックに指定できます。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。		



Note: パラメータファイルで DC を変更する場合、Natural プログラムで使用している DDM を保存し直し、新しい .NSD ファイルをディスクに保存する必要があります。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

48 DD - 日差

このNaturalプロファイルパラメータでは、現在のマシン日付（内部マシンタイムで読み込まれる）を調整するために加算／減算する日数を指定します。これにより、ある特定の日付に実行すべきであったが、何らかの理由でその日に実行できなかったアプリケーションを再実行できます。

DD プロファイルパラメータは次のように指定します。

DD=+nn

または

DD=-nn

上記の nn は日数です。

可能な設定	-10953～+10953	マシンの日付が調整されます。「+」の指定は任意です。
	0	調整されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

プロファイルパラメータ TD も参照してください。

49 DF - 日付フォーマット

DF セッションパラメータでは、編集マスクを指定しないで英数字表現に変換するときの日付の長さを決定します。DF パラメータはコンパイル時に評価されます。

年月日の各コンポーネントの順序と使用されるデリミタ文字は、プロファイルパラメータ **DTFORM** によって決定されます。

可能な設定	S	2桁の年コンポーネントとデリミタを使用する8バイトの表記です (<i>yy-mm-dd</i>)。 DF=S で提供される年情報は2桁のみです。つまり、日付の値に世紀が含まれる場合、その情報は変換時に失われます。
	I	4桁の年コンポーネント（デリミタなし）を使用する8バイトの表記です (<i>yyyymmdd</i>)。*注を参照してください。
	L	4桁の年コンポーネントとデリミタを使用する10バイトの表記です (<i>yyyy-mm-dd</i>)。*注を参照してください。
デフォルト設定	S	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	INPUT DISPLAY WRITE PRINT	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	MOVE COMPRESS STACK RUN FETCH	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
	なし	

日付フィールドの値を英数字フォーマットに変換するとき（例えば、MOVE、DISPLAY、WRITE、または INPUT ステートメント）、変換用に編集マスクを指定していないと、プロファイルパラメータ **DTFORM** で決定されたデフォルトの日付フォーマットが編集マスクとして使用されます。INPUT ステートメントで使用される日付変数の入力チェックについても同様です。編集マスクが指定されていないと、入力は **DTFORM** パラメータで決定された日付フォーマットに従ってチェックされます。



Note: DF=I または DF=L を使用すると、アプリケーションを 4 桁の年表記に段階的に変更し、同時にプロファイルパラメータ **DTFORM** で提供した柔軟な使用を継続できます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」、「英数字表現の日付フォーマット - DF パラメータ」も参照してください。

50

DFOUT - 出力の日付フォーマット

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、INPUT、DISPLAY、PRINT、およびWRITE ステートメントで表示される日付変数の設定のフォーマットを決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DFOUT をセッションパラメータ DFOUT で上書きできます。

可能な設定	S	日付変数は、2桁の年コンポーネント、およびプロファイルパラメータ DTFORM で決定されたデリミタで表示されます。例：yy-mm-dd。	
	I	日付変数は、完全な4桁の年コンポーネント（デリミタなし）で表示されます。例：yyyymmdd。	
デフォルト設定	S		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



Notes:

1. プロファイルパラメータ DFOUT はランタイムに評価されます。編集マスクが明示的に指定されておらず、セッションパラメータ DF が設定されていない、INPUT、DISPLAY、PRINT、およびWRITE ステートメントの日付フィールドに適用されます。
2. 日付設定の日、月、および年コンポーネントの順番は、**DTFORM** プロファイルパラメータで決定されます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」も参照してください。

51 DFS-RPCクライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定

この Natural プロファイルパラメータは、RPC のデフォルトのサーバーアドレスを定義するために使用します。サーバー名、サーバーノード、ログオンインジケータ、およびトランスポートプロトコルを決定します。サービスディレクトリに適切なサーバーが見つからない場合にのみ、デフォルトのサーバーアドレスが使用されます。詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「RPC サーバーアドレスの指定」を参照してください。

デフォルトのサーバーアドレスを定義するには、最大 4 つのサブパラメータを指定します。

DFS はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	<i>server-name</i>	(1~192文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。	
	<i>server-node</i>	(1~192文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。	
	<i>logon-indicator</i>	L	クライアントは、クライアントの現在のライブラリのライブラリ名を使用して、サーバーへの Natural ログオンを開始します。
		' '	(空白) サーバーログオンは実行されません。
		何も指定しない場合、空白がデフォルトになります。 Windows プラットフォームに関する注： L を指定する代わりに、選択ボックスをチェックしてください。	

DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定

	<i>transport-protocol-name</i>	使用されるトランスポートプロトコル。指定できる値は ACI のみで、これがデフォルトです。				
	<i>service-directory-indicator</i>	<table border="1"> <tr> <td>SERVDIR</td> <td>DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリが存在している必要があります。</td> </tr> <tr> <td>NOSERVDIR</td> <td>DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリは使用されません。つまり、サービスディレクトリはクライアントサイドで不要です。</td> </tr> </table> <p>何も指定しない場合、SERVDIR がデフォルトになります。</p>	SERVDIR	DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリが存在している必要があります。	NOSERVDIR	DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリは使用されません。つまり、サービスディレクトリはクライアントサイドで不要です。
SERVDIR	DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリが存在している必要があります。					
NOSERVDIR	DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリは使用されません。つまり、サービスディレクトリはクライアントサイドで不要です。					
デフォルト設定	なし	サブパラメータのデフォルトについては、上記を参照してください。				
ダイナミックな指定	可	下記を参照してください。				
セッション内の指定	可	ランタイムに、Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス USR2007N を使用してこの値を上書きできます。				
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR2007N	『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「Natural RPC で使用するアプリケーションプログラミングインターフェイス」および『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。				

ダイナミック指定の構文は次のとおりです。

```
DFS=(server-name,server-node
name,logon-indicator,transport-protocol-name,service-directory-indicator)
```

server-name および *server-node* に有効な値については、SRVNAME および SRVNODE を参照してください。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

52

DFSTACK - スタックの日付フォーマット

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、STACK、RUN、またはFETCHステートメントを介してスタックに配置される日付変数の設定のフォーマットを決定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータDFSTACKをセッションパラメータDFSTACKで上書きできます。

可能な設定	S	日付変数は、2桁の年コンポーネント、およびプロファイルパラメータDTFORMで決定されたデリミタでスタックに配置されます。例： <i>yy-mm-dd</i> 。	
	C	DFSTACK=Sと同じです。さらに、設定がスタックから読み込まれるときに使用される世紀が元の日付設定の世紀と同じでない場合、Naturalからランタイムエラーが発行されます。	
	I	日付変数は、完全な4桁の年コンポーネント（デリミタなし）でスタックに配置されます。例： <i>yyyymmdd</i> 。	
デフォルト設定	S		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

プロファイルパラメータDFSTACKは、セッションパラメータDFが設定されているSTACK、RUN、またはFETCHステートメントには適用されません。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」も参照してください。

53 DFTITLE-標準レポートタイトルの日付出力フォーマット

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、(DISPLAY、WRITE、またはPRINT ステートメントを使用して出力する) レポートページのデフォルトタイトルの日付出力フォーマットを決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DFTITLE をセッションパラメータ DFTITLE で上書きできます。

可能な設定	S	日付は、2桁の年コンポーネントおよびデリミタで出力されます。例： <i>yy-mm-dd</i> 。	
	L	日付は、4桁の年コンポーネントおよびデリミタで出力されます。例： <i>yyyy-mm-dd</i> 。	
	I	日付は、4桁の年コンポーネント (デリミタなし) で出力されます。 例： <i>yyyymmdd</i> 。	
デフォルト設定	S		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

 **Notes:**

1. DFTITLE はランタイムに評価されます。また、日付の年コンポーネントを2桁にするか4桁にするか、またデリミタ付きにするかデリミタなしにするかを決定します。(WRITE TITLE ステートメントで指定する) ユーザー定義ページタイトルには影響しません。

2. 年月日の各コンポーネントの順序と使用されるデリミタ文字は、プロファイルパラメータ `DTFORM` によって決定されます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」および「デフォルトページタイトル用の日付フォーマット - `DFTITLE` パラメータ」も参照してください。

54 DL - 出力の表示長

このセッションパラメータでは、フォーマット A または U のフィールドの表示長を指定します。デフォルトの表示長はフィールド長です。

可能な設定	1~ n	n は LS (行サイズ) パラメータから 1 を引いた値
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	なし	

例:

```
FORMAT DL=20
```

詳細および DL セッションパラメータの使用例については、『プログラミングガイド』の次のトピックを参照してください。

- フィールドの出力に影響を与えるパラメータ
- 出力長 - AL パラメータと NL パラメータ
- 出力の表示長 - DL パラメータ

55

DTFORM - 日付フォーマット

この Natural プロファイルパラメータは、Natural で自動的に生成される Natural レポートのデフォルトタイトルの日付、日付定数および日付入力のリポートのデフォルトのフォーマットを示します。

可能な設定	値	地域	日付フォーマット
	E	ヨーロッパ式	DD/MM/YYYY
	G	ドイツ式	DD.MM.YYYY
	I	国際式	YYYY-MM-DD
	U	アメリカ式	MM/DD/YYYY
デフォルト設定	I		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

週の最初の曜日には、DTFORM=U が指定されていない場合は月曜日、指定されている場合は日曜日が使用されます。

日付定数に対して、年コンポーネントは 4 桁 (YYYY) で構成されます。レポート、日付入力、Natural システム関数 VAL には、年コンポーネントの末尾 2 桁のみが使用されます。また、日付が英数字フィールドに転送される場合も同様に末尾 2 桁が使用されます。

デフォルトのレポートページタイトルの日付出力フォーマットは、プロファイルパラメータ **DFTITLE** でも指定されます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」および「デフォルトの日付編集マスク-DTFORM パラメータ」も参照してください。

56 DU - ダンプ生成

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、逆アセンブルされたオブジェクトコードダンプを生成するかどうかを決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DU をセッションパラメータ DU で上書きできます。

可能な設定	ON	<p>システムコマンド CHECK、STOW、CATALOG、RUN、または CATALL のいずれかが実行された場合、逆アセンブルされたオブジェクトコードファイルが生成されます。</p> <p>このダンプファイルは、Natural コンフィグレーションユーティリティの Natural TMP ディレクトリオプションで定義されたディレクトリに書き込まれます。「ローカルコンフィグレーションファイル」、「インストール指定」を参照してください。</p> <p>このダンプファイルの名前は、ソースファイル名と拡張子 .DIA で構成されます。ソースファイルが保存されていない場合、ダンプファイルの名前は GEN.DIA になります。プログラムにデータベースアクセスステートメントが含まれている場合、拡張子 .ADA (Adabas用) または .SQL (SQL データベース用) のダンプファイルも作成されます。XREF データが生成される場合、ダンプファイル .XRF が作成されます。</p> <p>注意: DU=ON を指定すると、大きなダンプファイルが作成され (ソースファイルのサイズによる)、システムパフォーマンスが大幅に低下することがあります。</p>	
	OFF	ダンプファイルは生成されません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド:	GLOBALS

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

57

DY - ダイナミック属性

- DY パラメータの構文 122
- 例 124

DY - ダイナミック属性

このセッションパラメータは、ダイナミック属性フィールド表示に属性を割り当てるために使用します。

可能な設定		下記を参照してください。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント:	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	なし	

特別な識別文字（エスケープ文字）は、属性定義の前後に付けます。

INPUT、DISPLAY、WRITE、またはPRINTステートメントで処理され、エスケープ文字を含む英数字フィールドは、エスケープ文字の位置でサブフィールドに分割されます。その後、対応する属性がサブフィールドに割り当てられます。エスケープ文字は空白で置き換えられます。

 **Note:** DY 指定が適用されるフィールドの一部については、現在のフィールド表示とカラー属性は、新しい設定が DY エントリで定義されるまで有効です。つまり、フィールドカラーは、DY パラメータ自体で新しいカラーを定義している場合、DY 属性によってのみ変更されます。同様のことが [フィールド表現属性](#) (AD=B,C,D,I,N,U,V) が適用されます。

DY パラメータの構文

```
DY={{escape-character1} [color-attribute] [i/o-characteristics]  
[field-representation-attribute]} ... {escape-character2}
```

有効な設定について次に説明します。

escape-character1

属性定義の始めを表すエスケープ文字。任意の特殊文字、またはアポストロフィと16進数 ('xx)を使用できます。

color-attribute

カラー属性の割り当て。セッションパラメータ **CD** (カラー定義) も参照してください。

BL	青
GR	緑
NE	デフォルト色
PI	ピンク
RE	赤
TU	空色
YE	黄色

i/o-characteristics

値	意味
P	サブフィールドの書き込み保護。

サブフィールドを書き込み保護するために P を指定できます。セッションパラメータ **AD** (属性定義) も参照してください。

field-representation-attribute

追加属性の割り当て。セッションパラメータ **AD** (属性定義) も参照してください。

値	意味
B	点滅 (*)
C	手書き/斜体 (*)
D	デフォルトの輝度
I	高輝度
N	非表示
U	下線付き
V	反転表示 (*)

escape-character2

属性定義の終わりを表すエスケープ文字。任意の特殊文字 (c)、またはアポストロフィと 16 進数 ('xx) を使用できます。

属性定義の終わりを表す文字の前に、エスケープシーケンス (エスケープ文字および属性) を 8 組まで指定できます。

例

例 1 :

```
DY=<U>
```

テキスト文字列は次のとおりです。

```
THIS <i s> UNDERLINED
```

次のよう出力されます。

```
THIS i s UNDERLINED
```

例 2 :

```
DY=<BL|RE/GR>
```

割り当て :

"<" は青

"|" は赤

"/" は緑

">" は初期フィールドカラーに戻ること示します。

例 3 :

```
DY=<P>;
```

テキスト文字列は次のとおりです。

```
Do not overwrite <this>
```

次のように出力されます。

```
Do not overwrite this
```

(この場合、`this` が保護されます)

58

DYNPARM - ダイナミックパラメータ使用の制御

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ダイナミックパラメータの使用を有効または無効にします。

可能な設定	ON	Natural 起動時に指定されたダイナミックパラメータが処理されます。
	OFF	Natural 起動時に指定されたダイナミックパラメータは処理されません。 注意: Natural デフォルトパラメータファイル NATPARM で DYNPARM が OFF に設定されている場合、Natural の起動時に代替のユーザー定義パラメータファイルは使用できません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

ダイナミックパラメータ使用の詳細については、「パラメータ値のダイナミックな割り当て」を参照してください。

59

ECHO - バッチ入力データの出力制御

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードにのみ適用されます。

バッチモード処理中に Natural に提供された入力データの出力を有効または無効にするために使
用します。

可能な設定	ON	Natural では、バッチモード処理中に提供された入力データをバッチ出力ファイル CMPRINT に出力します。
	OFF	Natural では、バッチモード処理中に提供された入力データを出力しません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

単一入力行の出力を抑制することもできます。その場合、レコード抑制用の端末コマンド %* を
含む行を前に指定します。

コマンド (NEXT) モードで CMSYNIN から読み込まれた入力は、バッチ出力ファイル CMPRINT に
常に反映されます。

60 EDTBPSIZE - Software AG Editor バッファプールサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、Software AG Editor バッファプールのサイズを設定するために使用します。

可能な設定	0~4000	エディタバッファプールのサイズ (KB 単位)。
デフォルト設定	400	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

61 EDTLFILES - Software AG Editor 論理ファイルの数

この Natural プロファイルパラメータは、ユーザーが一度に開ける Software AG Editor セッションの最大数を設定するために使用します。

可能な設定	10~999	Software AG Editor セッションの最大数。
デフォルト設定	100	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

62 EJ - ページ換え

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、論理改ページ、プログラム入力および出力間のブレイク、また「normal end」メッセージの出力時にページ換えを行うかどうかを指定するために使用します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ EJ をセッションパラメータ EJ で上書きできます。EJ 設定は EJECT ステートメントでも上書きできます。

可能な設定	ON	ページ換えを行います。		
	OFF	ページ換えを行いません。この設定を使用して、ページ換えの必要のないテスト実行時に用紙を節約できます。		
デフォルト設定	ON			
ダイナミックな指定	可			
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS	パラメータはランタイムに評価されます。
		適用可能なコマンド：	GLOBALS	パラメータは GLOBALS システムコマンドを使用してダイナミックに指定できます。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。		

このパラメータは、最初のレポート（レポート0）にのみ適用されます。他のレポートについては、レポート指定（*rep*）付きの EJECT ステートメントを使用する必要があります。

Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

63 EM - 編集マスク

▪ 構文	138
▪ 編集マスク内の空白	139
▪ デフォルトの編集マスク	139
▪ 数値フィールドの編集マスク	140
▪ 英数字フィールドの編集マスク	142
▪ バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク	144
▪ 16 進編集マスク	145
▪ 日付（フォーマット D）と時刻（フォーマット T）のフィールドの編集マスク	147
▪ 論理フィールド（フォーマット L）の編集マスク	151

このセッションパラメータでは、DEFINE DATA、DISPLAY、INPUT、MOVE EDITED、PRINT、PROCESS PAGE、または WRITE ステートメントで使用される入力/出力フィールドに編集マスクを指定できます。

Unicode 編集マスクの詳細については、セッションパラメータ [EMU](#) を参照してください。

パラメータ EM は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、『*Natural* プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート』の「セッションパラメータ」で「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定		下記を参照してください。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	DEFINE DATA DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	MOVE EDITED	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

以下では次のトピックについて説明します。

『プログラミングガイド』の「[編集マスク - EM パラメータ](#)」を参照してください。

構文

入力フィールドについては、値は編集マスクと正確に一致するように入力する必要があります。入力フィールドに編集マスクを表示する場合、フィールドを変更可能フィールド ([AD=M](#)) として定義する必要があります。

データベースフィールドについては、デフォルトの編集マスクが DDM で定義されている場合があります。データベースフィールドに EM パラメータで編集マスクを指定した場合、指定した編集マスクがデフォルトの編集マスク (DDM でフィールドに定義) の代わりに使用されます。

フィールドに [EM=OFF](#) を指定した場合、DDM で編集マスクが定義されていても、フィールドには編集マスクは使用されません。

DISPLAY、FORMAT、INPUT、または WRITE ステートメントのステートメントレベルでは、[EM=OFF](#) 以外に、詳細なフィールド編集マスクは指定できません。

編集マスクの指定は、セッションパラメータ [AL](#)、[NL](#)、および [SG](#) の設定を上書きします。

文字 9、H、X、および Z は、数値 (9,Z)、16 進数 (H)、および英数字 (X) 編集マスクの有効な出力桁を表します。9 と Z の違いについては、下記の「[数値フィールドの編集マスク](#)」を参照してください。

例：

```
DISPLAY AA(EM=OFF) AB(EM=XX.XX)
WRITE SALARY (EM=ZZZ,ZZ9)
```

長い編集マスクに対しては、省略表記を使用できます。次の例は、数値、16 進数、および英数字の編集マスクに使用できる省略表記を示しています。

```
EM=9(4)-9(5) is equivalent to: EM=9999-99999
EM=H(10)      is equivalent to: EM=HHHHHHHHHHH
EM=X(6)..X(3) is equivalent to: EM=XXXXXX..XXX
```

編集マスク内の空白

編集マスク内の空白は、使用しているキーボードの文字で表され、16 進コードの H'20' (ASCII) または H'5F' (EBCDIC) に対応します。つまり、文字 ^ (または ~) です。

デフォルトの編集マスク

フィールドに編集マスクを指定しなかった場合、フィールドフォーマットに応じて、デフォルトの編集マスクが割り当てられます。

フィールドフォーマット	デフォルトの編集マスク
A	X
B	H
N、P、I	Z9
F	技術表記
D	デフォルトの日付フォーマット (プロファイルパラメータ DTFORM で設定) によって異なる
T	HH:II:SS
L	空白 / X

数値フィールドの編集マスク

フォーマット N、P、I、または F のフィールドに指定した編集マスクには、1 つ以上の 9 または Z が含まれている必要があります。

フィールド値の桁数より多くの 9 または Z を含めると、編集マスクの出力桁は、フィールド値に定義されている桁数に調整されます。

逆に、フィールド値の桁数よりも 9 または Z が少ないと、小数点よりも前の桁または後の桁が切り捨てられます。

以下では次のトピックについて説明します。

- 数値編集マスクの定義用文字
- 符号文字
- リテラルリーディング文字
- リテラル挿入および末尾文字
- 末尾の符号文字
- 数値編集マスクの例

数値編集マスクの定義用文字

文字	機能
9	出力桁（フィールド値の 1 桁）
。（ピリオド）	挿入された最初のピリオドは小数点として使用されます。後続のピリオドはリテラル文字として扱われます。
Z	先頭のゼロの省略。数値フィールドのデフォルト値です。文字 Z は浮動位置のゼロ省略を明示するために繰り返し指定できます。Z は小数点より右の桁には指定できません。編集マスクですべて Z を指定し、ゼロ値を空白として表示することもできます（セッションパラメータ ZP も参照）。

9 または Z は、1 文字以上の他の文字の後に続けることができます。

符号文字

9 または Z の前の最初の文字が +、-、S、または N の場合、符号が表示されます。

文字	機能
+	浮動位置の符号は、値の直前（先頭の符号文字）または直後（末尾の符号文字）に表示されます。符号は、フィールドの値に応じて、プラスまたはマイナスとして生成されます。
-	浮動位置のマイナス記号は、フィールド値が負の場合に、値の直前（先頭の符号文字）または直後（末尾の符号文字）に表示されます。
S	符号は、列の左側に表示されます。正の値にはプラス記号が表示され、負の値にはマイナス記号が表示されます。
N	フィールド値が負の場合に、列の左側にマイナス記号が表示されます。

リテラルリーディング文字

最初の出力桁（Z または 9 で示される）の前に任意の数のリテラルリーディング文字を表示できます。これらの文字は、符号文字の後に続く必要があります。符号文字がなく、最初のリテラルリーディング文字が +、-、S、または N の場合、アポストロフィで囲む必要があります。リテラルリーディング文字が H、X、Z、または 9 の場合、アポストロフィで囲む必要があります。

値に先頭のゼロが含まれており、編集マスクが Z（先頭のゼロの省略）で定義されている場合のみ、指定された最初のリテラルリーディング文字が出力に表示されます。そのとき、この文字は、先頭のゼロに対する空白の代わりに、充填文字として表示されます。後続のリテラルリーディング文字は、入力されたとおりに表示されます。

リテラル挿入および末尾文字

リテラル挿入および末尾文字も使用できます。記号 (^) は、先頭の空白、挿入された空白、または末尾の空白を表すために使用できます。有意文字 (9、H、Z、X) をアポストロフィで囲むことで、先頭文字、挿入文字、または末尾文字として一般の文字と同じように使用できます。有意性のない編集マスク文字については、アポストロフィで囲む必要はありません。同様の編集マスク表記で、先頭文字、挿入文字、または末尾文字をグループとして扱うこともできます。アポストロフィで囲む必要がある場合と、そうでない場合があるので注意してください。

末尾の符号文字

末尾の符号文字は、数値編集マスクの最後に + または - 文字を使用して指定できます。+ のときは、フィールドの値に応じて、末尾の + 記号または - 記号が生成されます。- のときは、フィールドの値に応じて、末尾のスペースまたは - 記号が生成されます。編集マスクに先頭符号と末尾符号の両方を指定した場合は、どちらも出力されます。

数値編集マスクの例

次の表は、各列の先頭に示した値を編集マスクに従って編集した結果を示しています。列ヘッダーとして使用されている値はすべて N フォーマットのフィールドです。先頭の列の下のは、異なる編集マスクを使用して得られたフォーマットです。

値	0000.03 (N4.2)	-0054 (N4)	+0087 (N4)	0962 (N4)	1830 (N4)
編集マスク					
EM=9.9	0.0	4.	7.	2.	0.
EM=99	00	54	87	62	30
EM=S99	+00	-54	+87	+62	+30
EM=+Z9	+0	-54	+87	+62	+30
EM=-9.99	0.03	-4.	7.	2.	0.
EM=N9	0	-4	7	2	0
EM=*9.99	0.03	4.	7.	2.	0.
EM=Z99	00	54	87	962	830
EM=*DMZZ9.9	DM**0.0	DM*54.	DM*87.	DM962.	DM830.
EM=999+	000+	054-	087+	962+	830+
EM=999-	000	054-	087	962	830
IC=\$ EM=ZZZ.99	\$.03	\$54.	\$87.	\$962.	\$830.
EM=H(6)					
- ASCII:	303030303033	30303574	30303837	30393632	31383330
- EBCDIC:	F0F0F0F0F0F3	F0F0F5D4	F0F0F8F7	F0F9F6F2	F1F8F3F0

パラメータ IC および TC を組み合わせれば、負の数でも DISPLAY ステートメントを使用してさまざまな形式で出力できます。

英数字フィールドの編集マスク

A フォーマットのフィールドにのみ使用される英数字編集マスクには、出力される文字を表す X が 1 つ以上含まれている必要があります。最初の文字が H のときは、**16 進の編集マスク**となります。空白は (^) 記号で表されます。カッコを除くすべての文字は、先頭文字、末尾文字、および挿入文字として使用できます。アポストロフィで囲まれた先頭文字、挿入文字、または末尾文字を指定することも可能です。文字 X、閉じカッコ、または引用符を挿入文字として指定する場合は、アポストロフィで囲む必要があります。

先頭文字を英数字編集マスクの最初の出力桁 X の前に使用した場合、これらの先頭文字の最初の文字は出力されず、充填文字として英数字出力フィールドの先頭のすべての空白を置き換えるために使用されます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #X (A4) INIT <' 34'>
END-DEFINE
WRITE #X (EM=*A:X:)
  6X #X (EM=*A:XX:)
  6X #X (EM=*A:XXX:)
  6X #X (EM=*A:XXXX:)
  6X #X (EM=1234XXXX5678)
END
```

出力の生成：

```
A:*:      A:**:      A:**3:      A:**34:      23411345678
```

最後の出力桁の直後の末尾文字は出力されません。

マスクで指定した桁数がフィールド長より短い場合、マスクの長さに合わせて出力されます。

マスクで指定した桁数がフィールド長より長い場合、マスクの先頭の余分な桁が切り捨てられます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT (A4) INIT <'BLUE'>
END-DEFINE
WRITE #TEXT (EM=X-X-X)
WRITE #TEXT (EM=X-X-X-X-X)
```

```
displays as 'B-L-U'      .. only three bytes of field
displayed
displays as 'B-L-U-E-'   .. mask definition was
truncated to (EM=X-X-X-X-)
```

英数字編集マスクの例

次のプログラムでは、値 "BLUE" を含むフィールド（フォーマット／長さ A4）の英数字編集マスクのリストを作成しています。

```

** Example 'EMMASK1': Edit mask
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT (A4)
END-DEFINE
*
ASSIGN #TEXT = 'BLUE'
WRITE NOTITLE 'MASK 1:' 5X #TEXT (EM=X.X.X.X)
/           'MASK 2:' 5X #TEXT (EM=X^X^X^X)
/           'MASK 3:' 5X #TEXT (EM=X--X--X)
/           'MASK 4:' 5X #TEXT (EM=X-X-X-X-X-X)
/           'MASK 5:' 5X #TEXT (EM=X' 'X' 'X' 'X)
/           'MASK 6:' 5X #TEXT (EM=XX....XXX)
/           'MASK 7:' 5X #TEXT (EM=1234XXXX)
END

```

プログラム EMMASK1 の出力：

```

MASK 1:      B.L.U.E
MASK 2:      B L U E
MASK 3:      B--L--U
MASK 4:      B-L-U-E-
MASK 5:      B L U E
MASK 6:      BL....UE
MASK 7:      234BLUE

```

バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク

バイナリフィールドの編集マスクは、XまたはH表記を使用して設定できます。バイナリフィールドについては、X表記は、Xの代わりにHが指定した場合のようにサポートされます。

16 進編集マスク

編集マスクの最初の文字としてHを指定した場合、英数字フィールドまたは数値フィールドの内容は16進形式で出力されます。各Hは、ソースフィールドの1バイトに対する2つの出力桁を表します。H以外の文字は、マスク内の挿入文字または末尾文字として扱われます。編集マスクの長さがフィールド長より短い場合、出力桁はマスクの長さに調整されます。フィールド長が編集マスクの長さより短い場合、マスクの長さがフィールド長に調整されます。

挿入文字または末尾文字は、必要に応じてアポストロフィで囲んで指定することもできます。

16進編集マスクで出力されたフィールドはすべて英数字として扱われます。そのため、編集マスクが編集対象のフィールドよりも短い場合、数値または英数字の桁は、小数点位置を無視して左から右へ出力されます。

16進編集マスクを入力編集マスクとして使用する場合、0-9、a-f、A-F、空白、および16進ゼロは、16進数字として受け入れられます。

 **Note:** 空白と16進ゼロは0としてみなされ、小文字(a-f)は大文字としてみなされません。

16 進フィールドの編集マスクの例：

次の表は、16進編集マスクの例を示しています。この結果は、各列の上部に示したフィールドと値に基づいています。編集マスクが適用されているすべての数値(-10、+10、01)が、N2フォーマットで定義されたフィールドに格納されています。英数字値ABは、フォーマット/長さA2で定義されたフィールドに格納されています。

ASCII：

値=>	AB	-10	+10	01
EM=HH	4142	3170	3130	3031
EM=H^H	41 42	31 70	31 30	30 31
EM=HH^H	4142	3170	3130	3031

EM - 編集マスク

EM=H-H	41-42	31-70	31-30	30-31
EM=H	41	31	31	30

EBCDIC :

値 =>	AB	-10	+10	01
EM=HH	C1C2	F1D0	F1F0	F0F1
EM=H:H	C1 C2	F1 D0	F1 F0	F0 F1
EM=HH:H	C1C2	F1D0	F1F0	F0F1
EM=H-H	C1-C2	F1-D0	F1-F0	F0-F1
EM=H	C1	F1	F1	F0

16進編集マスクを使用したプログラムの例 :

```

** Example 'EMMASK2': Edit mask
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT1 (A2)
1 #TEXT2 (N2)
END-DEFINE
*
ASSIGN #TEXT1 = 'AB'
ASSIGN #TEXT2 = 10
*
WRITE NOTITLE
    'MASK (EM=HH)   :' 18T #TEXT1 (EM=HH)    30T #TEXT2 (EM=HH)
  / 'MASK (EM=H^H) :' 18T #TEXT1 (EM=H^H)    30T #TEXT2 (EM=H^H)
  / 'MASK (EM=HH^H):' 18T #TEXT1 (EM=HH^H)   30T #TEXT2 (EM=HH^H)
  / 'MASK (EM=H-H) :' 18T #TEXT1 (EM=H-H)    30T #TEXT2 (EM=H-H)
  / 'MASK (EM=H)   :' 18T #TEXT1 (EM=H)      30T #TEXT2 (EM=H)
END

```

プログラム EMMASK2 の出力 (ASCII) :

```

MASK (EM=HH) : 4142      3130
MASK (EM=H^H) : 41 42    31 30
MASK (EM=HH^H) : 4142    3130
MASK (EM=H-H) : 41-42    31-30
MASK (EM=H)   : 41       31

```

プログラム EMMASK2 の出力 (EBCDIC) :

```

MASK (EM=HH) : C1C2      F1F0
MASK (EM=H^H) : C1 C2    F1 F0
MASK (EM=HH^H) : C1C2    F1F0
MASK (EM=H-H) : C1-C2    F1-F0
MASK (EM=H)   : C1       F1

```

日付 (フォーマットD) と時刻 (フォーマットT) のフィールドの編集マスク

フォーマットD (日付) またはフォーマットT (時刻) で定義されたフィールドの編集マスクでは、次に示す文字を指定できます。

- [日付 \(フォーマットD\) および時刻 \(フォーマットT\)](#)
- [日付文字の構文制限](#)
- [入力編集マスクのヒント](#)
- [出力編集マスクでの週表示 \(WW または ZW\) のヒント](#)
- [時刻 \(フォーマットT\)](#)
- [日付と時刻の編集マスクの例](#)

日付 (フォーマットD) および時刻 (フォーマットT)

文字	使用方法
DD	日
ZD	日、ゼロ省略
MM	月
ZM	月、ゼロ省略
YYYY	年、4桁 (「 入力編集マスクのヒント 」を参照)
YY	年、2桁 (「 入力編集マスクのヒント 」を参照)
Y	年、1桁 入力フィールドでは使用しないでください。
WW	週 (「 入力編集マスクのヒント 」および「 出力編集マスクでの週表示のヒント 」を参照)

文字	使用方法
ZW	週、ゼロ省略（「 入力編集マスクのヒント 」および「 出力編集マスクでの週表示のヒント 」を参照）
JJJ	ユリウス日
ZZJ	ユリウス日、ゼロ省略
NN... または N(n)	曜日名（言語に依存）最大長はNの個数またはnの値で決まります。名前が最大長より長い場合、切り捨てが発生します。短い場合には、実際の長さの名前が使用されます。
0	曜日番号 プロファイルパラメータ DTFORM によって、週の開始が月曜日か日曜日かが決まります。DTFORM=U の場合：（日曜日=1、月曜日=2 など）DTFORM=other の場合：（月曜日=1、火曜日=2 など）
LL... または L(n)	月名（言語に依存）最大長はLの個数またはnの値で決まります。名前が最大長より長い場合、切り捨てが発生します。短い場合には、実際の長さの名前が使用されます。
R	ローマ数字の年（最大 13 桁）入力フィールドでは使用しないでください。

日付文字の構文制限

入力および出力編集マスクに対して、次のものを使用することはできません。

テキスト			文字		
月	with	月名	MM または ZM	with	LL または L(n)
曜日名	with	曜日番号	NN または N(n)	with	0

入力編集マスクに対して、次のものを使用することはできません。

テキスト			文字		
1 桁年	nor	ローマ数字の年	Y	nor	R
日	without	月または月名	DD または ZD	without	MM、ZM、LL、または L(n)
週	without	年	WW または ZW	without	YYYY または YY
月	without	年	MM または ZM	without	YYYY または YY
ユリウス日	without	年	JJJ または ZZJ	without	YYYY または YY
曜日名	without	週	NN または N(n)	without	WW または ZW
曜日番号	without	週	0	without	WW または ZW
ユリウス日	with	月	JJJ または ZZJ	with	MM または ZM
ユリウス日	with	週	JJJ または ZZJ	with	WW または ZW
月	with	週	MM または ZM	with	WW または ZW

入力編集マスクのヒント

有効の年の値 (YYYY) の範囲は 1582~2699 です。

入力編集マスクに年 (YY または YYYY) のみを指定し、月や日を指定しなかった場合、月と日の値は両方とも "01" に設定されます。入力編集マスクに年 (YY または YYYY) と月 (MM) のみを指定し、日を指定しなかった場合、日の値は "01" に設定されます。

2桁年 (YY) を使用する場合、年表記を満たすために使用される世紀は、デフォルトで現在の世紀になります。ただし、スライディングまたは固定ウィンドウが設定されているとき、これは適用されません。詳細については、『Natural パラメータリファレンス』ドキュメントのプロファイルパラメータ [YSLW](#) を参照してください。

週番号 (WW または ZW) を曜日番号 (0) または曜日名 (NN...) なしで指定した場合、週の最初の曜日とみなされます。

出力編集マスクでの週表示 (WW または ZW) のヒント

DTFORM=U (USA 形式) が設定されている場合、週は日曜日から始まります。他のすべての DTFORM 設定については、最初の曜日は月曜日です。週が旧年の 52/53 週であるか、新年の 01 週であるかどうかは、年にその週を超える日が含まれているかに依存します。つまり、その週の木曜日 (DTFORM=U では水曜日) が前年にある場合、その週は前年に属します。翌年にある場合、その週は翌年に属します。

週番号 (WW または ZW) と年表記 (YYYY、YY、または Y) が同じ編集マスク内にある場合、年の表示は、基礎となる日付フィールドの年に関係なく、常に週番号に対応します。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 D (D)
END-DEFINE
MOVE EDITED '31-12-2003' TO D(EM=DD-MM-YYYY)
DISPLAY D(EM=DD-MM-YYYY_N(10)) D(EM=DD-MM-YYYY/WW)
```

週番号 WW が編集マスクに含まれている場合、基礎となる日付が 2003 年 12 月 31 日であっても、次のように表示されます。

```

          D          D
-----
31-12-2003_Wednesday 31-12-2004/01

```

時刻（フォーマット T）

文字	使用方法
T	10 分の 1 秒
SS	秒
ZS	秒、ゼロ省略
II	分
ZI	分、ゼロ省略
HH	時間
ZH	時間、ゼロ省略
AP	AM/PM 要素

日付と時刻の編集マスクの例

```

** Example 'EMDATI': Edit mask for date and time variables
*****
*
WRITE NOTITLE
  'DATE INTERNAL :' *DATX (DF=L) /
  '                :' *DATX (EM=N(9)' 'ZW.'WEEK 'YYYY) /
  '                :' *DATX (EM=ZZJ'.DAY 'YYYY) /
  '    ROMAN      :' *DATX (EM=R) /
  '    AMERICAN   :' *DATX (EM=MM/DD/YYYY)      12X 'OR ' *DAT4U /
  '    JULIAN     :' *DATX (EM=YYYYJJJJ)      15X 'OR ' *DAT4J /
  '    GREGORIAN  :' *DATX (EM=ZD.' 'L(10)''YYYY) 5X 'OR ' *DATG ///
*
  'TIME INTERNAL  :' *TIMX                      14X 'OR ' *TIME /
  '                :' *TIMX (EM=HH.II.SS.T) /
  '                :' *TIMX (EM=HH.II.SS' 'AP) /
  '                :' *TIMX (EM=HH)
END

```

プログラム EMDATI の出力：

```

DATE INTERNAL : 2005-01-12
               : Wednesday 2.WEEK 2005
               : 12.DAY 2005
  ROMAN       : MMV
  AMERICAN    : 01/12/2005          OR 01/12/2005
  JULIAN      : 2005012             OR 2005012
  GREGORIAN   : 12.January2005     OR 12January 2005

TIME INTERNAL : 16:04:14           OR 16:04:14.8
               : 16.04.14.8
               : 04.04.14 PM
               : 16

```

論理フィールド（フォーマットL）の編集マスク

フォーマットL（論理フィールド）のフィールドに対しては、次のように編集マスクを定義できます。

```
(EM=[false-string]/true-string)
```

false-string は 31 文字を超えないようにする必要があります。

論理フィールドの編集マスクの例

```

** Example 'EMLOGV': Edit mask for logical variables
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #SWITCH (L) INIT <true>
1 #INDEX (I1)
END-DEFINE
*
FOR #INDEX 1 5
  WRITE NOTITLE #SWITCH (EM=FALSE/TRUE) 5X 'INDEX =' #INDEX
  WRITE NOTITLE #SWITCH (EM=OFF/ON)      7X 'INDEX =' #INDEX
  IF #SWITCH
    MOVE FALSE TO #SWITCH
  ELSE
    MOVE TRUE TO #SWITCH
  END-IF
/*
SKIP 1

```

```
END-FOR  
END
```

プログラム EMLOGV の出力：

```
TRUE      INDEX = 1  
ON        INDEX = 1  
  
FALSE     INDEX = 2  
OFF       INDEX = 2  
  
TRUE      INDEX = 3  
ON        INDEX = 3  
  
FALSE     INDEX = 4  
OFF       INDEX = 4  
  
TRUE      INDEX = 5  
ON        INDEX = 5
```

64 EMFM - 編集マスクフリーモード

この Natural プロファイルパラメータは、セッション開始時に編集マスクフリーモードを有効または無効にするために使用します。このモードでは、数値編集マスク付きのフィールドへの入力中、リテラルを省略することが可能です。

可能な設定	ON	編集マスクフリーモードを有効にします。
	OFF	編集マスクフリーモードを無効にします。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	実行中の Natural セッション内で、端末制御コマンド %FM+ または %FM- を使用してこの設定を上書きできます。

詳細については、『ステートメント』ドキュメントの INPUT ステートメントの「数値編集マスクフリーモード」を参照してください。

65 EMU - Unicode 編集マスク

このセッションパラメータでは、DEFINE DATA、DISPLAY、INPUT、MOVE EDITED、PRINT、PROCESS PAGE、または WRITE ステートメントで使用される入力／出力フィールドに Unicode 編集マスクを指定できます。

可能な設定		下記を参照してください。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント		
	DEFINE DATA DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
	MOVE EDITED	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド	なし	

セッションパラメータ EMU の構文は、セッションパラメータ EM の構文と同一です（EM の構文を参照）。

『プログラミングガイド』の「Unicode 編集マスク - EMU パラメータ」も参照してください。

EMU で定義された編集マスクは Unicode フォーマットで保持され、その内容は、インストールされているシステムコードページとは関係なくなります。

詳細および例については、「Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート」の「セッションパラメータ」セクションで「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

66 ENDIAN-コンパイルオブジェクトのエンディアンモード

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、コンパイラでGPを生成する際のアーキテクチャを指定します。『プログラミングガイド』の「ポータブルNatural生成プログラム」も参照してください。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ設定をセッションパラメータ ENDIAN で上書きできます。

可能な設定	DEFAULT	エンディアンモードは、現在使用されているアーキテクチャから派生します。	
	LITTLE	コンパイラでは、リトルエンディアンモードのGPが生成されます。	
	BIG	コンパイラでは、ビッグエンディアンモードのGPが生成されます。	
デフォルト設定	DEFAULT		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	なし
		適用可能なコマンド：	GLOBALS

67 ENDMSG - セッション終了メッセージの表示

デフォルトでは、Naturalセッションが正常終了したことを示すメッセージNAT9995がNaturalセッション終了時に表示されます。このNaturalプロファイルパラメータでは、このメッセージの表示を抑制できます。

可能な設定	ON	セッションの終了時に、メッセージ NAT9995、NAT9978、または NAT9987 がバッチ出力ファイル CMPRINT に書き込まれます。
	OFF	メッセージ NAT9995、NAT9978、または NAT9987 は CMPRINT には出力されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

- Natural が起動時エラーで終了した場合、Natural メッセージ NAT9987 が NAT9995 の代わりに使用されます。
- Natural がランタイムエラーで終了した場合、Natural メッセージ NAT9978 が NAT9995 の代わりに使用されます。

68 ES - 空白行省略

このセッションパラメータでは、DISPLAYまたはWRITEステートメントで生成された空白行の出力を省略できます。

可能な設定	ON	DISPLAY または WRITE ステートメントの結果、1 行の内容がすべて空白値の場合は出力されません。 この設定は、配列（例えば、マルチプルバリューフィールドやピリオディックグループ内のフィールド）の出力時に空白行が多数出力されないようにするために特に役立ちます。
	OFF	空白行の省略は無効です。
デフォルト設定	OFF	
セッション内の指定	可	
適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT WRITE	
適用可能なコマンド：	なし	

数値に対しても空白行の省略を行うには、ZP=OFF および ES=ON を指定し、空値を空白として出力するようにしておく必要があります。セッションパラメータ IS および ZP も参照してください。

例：

```
DISPLAY (ES=ON) NAME CITY
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

69

ESCAPE - 端末コマンド %% および % の無効化

この Natural プロファイルパラメータは、端末コマンド %% および % . を無効にするために使用します。

可能な設定	ON	端末コマンド %% および % . の使用を有効にします。
	OFF	端末コマンド %% および % . は無視されます。つまり、%% または % . を入力して、現在アクティブな Natural プログラムまたは Natural セッションから抜けることはできません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

70 ESXDB - Entire System Server DDM に使用されるデータベース ID

この Natural プロファイルパラメータは、Entire System Server インターフェイスに適用されません。

Entire System Server の DDM に使用されるデータベース ID を指定します。

可能な設定	1~254	データベース ID。このパラメータを有効にするには、1~254 の範囲内のデータベース ID を指定する必要があります。 注意: Entire System Server の DDM は DBID=148 でカタログされます。この DBID で Adabas データベースを使用する場合、ESXDB に異なる番号を指定してください。この方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Entire System Server インターフェイスの設定」を参照してください。
	0	ESXDB=0 を指定した場合、Entire System Server インターフェイスは有効になりません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

71 ET-END/BACKOUT TRANSACTION ステートメントの 実行

この Natural プロファイルパラメータでは、データベースに対する END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行を制御します。

可能な設定	ON	END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントは、Natural セッションの開始、または END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントの最後の実行から参照されたすべてのデータベースに対して実行されます。
	OFF	END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントは、トランザクションによる影響を受けたデータベースに対してのみ（および該当する場合はトランザクションデータが書き込まれるデータベースに対して）実行されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



Note: Natural の制御下で実行されていないデータベースに対する更新（つまり、データベースリンクルーチンのネイティブな呼び出しによる更新）は、Natural トランザクションロジックには影響しません。

72 ETA - エラートランザクションプログラム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural プログラムの実行時にエラー条件が検出された場合、制御を受け取るプログラムの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	エラートランザクション用のプログラム名。
	空白	ETA=' ' (空白) を指定した場合、エラートランザクションプログラムは呼び出されません。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	

このパラメータの設定は、システム変数 *ERROR-TA を使用してユーザープログラムで変更できます。

 **Note:** エラートランザクションプログラムは、現在ログオンしているライブラリ内、または現在の STEPLIB ライブラリ内に存在する必要があります。

エラーが発生した場合、Natural では STACK TOP DATA ステートメントを実行し、スタックの先頭に次の情報を配置します。

- エラー番号 (セッションパラメータ SG=OFF のとき N4、SG=ON のとき N5)
- 行番号 (N4)
- ステータス (A1)
- プログラム名 (A8)
- レベル (N2)

この情報は、エラートランザクションで INPUT データとして使用できます。ステータスは次の設定のいずれかです。

設定	説明
C	コマンド処理エラー。（行番号は 0）
L	ログオン処理エラー。（行番号は 0）
R	リモートサーバーでのエラー（Natural RPC 関連）。
O	オブジェクト時間。
S	修正不可能な構文エラー。

Natural Security がインストールされている場合、次のルールが適用されます。

- Natural への初回ログオン時にエラーが発生した場合、ETA パラメータで指定されたプログラムが適用されます。エラートランザクションは、初回ログオン時に FNAT または FUSER システム上のライブラリ SYSLIB 内または SYSTEM 内に存在している必要があります。
- 初回ログオンの後にエラーが発生した場合、現在のライブラリのセキュリティプロファイルにエラートランザクションとして指定されたプログラムが適用されます。エラートランザクションが指定されていない場合は、ETA パラメータが適用されます。

エラートランザクションプログラムの定義と使用の詳細については、『*Natural Security*』ドキュメントの「トランザクション」を参照してください。

73 ETDB - トランザクションデータのデータベース

このNaturalプロファイルパラメータでは、END TRANSACTIONステートメントで指定されたトランザクションデータを保存するデータベースを指定します。

可能な設定	1~65535、255は除く	データベース ID。 データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
	0	トランザクションデータは、プロファイルパラメータ UDB で指定されたデータベースに書き込まれます。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ET](#) | [ETEOP](#)

74 ETEOP - プログラム終了時の END TRANSACTION の発行

このNaturalプロファイルパラメータでは、Naturalプログラムの終了時（つまり、NEXTモードになる前）に、暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Naturalは、Naturalプログラムの終了時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行します。
	OFF	Naturalは、Naturalプログラムの終了時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

75 ETID - Adabas ユーザー ID

この Natural プロファイルパラメータは、Adabas 関連の情報の ID として使用されます（例えば、END TRANSACTION ステートメントの結果として保存されるデータの ID）。

可能な設定	1~8 文字	この設定は、Adabas OPEN コールのユーザー ID 設定として使用されます。 Adabas ユーザー ID には独自の構文があります。ETID の設定に特殊文字を使用する場合は、『Adabas コマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。
	OFF	ETID は ' ' (空白) は設定されますが、Natural Security では ETID を設定できません。
	' ' (空白)	ETID は ' ' (空白) に設定されます。この値は、Natural Security によって変更されることなく、オープンコール時に Adabas に渡されます。
	\$\$	ETID はプロセス ID で置き換えられます。
デフォルト設定	' ' (空白)	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ETID が NATPARM にもダイナミックにも指定されない場合、Natural は ETID を満たすために *INIT-USER の設定を使用します。

\$\$ は、Natural の起動時に評価されます。

ETID は、Natural でワークファイル名を生成するために使用されることもあります。ETID の設定に特殊文字が使用されている場合、1 台のマシンでまたは再度複数のインスタンスを実行するときに、問題が発生することがあります。解決方法については、Natural パラメータ [TMPSORTUNIQ](#) を参照してください。

76 ETPDB - Entire Transaction Propagator マスタファイルを含むデータベース

この Natural プロファイルパラメータは、Software AG の Entire Transaction Propagator がインストールされている場合にのみ適用されます。

ETPDB では、Entire Transaction Propagator マスタファイルを含むデータベースを指定します。

可能な設定	1~255	データベース ID。詳細については、Entire Transaction Propagator のドキュメントを参照してください。 ETPDB フィールドのエントリは空白で区切る必要があります。
	0	Entire Transaction Propagator は使用されません。
	' ' (空白)	
デフォルト設定	' ' (空白)	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

77 ズ

ETPSIZE - Entire Transaction Propagator Buffer のサイ

この Natural プロファイルパラメータは、Entire Transaction Propagator がインストールされている場合にのみ適用されます。Entire Transaction Propagator バッファのサイズを決定します。

可能な設定	10 - 63	Entire Transaction Propagator バッファのサイズ (KB 単位)。 Entire Transaction Propagator を使用する場合、このパラメータに適切な値を指定する必要があります。Entire Transaction Propagator のドキュメントを参照してください。 要求したスペースを利用できない場合、Entire Transaction Propagator は使用できません。
	0	Entire Transaction Propagator は使用されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

78 FC - INPUT ステートメントの充填文字

この Natural プロファイルパラメータでは、INPUT ステートメントで出力されるフィールドに使用するデフォルトの充填文字を指定します。

可能な設定	任意の文字	デフォルトの充填文字。 フィールドが INPUT ステートメントで端末に書き出される時、保護されていない入力フィールド（フィールド属性指定が AD=A）に前もって埋める値として使用されます。 変更可能な入力フィールド（フィールド属性指定が AD=M）については、フィールド値の残りを埋めるために使用されます。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

79

FC - DISPLAY ステートメントの充填文字

このセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントで列幅全体に出力されるヘッダーの両側を埋める充填文字を指定します。

列グループにわたるヘッダーに適用される GC パラメータとは異なり、FC パラメータは個々の列に適用されます。

可能な設定	任意の文字	個々のヘッダーの充填文字。 FC は、列幅がヘッダー長ではなくフィールド長で決まる場合にのみ適用されます（セッションパラメータ HW も参照）。そうでない場合、FC 設定は無視されます。	
デフォルト設定	空白		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY (FC=*)
```


80 FCDP-ダイナミックに保護された入力フィールド の充填文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、ダイナミックに書き込み保護された入力フィールド（つまり、属性制御変数により属性 AD=P が割り当てられた入力フィールド）の充填文字出力を抑制するために使用します。

FCDP パラメータの設定に応じて、ダイナミックに保護された入力フィールドは、空白または定義された充填文字で埋められて出力されます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ FCDP をセッションパラメータ FCDP で上書きできます。

可能な設定	ON	ダイナミックに保護された入力フィールドは、充填文字で埋められて出力されます。これにより、フィールドに何かを入力できたことをユーザーに示すことができます。	
	OFF	ダイナミックに保護された入力フィールドは、空白で埋められて出力されます。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #FIELD1 (A5)
1 #FIELD2 (A5)
1 #CVAR1 (C) INIT <(AD=P)>
1 #CVAR2 (C)
END-DEFINE
*
INPUT #FIELD1 (AD=Y'_' CV=#CVAR1) /* field is protected
      #FIELD2 (AD=Y'_' CV=#CVAR2) /* field is not protected
...
END
```

上記のプログラムを実行すると、次のように出力されます。

FCDP=ON:

#FIELD1 _____ #FIELD2 _____

FCDP=OFF:

#FIELD1 #FIELD2 _____

81 FDDM - DDM 用の Natural システムファイル

この Natural プロファイルパラメータは、DDM 用の Natural システムファイルに対する 5 つのサブパラメータを指定するために使用します。

このシステムファイルが定義されている場合、すべての DDM が指定されたパスに保存されます。ライブラリに格納された DDM は、Natural からアクセスできません。これは、すべての DDM がシステムファイル FDIC に保存されるメインフレームの Natural に類似しています。

FDDM システムファイルが未定義 (*database-ID* および *file-number*=0) の場合、以前と同様に DDM はライブラリに保存されます。システムファイル FDDM は非アクティブな環境として表示されます。

システムファイルの詳細については、Natural の『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1 - 254	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。Natural プロファイルパラメータ <i>LFILE</i> を参照してください。
	<i>file-number</i>	1 - 255	ファイル番号。
	<i>password</i>	1~8 文字	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 パスワードは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
	<i>cipher key</i>	1~8 の 10 進 数値	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 サイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。

	RO	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合にのみ指定できることを示します。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FDDM=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

例：

```
FDDM=(22,5)
FDDM=(22,5,,12345)
FDDM=(22,5,,,RO)
```

82

FDIC - Predict システムファイル

この Natural プロファイルパラメータでは、Predict でデータの検索や保存に使用される Predict システムファイルに対する 4 つのサブパラメータを定義します。

 **Note:** リモート開発環境では、Development Server File（開発サーバーファイル）が代わりに使用されます。『SPoD - Natural's Single Point of Development』および『Natural Development Server』ドキュメントを参照してください。

システムファイル固有の情報については、次を参照してください。

『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~65535、255は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。FDIC を利用できない場合、DBID フィールドには何も入力しないでください。
	<i>file-number</i>	: 1~5000	ファイル番号。FDIC を利用できない場合、ファイル番号フィールドには何も入力しないでください。
	<i>password</i>	1~8 文字	Predict システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。
	<i>cipher-key</i>	1~8 の 10 進数値	Predict システムファイル用のサイファキー。Predict システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。
	RO		読み取り専用フラグです。このプラットフォームではサポートされません。
デフォルト設定	なし		
ダイナミックな指定	可		

セッション内の指定	不可
-----------	----

このパラメータの構文は次のとおりです。

`FDIC=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)`

例：

`FDIC=(10,5,PASSW1,12345678)`

`FDIC=(1,200,,12345678)`

`FDIC=(1,5)`

`FDIC=(,5)`

83 FL - 浮動小数点数の仮数部長

このセッションパラメータでは、入出力時の浮動小数点変数の仮数部の長さを指定します。

可能な設定	1~16	仮数部の長さ。 全体の長さは、FL + 6（符号、指数部、小数点）になります。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY FL=5    ->    +1.2345E+03
```


84 FNAT - システムプログラム用の Natural システム ファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システムプログラム用の Natural システムファイルにデータベース ID、ファイル番号、パスワードとサイファキー、および読み取り専用フラグを指定するために使用します。

Natural システムファイルは、すべての Natural システムプログラムが取得され、すべてのシステムコマンドが機能するファイルです。このシステムファイルには、Natural システムライブラリに関連するエラーテキストや Natural ヘルプ情報も保存されています。

システムファイル固有の情報については、『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~254	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
	<i>file-number</i>	1~255	ファイル番号。
	<i>password</i>	1~8 文字	Natural システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 パスワードは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
	<i>cipher key</i>	1~8 の 10 進 数値	Natural システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 サイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。

	R0	読み取り専用フラグです。R0 は、Natural システムファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合にのみ指定できることを示します。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FNAT=(database-ID,file-number,password,cipher-key,R0)
```

例：

```
FNAT=(,102)
FNAT=(99,102,,,R0)
FNAT=(99,102,PASSW2)
```

85

FREEGDA-ユーティリティモードでのGDAの解放

この Natural プロファイルパラメータでは、ユーティリティがユーティリティモード（『ユーティリティ』ドキュメントの「ユーティリティのアクティブ化」を参照）で起動される（ユーティリティの名前に対応するダイレクトコマンドを使用）とき、現在のユーザーグローバルデータエリア（GDA）およびアプリケーション独立変数（AIV）をリセットするかどうかを制御します。

可能な設定	ON	現在のユーザー GDA および AIV 変数は、ユーティリティが起動される前にリセットされます。この動作は、ユーティリティがシステムコマンド LOGON <library> を使用して起動されたときの以前の状況に対応しています。
	OFF	ユーティリティが起動される時、現在のユーザー GDA および AIV 変数は保持されます。これに対応してデータサイズが増加し、特定のオペレーティングシステム環境ではスレッド問題を引き起こす可能性があることに注意してください。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

86 FS - ユーザー定義変数のデフォルトのフォーマット／長さの設定

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータは、レポートモードにのみ適用されます。ストラクチャードモードには無効です。

このパラメータでは、レポートモードでのユーザー定義変数の定義に対してデフォルトのフォーマット／長さの設定を有効にするかどうかを決定します。『プログラミングガイド』の「ユーザー定義変数のフォーマットおよび長さ」を参照してください。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ FS をセッションパラメータ FS で上書きできます。

可能な設定	ON	Natural では、レポートモードで新しく導入された変数にデフォルトのフォーマット／長さは割り当てられません。ユーザー定義変数にはすべてフォーマット／長さを明示的に指定する必要があります。	
	OFF	Natural プログラムでフォーマット／長さの指定がないユーザー定義変数に、デフォルトのフォーマット／長さ N7 が割り当てられます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

87

FSEC - Natural Security システムファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Security が使用されている場合にのみ適用されます。

このパラメータでは、Natural Security でセキュリティ情報の検索／保存に使用される Natural Security システムファイルに対する 4 つのサブパラメータを定義します。

システムファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

可能な設定	database-ID	1~65535、 255 は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
		0	DBID=0 では、FSEC を無効に設定します。これは、非セキュリティ環境では必須です。 FSEC システムファイルを利用できない場合、ファイル番号フィールドには何も入力しないでください。
	file-number	1~5000	Natural Security システムファイルのファイル番号。
		0	FNR=0 では、FSEC を無効に設定します。これは、非セキュリティ環境では必須です。 FSEC システムファイルを利用できない場合、ファイル番号フィールドには何も入力しないでください。
	password	1~8 文字	Natural Security システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 パスワードは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。

	<i>cipher-key</i>	1~8 の 10 進 数値	Natural Security システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 サイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
	RO		読み取り専用フラグです。このプラットフォームではサポートされません。
デフォルト 設定	なし		
ダイナミックな 指定	可		
セッション 内の指定	不可		

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FSEC=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

例：

```
FSEC=(10,8)
FSEC=10,5,PASSW1,12345678
FSEC=1,200,,12345678
```

88

FUSER - ユーザープログラム用の Natural システム

ファイル

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ユーザープログラムのシステムファイルに対する 5 つのサブパラメータを定義します。このシステムファイルは、すべてのユーザー作成 Natural プログラムが取得されるデータベースファイルです。

システムファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~254	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
	<i>file-number</i>	1~255	ファイル番号。
	<i>password</i>	1~8 文字	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 パスワードは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
	<i>cipher-key</i>	1~8 の 10 進 数値	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 サイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
	R0		R0 は、Natural ユーザープログラムのシステムファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合にのみ指定できることを示します。
デフォルト設定	なし		

ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

`FUSER=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)`

例：

```
FUSER=(22,5)
FUSER=(22,5,,,RO)
FUSER=(22,5,PASSW2)
```

89 GC - グループヘッダーの充填文字

このセッションパラメータでは、DISPLAYステートメントで対象のグループに属す全フィールド列にわたって出力されるグループヘッダーの両側を埋める充填文字を指定します。

個々の列に適用されるFCパラメータとは異なり、GCパラメータは列グループにわたるヘッダーに適用されます。

可能な設定	任意の文字	グループヘッダーの充填文字。	
デフォルト設定	空白		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY (GC=*)
```


90

GFID - グローバルフォーマット ID

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、フォーマットバッファ変換の再利用に関する Adabas のパフォーマンスに影響するように、グローバルフォーマット ID の Natural 内部生成を制御します。

可能な設定	ON	グローバルフォーマット ID がすべてのビューに対して生成されます。
	OFF	グローバルフォーマット ID は生成されません。
	VID	グローバルフォーマット ID が、ローカル/グローバルデータエリアのビューに対してのみ生成されます。プログラム内で定義されたビューに対しては生成されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	セッション内で、このパラメータの設定を GLOBALS システムコマンドで変更できます。

グローバルフォーマット ID の詳細については、Adabas のドキュメントを参照してください。

91 HC - ヘッダーの中央揃え

このセッションパラメータでは、列ヘッダーの配置を決定します。

可能な設定	C	ヘッダーは中央揃えで表示されます。	
	L	ヘッダーは左揃えで表示されます。	
	R	ヘッダーは右揃えで表示されます。	
デフォルト設定	C		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

DISPLAY (HC=L)

92 HE・ヘルプルーチン

■ HE パラメータの構文	210
■ ヘルプルーチンの実行	212
■ 例	212

HE - ヘルプルーチン

このセッションパラメータでは、フィールドにヘルプルーチンまたはヘルプマップを割り当てます。

可能な設定		下記の「 HE パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	INPUT
		適用可能なコマンド：	なし

ヘルプルーチンは Natural プログラムエディタで作成し、ヘルプマップは Natural マップエディタで作成できます。

その後、ヘルプルーチンまたはヘルプマップは、次のいずれかの方法を使用して、INPUT ステートメントまたはマップの処理中に呼び出すことができます。

- ヘルプ要求を呼び出すフィールドで、ヘルプ文字（デフォルトでは疑問符 (?) を入力し、Enter キーを押します。
- ヘルプ要求を呼び出すフィールドにカーソルを置き、SET KEY ステートメントでヘルプファンクションキーとして定義されている PF キーを押します。

以下では次のトピックについて説明します。

HE パラメータの構文

このパラメータの構文は次のとおりです。

$$HE = \text{オペランド1} \left[, \left\{ \begin{array}{l} \text{オペランド2} \\ = \\ nX \end{array} \right\} \right] \dots 20$$

オペランド定義テーブル：

オペランド	構文要素	フォーマット	ステートメント参照	ダイナミック定義
<i>operand1</i>	C S	A	不可	不可
<i>operand2</i>	C S A	A U N P I F B D T L C G O	不可	不可

構文の説明：

<i>operand1</i>	<i>operand1</i> は、呼び出すヘルプルーチンまたはヘルプマップの名前です。名前には、1~8文字の英数字定数またはユーザー定義変数を使用できます。変数を使用する場合、事前にこれを定義しておく必要があります。名前にはアンパサンド (&) を含めることができます。この文字は実行時に Natural システム変数 *LANGUAGE の現在の値で置き換えられます。この機能により、複数言語のヘルプルーチンまたはヘルプマップを使用できるようになります。
<i>operand2</i>	ヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡される 1~20 のパラメータ (<i>operand2</i>) を指定できます。これらのパラメータは、定数として指定することも、パラメータ値を含むユーザー定義変数として指定することもできます。
=	<p>等号 (=) は、オブジェクト名またはフィールド名をヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡すために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ステートメントレベルで HE= 指定に等号を入力した場合、実行対象のオブジェクト（システム変数 *PROGRAM に含まれる）の名前がヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡されます。例 3 では、渡されるオブジェクト名は PROGRAM1 です。 ■ フィールドレベルで HE= 指定に等号を入力した場合、フィールドの名前がヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡されます。例 3 では、渡されるフィールド名は #PARM1 です。 <p>等号をパラメータとして使用する場合、ヘルプルーチンまたはヘルプマップ内の対応するパラメータをフォーマット/長さ A65 で指定する必要があります。</p>
<i>nX</i>	表記 <i>nX</i> は、省略する（つまり、値が渡されない）パラメータを指定するために使用できます。呼び出されたヘルプルーチンの DEFINE DATA PARAMETER ステートメント内の対応する受け取り側パラメータは、OPTIONAL として定義する必要があります。



Notes:

- オペランドは、INPUT 区切り文字（セッションパラメータ ID で指定）またはコンマで区切る必要があります。ただし、セッションパラメータ DC でコンマを小数点文字として定義している場合は、この目的でコンマを使用することはできません。
- パラメータ指定がある場合、ヘルプルーチンは DEFINE DATA PARAMETER ステートメントで始める必要があります。このステートメントでは、パラメータと同じフォーマットと長さのフィールドを定義します。
- ヘルプルーチンが指定されたフィールドの値をヘルプルーチン内で参照できます。その場合、元のフィールドと同じフォーマットと長さのフィールドを DEFINE DATA PARAMETER ステートメントで指定します。DEFINE DATA PARAMETER ステートメント内で定義されたフィールドのブロックで、このフィールドは必ずパラメータ（存在する場合）の後に定義する必要があります。
- ヘルプルーチンが指定されたフィールドが配列要素である場合、そのインデックスをヘルプルーチンで参照できます。その場合、DEFINE DATA PARAMETER ステートメントの最後にインデックスパラメータをフォーマット/長さ I2 で指定します。配列の次元に応じて、最大 3 つのインデックスパラメータを指定できます。

ヘルプルーチンの実行

フィールドに疑問符 (?) を入力するか、ヘルプキー (SET KEY ステートメントで定義) を押すか、または REINPUT USING HELP ステートメントを使用することでヘルプルーチンまたはヘルプマップを要求した場合、フィールドに入力した他のすべてのデータは、ヘルプ要求がすべて処理されるまでプログラム変数には割り当てられません。



Note: 1つの INPUT ステートメントでは1つのヘルプ要求のみが可能です。つまり、ヘルプが複数のフィールドで要求された場合 (例えば、複数のフィールドに疑問符を入力)、最初のヘルプ要求のみが実行されます。

例

例 1 :

```
/* MAIN PROGRAM
DEFINE DATA
1 #A(A20/1:3)
END-DEFINE
...
SET KEY PF1=HELP
...
INPUT #A (2) (HE='HELPA',=)
...
END
```

例 2 :

```
/* HELP-ROUTINE 'HELPA'
DEFINE DATA PARAMETER
1 #VARNAME (A65)
1 #PARM1 (A20)
1 #VARINDEX (I2)
END-DEFINE
...
```

例 3 :

```
* Program 'PROGRAM1'
*
DEFINE DATA LOCAL
1 #PARM1 (A65) INIT <'valueparm1'>
END-DEFINE
SET KEY PF1 = HELP
FORMAT KD=ON
*
INPUT (AD=M HE='HELP1',=)
  'Enter ? for name of executed object:'
  / #PARM1
*
INPUT (AD=M)
  'Enter ? for field name:'
  / #PARM1 (HE='HELP1',=)
*
END
```

サンプルヘルプルーチン HELP1 内のパラメータデータエリア：

```
* Helproutine 'HELP1'
*
DEFINE DATA PARAMETER
1 #FLD1 (A65)
END-DEFINE
...
```


93 HI - ヘルプ文字

このNatural プロファイルパラメータでは、フィールド固有のヘルプルーチンまたはマップヘルプルーチン（特定のマップに定義されている場合）の呼び出しに使用する文字を定義します。

可能な設定	任意の特殊文字	<p>フィールド固有のヘルプルーチンまたはマップヘルプルーチンの呼び出しに使用する文字。</p> <p>プロファイルパラメータHIで指定する文字は、プロファイル/セッションパラメータCF（メインフレーム端末コマンドの制御文字）、プロファイル/セッションパラメータDC（小数点文字）、プロファイル/セッションパラメータIA（INPUT割り当て文字）、またはプロファイル/セッションパラメータID（INPUT区切り文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。</p>
	空白	<p>数値フィールドにヘルプルーチンが割り当てられている場合、ヘルプルーチンに疑問符(?)を入力してヘルプルーチンを呼び出せるように、内部的に英数字フォーマットに変換されます。</p> <p>この内部的な変換を避けるには（つまり、数値フィールドへの英字の入力を不可にするには）、プロファイルパラメータHIを空白に設定します。ただし、HI=' 'を設定する場合は、NaturalアプリケーションでSETKEYステートメントを使用してヘルプキーを定義する必要があります。そうしないと、どのフィールドのヘルプルーチンも呼び出すことはできません。</p>
デフォルト設定	?	疑問符。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0350N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

94 HW-ヘッダ幅

このセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントでの列出力の幅を決定します。

可能な設定	ON	DISPLAY 列の幅は、ヘッダーテキストの長さまたはフィールドの長さのどちらか長いほうによって決定されます。この規則は、DISPLAY ステートメントにキーワード NOHDR が含まれていたり、DISPLAY ステートメントが 2 番目以降の DISPLAY であるために、ヘッダーテキストが出力されない場合にも適用されます (DISPLAY ステートメントも参照)。	
	OFF	DISPLAY 列の幅は、フィールドの長さによって決定されます。HW=OFF は、ヘッダーを作成しない DISPLAY ステートメント (つまり、NOHDR オプションが指定された最初の DISPLAY ステートメント、または 2 番目以降の DISPLAY ステートメント) にのみ適用されます。	
デフォルト設定	ON		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド:	なし

例:

```
DISPLAY (HW=OFF)
```


95 IA - INPUT 割り当て文字

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、INPUT ステートメント（キーワード/デリミタモード、またはNatural スタックからデータを処理する場合）で入力パラメータ処理の割り当て文字として使用する文字を定義します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ IA をセッションパラメータ IA で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	INPUT ステートメントでの入力パラメータ処理の割り当て文字。IA パラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ プロファイル/セッションパラメータ CF（メインフレーム端末コマンドの制御文字）、DC（小数点文字）、または ID（INPUT 区切り文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ プロファイルパラメータ HI（ヘルプ文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 	
デフォルト設定	=	等号。	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

例：

次の例では、最初にデフォルトの INPUT 割り当て文字 (=) が適用されることを想定していません。

```
** Example 'IACHAR': Input Assign character
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #A (A1)
1 #B (A1)
END-DEFINE
*
INPUT #A #B
*
WRITE 'Field #A:' #A / 'Field #B:' #B
*
END
```

1. コマンドを入力します

```
IACHAR #A=Y,#B=X
```

プログラムが次の出力を生成します。

```
Page          1                                05-01-19  11:05:51
Field #A: Y
Field #B: X
```

2. コマンドを入力します

```
GLOBALS IA=:
```

INPUT 割り当て文字がコロン (:) に設定されます。

3. コマンドを入力します

```
IACHAR #B:X,#A:Y
```

プログラムが次の出力を生成します。

```
Page          1                                06-11-13  12:12:24
Field #A: Y
Field #B: X
```

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

96 IC - 挿入文字

このセッションパラメータを使用して、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の値の直前にある列に挿入される文字列を指定します。出力列の幅は、それに従って拡大します。

 **Note:** セッションパラメータ LC、LCU と IC、ICU の違いは、対応するフィールドが左揃えで出力される場合 (AD=R) にはっきりします。挿入文字は先頭のスペースとフィールド値の間に挿入され、先頭文字は先頭のスペースの前に出力されます。

数値の場合、挿入文字は出力される最初の重要な 10 進数の前に配置されます。

IC および LC パラメータは相互排他的です。

パラメータ IC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート」の「セッションパラメータ」で「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定	任意の文字	挿入される文字列。1~10 文字の文字列を指定できます。 挿入文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列内の空白は、シルコンフлекс (^) で表します。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド:	なし

例:

```
DISPLAY AA(IC=*)  
DISPLAY SALARY(IC='$')
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

97 ICU - Unicode 挿入文字

セッションパラメータ ICU は、セッションパラメータ IC と同一です。違いは、挿入文字が必ず Unicode フォーマットで保存されることです。そのため、ユーザーは別のコードページからの文字が混在した挿入文字を指定でき、インストールされているシステムコードページに関係なく、いつでも確実に正しい文字が表示されるようにすることができます。

このセッションパラメータを使用して、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の値の直前にある列に挿入される文字列を指定します。出力列の幅は、それに従って拡大します。

数値の場合、挿入文字は出力される最初の重要な 10 進数の前に配置されます。

パラメータ ICU および LCU は相互排他的です。

可能な設定	任意の文字	挿入される文字列。1~10 文字の文字列を指定できます。 挿入文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列内の空白は、シルコンフレクス (^) で表します。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」
- 『Unicode とコードページのサポート』ドキュメントの「Natural プログラミング言語のUnicode とコードページのサポート」、「セッションパラメータ」、「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」

98 ID - INPUT 区切り文字

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、キーワード/デリミタモードで INPUT ステートメントのデリミタ文字として使用する文字を定義します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ID をセッションパラメータ ID で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	<p>INPUT区切り文字。このパラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ プロファイル/セッションパラメータ DC (小数点文字) または IA (INPUT 割り当て文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。■ CF パラメータ (メインフレーム端末コマンドの制御文字) または HI パラメータ (ヘルプ文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 <p>プログラム終了のピリオドを INPUT 区切り文字と誤って解釈することがあるため、ピリオド (.) を INPUT 区切り文字として使用しないでください。アスタリスク (*) も使用しないでください。</p>
-------	---------	---

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

99

IKEY - PA キーおよび PF キーの処理

この Natural プロファイルパラメータでは、SET KEY ステートメントで Natural プログラムに定義されていないビデオ端末のプログラムアテンションキー（PA キー）やプログラムファンクションキー（PF キー）をデータ入力に使用したときの処理を指定します。

可能な設定	ON	Natural は Enter キーが押された場合と同じように動作します。
	OFF	有効なキーを押すように促す REINPUT メッセージが出力されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

100 IM - 入力モード

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ビデオ端末入力のデフォルトモードを決定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータIMの設定をセッションパラメータIMで上書きできます。

可能な設定	F	フォームモード。	
	D	デリミタモード。	
デフォルト設定	F		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

デリミタモードとフォームモードの詳細については、INPUT ステートメントを参照してください。

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

101

INIT-LIB - 自動ログオンのライブラリ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural 起動時の自動ログオン（プロファイルパラメータ `AUTO` を参照）に使用されるライブラリの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	有効なライブラリ名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

Natural Security がインストールされている場合、INIT-LIB は評価されません。自動ログオンに使用されるライブラリは FSEC システムファイルから読み込まれます（詳細については、『*Natural Security*』ドキュメントを参照）。

102 IP - INPUT プロンプトテキスト

このセッションパラメータは、INPUT ステートメントのプロンプトテキストを制御するために使用します。

可能な設定	ON	INPUT ステートメントの中で入／出力の前にテキストを指定していなくても、プロンプトテキストとしてフィールド名がデフォルトで表示されます。	
	OFF	INPUT ステートメントの入／出力フィールドに対して自動プロンプトテキストは表示されません。フィールドの前にテキストを明示した場合にのみ、プロンプトテキストが表示されます。	
デフォルト設定	ON		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	FORMAT INPUT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT IP=OFF
```


103 IS - 重複抑制

このセッションパラメータでは、WRITEまたはDISPLAYステートメントで生成される連続行で、同一情報の出力を抑制できます。

SUSPEND IDENTICAL SUPPRESS ステートメントを発行することにより、1件のレコードに対してISパラメータの設定を無効にすることができます。

ISパラメータをESやZPパラメータと組み合わせて、空白行を省略できます。

可能な設定	ON	フィールドの前の値と同一の値は表示されません。 DISPLAY または WRITE ステートメントで、VERT やスラッシュ (/) 指定を使用して複数行を出力する場合は、IS=ON は最初の行にのみ適用されます。	
	OFF	自動的な省略は行われません。	
デフォルト設定	OFF		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT IS=ON
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

104 KC - ステートメントキーワードのチェック

このパラメータは、Natural プロファイルパラメータ `KCHECK` に対応しています。

105 KCHECK-ステートメントキーワードのチェック

このプロファイルパラメータでは、一連の重要なNaturalキーワードに対してプログラミングオブジェクト内のフィールド宣言をチェックします。定義された変数名がこれらのキーワードのいずれかに一致する場合、プログラミングオブジェクトがチェックまたはカタログされたときに構文エラーが報告されます。

可能な設定	ON	キーワードのチェックを実行します。
	OFF	キーワードのチェックを実行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	システムコマンド COMPOPT を参照してください。

KCHECK パラメータでチェックされるキーワードのリストについては、「キーワードのチェックの実行」セクションを参照してください。

すべてのNatural キーワードおよび予約語の概要については、『プログラミングガイド』の「Natural 予約キーワード」を参照してください。

106 KD - キー定義

このセッションパラメータは、PF キー（SET KEY ステートメントを参照）に割り当てられた名前を表示するために使用します。

この情報は、INPUT、WRITE、DISPLAY、および PRINT ステートメントで生成された出力を示す物理画面の下部 2 行に自動的に表示されます。

この情報の表示には 2 行必要であるため、論理ページサイズ（セッションパラメータ PS を参照）を 2 行減らす必要があります。

可能な設定	ON	PF キーに割り当てられた名前が表示されます。	
	OFF	PF キーに割り当てられた名前は表示されません。	
デフォルト設定	OFF		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

グラフィカルユーザーインターフェイスに関する注：

PF キーが定義されている場合、それらはこのパラメータの設定に関係なく常に表示されます。PF キーが定義されていない場合、このパラメータを使用して Enter キー表示のオン/オフを切り替えることができます。

例：

FORMAT KD=ON

107 LC - 小文字から大文字への変換

この Natural プロファイルパラメータでは、入力文字の小文字から大文字への変換を制御します。

 **Note:** このパラメータは、STACK ステートメントで Natural スタックに配置された Natural スタックデータには適用されません。

可能な設定	ON	小文字から大文字への変換は行われません。
	OFF	Natural で、すべての小文字 (STACK ステートメントで配置された Natural スタックからの入力を除く) が大文字に変換されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	アクティブな Natural セッション内で小文字から大文字への変換をダイナミックに無効または有効にするには、端末コマンド %L または %U を使用してください。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

108 LC - 先頭文字

このセッションパラメータを使用すると、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の直前に表示される先頭文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

セッションパラメータ LC および IC は相互排他的です。

パラメータ LC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、「*Natural* プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 先頭文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列で空白を表現するには、シルコンフレクス (^) を使用します。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

DISPLAY {LC=*}

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

109 LCU - Unicode 先頭文字

セッションパラメータ LCU は、セッションパラメータ LC と同一です。違いは、先頭文字が必ず Unicode フォーマットで保存されることです。そのため、ユーザーは別のコードページからの文字が混在した先頭文字を指定でき、インストールされているシステムコードページに関係なく、いつでも確実に正しい文字が表示されるようにすることができます。

このセッションパラメータを使用すると、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の直前に表示される先頭文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

セッションパラメータ LCU および ICU は相互排他的です。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 先頭文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列で空白を表現するには、シルコンフлекс (^) を使用します。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」
- 『Unicode とコードページのサポート』ドキュメントの「Natural プログラミング言語のUnicode とコードページのサポート」、「セッションパラメータ」、「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」

110 LDB - ローカル Adabas データベースのレスポンス待ち時間

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural でローカル Adabas データベースのレスポンスを待つ時間制限を指定します。

可能な設定	1 - 999	時間制限 (秒) 時間制限を過ぎると、該当するエラーメッセージが発行されます。
	0	時間制限の影響は受けません。
デフォルト設定	30	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

Entire Net-Work がインストールされている場合、指定した時間制限も Entire Net-Work のタイムアウト処理に影響します。

111 LE - 処理ループの制限を超過したときの処理

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、取得レコードの制限が READ、FIND、または HISTOGRAM 処理ループで超過したときに実行する処理を制御します。制限は、LIMIT ステートメントを使用して Natural オブジェクトにグローバルに指定するか、データベース処理ループに適用される明示的な制限値を指定することもできます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ LE をセッションパラメータ LE で上書きできます。

可能な設定	ON	データベースループは限界に達すると終了します。プログラムフローは通常、終了したデータベースループに続くステートメントで続行します。Natural オブジェクトの実行が完了すると、次のエラー NAT0957 ('LE=ON' で指定されたデータベースループ制限に達しました。)が発生します。 LE=ON は、システムファイル FUSER にあるライブラリ（つまり、ライブラリ SYSTEM、または接頭辞 SYS で始まっていない名前のライブラリ）からロードされるプログラムにのみ適用されます。	
	OFF	データベースループは限界に達すると終了します。プログラムフローは通常、終了したデータベースループに続くステートメントで続行します。Natural オブジェクトの実行が完了しても、エラーメッセージは表示されません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

LE - 処理ループの制限を超過したときの処理

LE パラメータは、指定した制限付きの READ、FIND、および HISTOGRAM ステートメントに適用されます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 EMPL-VIEW VIEW OF EMPLOYEES
  2 NAME
END-DEFINE
READ (10) EMPL-VIEW BY NAME
  WRITE NAME
END-READ
END
```

LE=OFF：10 レコードの後、ループはメッセージなしで終了します。

LE=ON：10 レコードの後、ループはエラーメッセージ NAT0957 ('LE=ON' で指定されたデータベースループ制限に達しました。) で終了します。

112 LFILE - 論理システムファイルの定義

- LFILE パラメータの構文 257
- LFILE パラメータの例 257

このNatural プロファイルパラメータでは、Software AG 製品の論理システムファイルに関連付ける物理データベースファイルに関する情報を指定します。

独自のシステムファイルを持つ Software AG 製品（例えば、Con-nect や Natural Elite）で、これらのシステムファイルの配置場所を指定するために使用できます。これらの製品では、それぞれのデータ定義モジュール（DDM）でデータベースID 255 および論理ファイル番号（FNR）を使用しています。LFIL パラメータで、その論理ファイル番号に関連付ける物理データベースID（DBID）とファイル番号（および適用可能な場合はパスワードとサイファキー）を指定します。

Natural では物理ファイル情報を記録し、データベース ID=255 およびファイル番号=*logical-ID*.へのデータベースコールにその情報を使用します。

可能な設定	<i>logical-FNR</i>	1 - 251	論理ファイル番号（LFL）このパラメータは必須です。
	<i>physical-DBID</i>	0~65535、255 は除く	物理データベースID（DBID）。データベースID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。
	<i>physical-FNR</i>	1 - 5000	物理ファイル番号（FNR）。
	<i>password</i>		1~8 文字に設定する必要があります。*
	<i>cipher-key</i>		1~8 桁の数値に設定する必要があります。*
	<i>options</i>	R0	読み取り専用アクセス用。R0 フラグは、このプラットフォームではサポートされていません。
デフォルト設定	なし		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0011N USR2004N*	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。	

* データベースファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護/暗号化されている場合、パスワードとサイファキーのみ必要となります。FDDM、FNAT、および FUSER では、パスワードとサイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。

異なる論理ファイルを定義するには、LFIL パラメータ を複数回指定する必要があります。

以下では次のトピックについて説明します。

LFILE パラメータの構文

LFILE パラメータは次のように指定します。

```
LFILE=(論理 FNR,物理 DBID,物理 FNR,パスワード,サイファキー,RO)
```

LFILE パラメータの例

```
LFILE=(180,73,10),LFILE=(251,40,9,TEST99)
```


113

LOGONRQ - RPC サーバー要求にログオンが必要

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC サーバー要求に対してログオンデータが必要かどうかを決定します。

このパラメータはサーバーサイドでのみ指定します。

可能な設定	ON	ログオンは必要です。つまり、サーバーは、RPCサーバー要求にログオンデータを含むクライアントからの要求だけを受け入れます。会話型要求の場合、会話が開かれるときのみ、ログオンデータが必要です。
	OFF	ログオンデータは不要です。それにもかかわらず、ログオンデータは処理されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural クライアントについては、ログオンデータは次のように要求できます。

- SYSRPC サービスディレクトリメンテナンスの LOGON オプションを設定します。
- プロファイルパラメータ DFS のログオンインジケータを使用します。

Natural RPC サーバーを Natural Security で実行している場合、LOGONRQ=ON を設定することをお勧めします。詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「Natural Security での Natural RPC の使用」を参照してください。

Natural RPC の詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

114 LS - 行サイズ

■ プロファイルパラメータ LS	262
■ セッションパラメータ LS	262
■ ステートメントでの指定	263

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY、INPUT、および WRITE ステートメントの行ごとに許可する文字の最大数を指定します。

以下では次のトピックについて説明します。

プロファイルパラメータ LS

プロファイルパラメータとして使用する場合、LS はバッチモードでのみ有効で、物理行サイズを定義します。オンラインモードでは、行サイズは常に物理画面の幅に設定されます。

可能な設定	35 - 250	1 行に許可された文字の最大数。
	0	物理行サイズ (たいていは 132) を使用します。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	

セッションパラメータ LS

可能な設定	2 - 250	1 行に許可された文字の最大数。
デフォルト設定	0	物理行サイズ。
適用可能なコマンド:	GLOBALS	
適用可能なステートメント:	FORMAT SET GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

 **Note:** ライブラリへのログオン時、LS は物理行サイズにリセットされます。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

ステートメントでの指定

ステートメントで指定する場合、LS パラメータはコンパイル時に評価されます。

適用可能なステートメント：	DISPLAY INPUT WRITE	パラメータはステートメントレベルで指定できます。
---------------	---------------------------	--------------------------

115 LT - 処理ループの制限

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural アプリケーション内で取得可能なデータベースレコードの数を制限するために使用します。この制限は、データベースからレコードを取得するすべてのステートメント、つまり次のステートメントに適用されます。

- 処理ループを開始するステートメント (READ、FIND、HISTOGRAM、SELECT など)
- 単一レコードのみを取得するステートメント (FIND UNIQUE、FIND NUMBER、FIND FIRST、GET (SAME)、SELECT SINGLE など)

取得レコードはすべてカウントされ、カウント結果が LT 制限と比較されます。カウントには、FIND、READ、または HISTOGRAM ステートメントの WHERE 節で拒否されたレコードも含まれます。LT 制限は、ステートメント STORE、UPDATE、DELETE、END TRANSACTION、および BACKOUT TRANSACTION には影響しません。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ LT をセッションパラメータ LT で上書きできます。

レコードがデータベースから取得されると、取得レコードのカウントが増加し、その後で LT パラメータの現在の値と比較されます。増加したカウントが現在の LT 値を超過した場合、Natural エラー NAT1003 ("データベースコールに対するグローバルリミットに達しました") が発生します。Natural プログラムがレベル 1 で起動されるたびに取得レコードのカウントがゼロにリセットされます。レベル 1 のプログラムが別の Natural オブジェクトを呼び出した場合は、カウントはリセットされません (『プログラミングガイド』の「呼び出されるオブジェクトの複数レベル」を参照)。したがって、LT パラメータでは、レベル 1 のプログラムによってデータベースから取得されたレコードの数と、そのプログラムによって 1 以外のレベルで呼び出されたオブジェクトの数を制限します。

LT - 処理ループの制限

LT パラメータの値が SET GLOBALS LT= n ステートメントを使用してプログラム内で動的に変更された場合、データベースからレコードを取得する次のステートメントで新しい制限値が有効になります。

可能な設定	0 - 2147483647 セッション内：0～ n (セッション開始時は n = プロファイルパラ メータ LT の値)	取得可能なレコードの最大数。すべての取得レコード (WHERE 節で拒否されたレコードを含む) がカウントされ、この制限値と比較されます。 LT=0 を指定した場合、取得レコードの数に制限は適用されません。
デフォルト設定	99999999	
動的な指定	可	
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント： SET GLOBALS (注参照)
		適用可能なコマンド： GLOBALS (注参照)
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



Note: LT パラメータをステートメント SET GLOBALS またはシステムコマンド GLOBALS と組み合わせて使用する場合、設定する制限値は Natural パラメータファイル NATPARM で定義された LT 値を超えないようにする必要があります。

116

MADIO - 画面 I/O 処理間の最大 DBMS コール

この Natural プロファイルパラメータは、2つの画面 I/O 処理間（またバッチモード）で許可される DBMS コールの最大数を指定するために使用します。

可能な設定	30 - 32767	DBMS コールの最大数。
	0	MADIO=0 は、制限が適用されないことを示します。
デフォルト設定	512	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR1068N *	

指定した制限を超過した場合、Natural プログラムは中断し、ユーザーは該当する Natural エラーメッセージを受け取ります。

117 MAINPR - デフォルトの出力レポート番号の上書き

このNatural プロファイルパラメータは、すべてのNatural レポートのデフォルトの出力レポート番号を上書きするために使用します。値は有効なプリンタ番号（0～31）に設定する必要があります。

可能な設定	0 - 31	有効なプリンタ番号。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR6002N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

MAINPR 設定の指定は、DISPLAY、PRINT、WRITE、または INPUT ステートメントのすべてのプリンタ参照をデフォルト設定（0）から目的のプリンタ番号に変更することと同じです。

指定したレポート番号に対応する物理プリンタは、Natural に定義する必要があります（『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「デバイス／レポート割り当て」セクションを参照）。

118

MASKCME - MASK の MOVE EDITED との互換性

この Natural プロファイルパラメータは、Natural のコンパイラを制御するために使用されま
す。

可能な設定	ON	YYYY マスク文字列に一致する有効な年の値の範囲が 1582～2699 になるの で、MASK オプションは MOVE EDITED と互換可能になります。
	OFF	YYYY マスク文字列に一致する有効な年の値の範囲は 0000～2699 になります。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	システムコマンド COMPOPT を参照してください。

119

MAXBUFF - 最大バッファサイズ

このNaturalプロファイルパラメータは、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

サーバーサイドでは、データを含むクライアント要求を受け取って、結果を送り返すために、サーバーが提供するバッファのサイズを決定します。リモートCALLNATの実行中、このバッファにはCALLNATに渡されたPDAも含まれます。バッファは、すべてのクライアント要求に対して次の3つのデータエリアの最大を保持できるほど十分大きくする必要があります。

- クライアントが受け取る要求
- CALLNAT に渡される内部 PDA
- クライアントに送り返す結果

クライアントサイドでは、NaturalRPCコールの自動実行に提供されるバッファのサイズを決定します。このバッファは、データを含むクライアント要求を構築し、サーバーから結果を受け取るために使用されます。バッファは、クライアントによって送られるすべての要求に対して次の2つのデータエリアの最大を保持できるほど十分大きくする必要があります。

- サーバーへ送る要求
- サーバーから受け取る結果

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「スタブおよびRPC 自動実行」を参照してください。

クライアントおよびサーバー間で交換されるデータのサイズは、SYSRPC ユーティリティのスタブ生成機能によって提供されます。自動RPC実行のサイズを計算するためにも、スタブ生成機能を使用し、その後生成されたスタブを削除する必要があります。

可能な設定	1~2097147	最大バッファサイズ (KB 単位)。
	0	バッファは割り当てられません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ACIVERS 設定への依存

EntireX Broker ノードの場合、Entire Net-Work をトランスポート層として使用しているなら、特別な考慮事項が適用されます。Entire Net-Work では、EntireX Broker スタブに渡される受信バッファ長は起動パラメータ IUBL によって制限され、32 KB を超過しないようにする必要があります。32 KB より大きい PDA を使用するには、受信バッファ長を MAXBUFF 設定から切り離します。

Natural プロファイルパラメータ ACIVERS の設定に応じて、受信バッファ長は次のように設定されます。

- ACIVERS=1 : 32000
- ACIVERS=2 : 30K
- ACIVERS>2 : MAXBUFF で指定された値

したがって、ACIVERS=1 および ACIVERS=2 で、EntireX Broker スタブで受け入れられない MAXBUFF に対する値を指定できます。これは、入力および出力フィールドを使用するときに便利です。この場合、それぞれ別個にカウントされる入力データのサイズと出力データのサイズは制限より小さくなる場合がありますが、バッファに適合する必要がある両方のサイズの合計は制限を超過します。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

120

MAXCL - プログラムコールの最大数

この Natural プロファイルパラメータは、2つの画面 I/O 処理間で許可されるプログラムコールの最大数を指定するために使用します。

指定した制限を超過した場合、Natural プログラムは中断し、ユーザーは該当する Natural エラーメッセージを受け取ります。

可能な設定	10 - 32767	プログラムコールの最大数。
	0	MAXCL=0 は、制限が適用されないことを示します。
デフォルト設定	50	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR1068N *	

121

MAXYEAR - 日付／時刻値の最大年

この Natural プロファイルパラメータでは、定数または端末入力として入力可能な日付／時刻値の年部分の最大値を設定します。

可能な設定	2699	入力可能な最大年は 2699 です。つまり、入力可能な日付の最大値は 2699-12-31 です。
	9999	入力可能な最大年は 9999 です。つまり、入力可能な日付の最大値は 9999-12-31 です。
デフォルト設定	2699	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

MAXYEAR=9999 では、入力可能な日付の最大値を 2699-12-31 から 9999-12-31 に変更します。



Note: MAXYEAR の値を "9999" に設定する前に、アプリケーションの算術演算、または日付／時刻以外のデータフォーマットを持つフィールドへの日付／時刻値の割り当てを十分にチェックし、必要な変更を加える必要があります。そうしないと、実行時に Natural エラーにつながる予期しないオーバーフローが発生する可能性があります。例えば、次の点をチェックする必要があります。

- P6/P12 フィールドでの日付／時刻フィールドの再定義
- 日付／時刻フィールド以外への日付／時刻値の割り当て (P6 := D など)
- 結果が日付／時刻フィールド以外に割り当てられる日付／時刻値での算術演算 (P6 := D + 7 など)

- 後で日付／時刻フィールド以外での算術演算に使用される日付／時刻フィールドの入力（次の例を参照）

```
INPUT D(D)
P6 := D + 1
```

アプリケーションのチェックには、Natural Engineer を使用することをお勧めします。

MAXYEAR の設定は、次に点に影響します。

- コンパイラによる日付／時刻定数のチェック（例えば、`P6 := D'2699-12-31'`）
- 日付／時刻入力フィールドまたは変更可能な日付／時刻フィールドを含む INPUT ステートメント
- ソース日付／時刻フィールドまたはターゲット日付／時刻フィールドを含む MOVE EDITED ステートメント
- 論理条件の IS (D) オプション
- 論理条件の MASK オプション（4桁の年チェック付き (YYYY)）
- 日付フィールドをターゲットオペランドとして使用する VAL システム関数

MAXYEAR 設定は、次の点で同一に必要があります。

- Natural アプリケーションのカタログと実行
- Natural RPC サーバーと Natural RPC クライアント

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フォーマット D（日付）および T（時刻）」
- 『プログラミングガイド』の「日付／時刻の定数」
- 『パラメータリファレンス』ドキュメントのセッションパラメータ [EM](#)

122 MC - マルチプルバリューステートメント

 **Note:** このパラメータはレポートモードでのみ使用できます。

このセッションパラメータでは、DISPLAYまたはWRITEステートメントでインデックスを付けずにマルチプルバリューステートメントを指定したときに、デフォルトで出力する値の個数を決定します。

可能な設定	1 - 191	値の数。	
デフォルト設定	1		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT MC=5
```


123

MFSET - マルチフェッチ設定

この Natural プロファイルパラメータでは、Adabas データベースからレコードを取得するためにマルチフェッチを使用するかどうかを指定します。

可能な設定	NEVER	常にシングルフェッチを使用します。
	OFF	デフォルトとしてシングルフェッチを使用します。これはステートメントレベルで上書きされます。
	ON	デフォルトとしてマルチフェッチを使用します。これはステートメントレベルで上書きされます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

124 ML - メッセージ行の位置

このプロファイルおよびセッションパラメータでは、SET CONTROL 'M' ステートメントでメッセージ行の位置を明示的に設定していないアプリケーションに対してメッセージを表示する行を指定します。オペランド 'M' の詳細については、Natural 端末コマンド %M (メッセージ行の制御) も参照してください。



Note: このプロファイルパラメータはコンフィグレーションユーティリティには存在しません。代わりに、セッションパラメータ ML を使用してください。

可能な設定	B	Natural メッセージは画面の最下行に表示されます。	
	T	Natural メッセージは画面の最上行に表示されます。	
デフォルト設定	B		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET CONTROL 'M'
		適用可能なコマンド:	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

125 MP - レポートの最大ページ数

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、レポート用に生成する最大ページ数を指定します。

Naturalセッション内で、FORMATステートメントを使用して、プロファイルパラメータMPの設定を減らすことができます。ただし、増やすことはできません。セッションパラメータMPで指定した値は、指定したレポートにのみ適用されます。

可能な設定	1 - 99999	指定する値は物理ページ数を表します。使用される開始ページ番号には影響しません。MP値を超過した場合、プログラムはエラーメッセージで終了します。	
	0	ページ制限は定義されません。	
デフォルト設定	0		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	

126 MS - 手動による省略

このセッションパラメータでは、INPUT ステートメント処理中のカーソルの位置を制御します。

可能な設定	ON	下記の例を参照してください。 注意: 設定 MS=ON は、BS2000/OSD ではサポートされていません。	
	OFF	現在入力中のフィールドの全桁に値が入るとすぐに次の入力フィールドにカーソルが移動します。	
デフォルト設定	OFF		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	FORMAT INPUT
		適用可能なコマンド:	なし

例:

```
INPUT (MS=ON) #A #B
```


127 MSGSF - システムエラーメッセージの短い形式

／完全な形式での表示

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システムエラーメッセージの切り捨てを防止するために使用します。

可能な設定	ON	システムエラーメッセージが完全な形式で表示されます。つまり、プログラム名、行番号、および実際のメッセージテキストが表示されます。
	OFF	システムエラーメッセージが短い形式で表示されます。つまり、実際のメッセージテキストのみが表示されます（プログラム名と行番号は表示されません）。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	

デフォルトでは、Natural システムエラーメッセージの構成は次のとおりです。

- プログラムの名前
- エラーが発生した行の番号
- メッセージの実際のテキスト

メッセージが表示されるウィンドウのサイズに応じて、テキストは切り捨てられます。このパラメータでは、このような切り捨てを防止できます。

128 MT - 最大 CPU 時間

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural 開発サーバー (SPoD) または Natural for TSO においてバッチモードで実行されるプログラムにのみ適用されます。

Natural プログラムで使用可能な最大 CPU 時間を決定します。

CPU 時間の測定は、Natural プログラムが NEXT モードから起動したとき、または FETCH ステートメント (つまり、プログラムレベル1) を使用して起動したときに開始されます。バッチモード以外 (Natural 開発サーバー、Natural for TSO) では、CPU 時間測定は端末 I/O ごとに再開されます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ MT をセッションパラメータ MT で上書きできます。

可能な設定	1 - 9999999	最大 CPU 時間 (秒)。 Natural Security がインストールされている場合、プロファイルパラメータ MT は Natural Security 内で上書きできます。Natural Security では、プロファイルパラメータ MT の最大値は "32767" です。MT プロファイルまたはセッションパラメータでの指定で高い値を使用するには、Natural Security 内で MT=0 を指定します。	
	0	MT=0 を指定した場合、Natural CPU 時間制限は適用されません。	
デフォルト設定	60		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



Notes:

1. 対話式モードで動作するプログラムの制限は、使用中の TP モニタで制御されます。
2. 使用可能な最大値は、オペレーティングシステム環境で決定されます。最大値を超過するすべての設定は、オペレーティングシステムでサポートされている最大値に減らされます。
3. CPU時間測定をサポートしていないシステム環境では、制限は経過時間として解釈されます。タイマーサポートのないシステムでは、CPU 時間制限は無視されます。



Important: サーバー自体がオペレーティングシステム制御の CPU 時間制限なしで実行されるサーバー環境では、プロファイルパラメータ MT をゼロ以外の値に設定して、アプリケーションエラーなどが原因で発生する無限ループの形成を防止することをお勧めします。この推奨事項は、Natural RPC および Natural 開発 (NDV) サーバーに適用されます。

129

NATLOG - Natural ログファイル

- 例 294

このNatural プロファイルパラメータは、標準出力（対話式モードの場合）または出力ファイル CMPRINT（バッチモードの場合）に書き込まれない（書き込めなかった）メッセージを記録するために使用します。

可能な設定	OFF	ログメカニズムを無効にします。
	ERR	エラーメッセージを記録します。
	INF	情報と正常メッセージを記録します。
	WRN	警告メッセージを記録します。
	ALL	すべてのタイプのメッセージを記録します。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

NATLOG ファイルの場所は、Natural の TEMP ディレクトリ（ローカルコンフィグレーションファイル NATURAL.INI で指定）です。このパスが不明な場合、Natural は現在のディレクトリにファイルを作成します。

user-ID/et-ID 情報を取得できた場合、Natural は次のファイル名を作成しようとします。

NATURAL_<user-ID>_<et-ID>.LOG

user-ID および *et-ID* を取得できなかった場合、ファイル名 NATURAL.LOG が使用されます。

ファイル名の例：

Natural バッチ処理は *user-ID=SYSTEM* および *et-ID=14* で実行しており、そのときの作成ファイル名は NATURAL_SYSTEM_14.LOG になります。

user-ID を取得できなかった場合（Natural の初期化段階でエラーが発生したケース）、作成ファイル名は NATURAL.LOG になります。

例

次の例は、Natural ログファイルの内容を示しています。ファイルの先頭には、いくつかの環境情報（例えば、Natural バージョン、現在使用中のパラメータファイルなど）を持つヘッダーがあります。2つのエントリが続いています。最初のエントリは、バッチモードに必要なI/Oチャネルを表示します。2番目のエントリは、エラーメッセージを示します。両方のメッセージは統計サマリにカウントされます。

NATLOG 出力内容の例 (Windows) :

```
# #####
#           N a t u r a l   L o g   F i l e
# #####
#
# Logging started at : 06-Mar-2007 08:10:12.044
#
# Natural Version      : V v . r . s SAG 2003
# Server Type         : (none)
# Device              : BATCH (real)
# Parameter File      : NATPARM
#
# User ID             : NATURAL
# ET ID              : TEST
# Network User ID    : MYDOMAIN\NATURAL
#
# Host Name          : PCNAT
# Machine Class      : PC
# Operating System   : WNT-X86 4.0 (1381)
#
# Process ID         : 274
#
# NATLOG Option      : ALL
#
# #####
# -----
# 08:10:13.003 NATURAL      INFORMATIONAL STATISTICS: INF=1 WRN=0 ERR=0
# -----
# setting of parameter CMSYNIN (command file)
# D:\TEMP\syn37437.tmp
# setting of parameter CMOBJIN (input file)
#
# setting of parameter CMPRINT (output file)
# D:\TEMP\out37437.tmp
# -----
# 08:10:15.020 NATURAL      ERROR          STATISTICS: INF=1 WRN=0 ERR=1
# -----
#           NATURAL Startup Error: 42
#           Batch mode driver error.
#           Parameter CMOBJIN not set.
```


130

NATVERS - Natural 環境間の切り替え

この Natural プロファイルパラメータは、各種 Natural 環境（つまり、*err*、*txt*、*bin*、*etc*、*samples*、および *tmp* サブディレクトリ）へのアクセスを可能にします。

可能な設定	任意の文字列	Natural バージョンを決定します。
デフォルト設定	<i>v.r.s</i>	注意: <i>SAG.INI</i> の <i>DEFAULT-VERSION</i> エントリは必要なくなりました。
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

v.r.s は Natural の現在のバージョンです。次のサンプルプログラムでは、文字 *v.r.s* は *version*、*release*、*system maintenance level* を表します。

入力した NATVERS 値は、Natural セッションで使用する *SAG.INI* セクションを決定するために Natural で使用されます。デフォルトの Natural インストールでは、インストールされた Natural 環境をポイントする *SAG.INI* ファイルにセクションが作成されます。

Natural インストールで自動的に Natural バージョンが識別され、インストールされた Natural 環境をポイントする *SAG.INI* ファイルにセクション `[NATURAL=v.r.s]` が作成されます。次の例のようになります。

```
[NATURAL-v.r.s]  
PROD_API=C:\Program Files\Software AG\v.r.s\Bin\natprd32.dll  
NATGUI_BMP=C:\Program Files\Software AG\Natapps\Pic  
NATDIR=C:\Program Files\Software AG
```

```
NATINI=C:\Program Files\Software AG\v.r.s\Etc  
[NATURAL-v.r.s-END]
```

自動的にインストールされた環境以外の環境にアクセスするには、次の例のように、各環境用に新規セクションを作成してください。

```
[NATURAL-Serverv.r.s]  
NATVERS=v.r.s  
PROD_API=\\Server\Program Files\Software AG\v.r.s\Bin\natprd32.dll  
NATGUI_BMP=\\Server\Program Files\Software AG\Natapps\Pic  
NATDIR=\\Server\Program Files\Software AG  
NATINI=\\Server\Program Files\Software AG\v.r.s\Etc  
[NATURAL-Serverv.r.s-END]
```

置き換えられた設定は、その後も *SAG.INI* ファイルに含まれており、NATVERS でそれらを指定することによって対応する Natural 環境に切り替えるために使用できます。

131

NC - Natural システムコマンドの使用

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Natural セッション中に Natural システムコマンドを使用できるようにするかどうかを制御します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ NC をセッションパラメータ NC で上書きできます。

可能な設定	ON	システムコマンドは使用できません。ただし、FIN、LAST、LOGOFF、LOGON、RENUMBER、RETURN、SETUP、および TECH を除きます。 Natural Security がインストールされている場合、NC プロファイルパラメータの設定にかかわらず、Natural Security で設定したシステムコマンド制限が有効になります。 メインフレームコンピュータの Natural 開発サーバー環境では、NC=ON が指定されている場合でも、Natural 開発サーバーに対しては値 "OFF" としてみなされます。 クライアントサイドで NC=ON が指定されている場合、クライアントサイドで発行される後続のシステムコマンドは上記のように拒否されます。	
	OFF	すべてのシステムコマンドを使用できます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



Note: Natural 端末コマンドおよびユーザー作成コマンド（オブジェクトモジュール名）は、NC パラメータの影響を受けません。

132

NCFVERS - NCF ファイルプロトコルバージョン

この Natural プロファイルパラメータは、バージョン 6.1 より低い Natural バージョンとの下位互換を可能にします。使用される Entire Connection フォーマットファイル (.NCF) のプロトコルバージョンを指定します。ファイル拡張子 .NCD を持つタイプ ENTIRE CONNECTION または DEFAULT のワークファイルが書き込まれるとき、この Entire Connection フォーマットが生成されます。

可能な設定	0	Entire Connection プロトコルバージョン0のフォーマットファイルが書き込まれます。作成されたフォーマットファイルは、バージョン 6.1 より低い Natural バージョンのファイルと互換性を持ちます。
	2	Natural バージョン 6.1 または 6.2 で作成される Entire Connection プロトコルバージョン2のフォーマットファイルが書き込まれます。
	3	Natural バージョン 6.3 で作成される Entire Connection プロトコルバージョン3のフォーマットファイルが書き込まれます。
デフォルト設定	3	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

ワークファイルタイプ ENTIRE CONNECTION および Entire Connection フォーマットの詳細については、DEFINE WORKFILE ステートメントドキュメントの ENTIRECONNECTION、および『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイルフォーマット」を参照してください。

133 NL - 数値出力長

このセッションパラメータでは、DISPLAY、INPUT、PRINT、またはWRITE ステートメントで使用する数値フィールドのデフォルトの入力／出力長を決定します。

NL パラメータはグループに対して指定しないでください。

フィールドに編集マスクと NL パラメータの両方が指定されている場合は、編集マスクが優先されます。

可能な設定	<i>nn.m</i>	<p>長さは <i>nn.m</i> の形式で指定します。 <i>nn</i> は小数点前の桁数を表し、 <i>m</i> は小数点後の桁数を表します。</p> <p><i>m</i> の指定は任意です。 <i>m</i> の値は "7" を超えないようにする必要があります。 <i>n+m</i> の合計は "29" を超えないようにする必要があります。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> NL がフィールド長より短いと、値は桁落ちします。桁落ちしてもエラーにはなりません。 NL がフィールド長より長いと、値は空白で埋められます。入力フィールドが桁落ちしてもエラーにはなりません。 	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY #AA(NL=20) #AB(NL=3.2)
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

134 NOAPPLERR - メッセージ番号接頭文字 NAT の省略

このNaturalプロファイルパラメータは、ユーザー指定のエラーメッセージのメッセージ番号接頭文字「NAT」を省略するために使用します。

可能な設定	ON	接頭文字「NAT」は、エラーメッセージには表示されません。
	OFF	接頭文字「NAT」は、エラーメッセージに表示されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

135 OPF - ヘルプルーチンによる保護されたフィールドの上書き

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、書き込み保護されたフィールド（属性定義 AD=P）の内容を、フィールドに割り当てられたヘルプルーチンで上書きできるかどうかを指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ OPF をセッションパラメータ OPF で上書きできます。

可能な設定	ON	フィールドが書き込み保護されていても、フィールドに割り当てられたヘルプルーチンでフィールドの内容を上書きできます。	
	OFF	ヘルプルーチンでは書き込み保護されたフィールドの内容を上書きできません。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Notes:

1. OPF プロファイルパラメータは、ヘルプルーチンが呼び出されるフィールドにのみ適用されます。ヘルプルーチンに明示的に渡されるパラメータには影響しません。つまり、ヘルプが呼び出されるフィールドをヘルプルーチンに渡すパラメータとして明示的に指定しても、OPF プロファイルパラメータは効果がありません。
2. また、レポートモードでは、SET GLOBALS ステートメントを使用して OPF 設定を変更できます。

136 OPRB-データベースのオープン／クローズ処理

- OPRB 文字列の構文 311

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッション中の Adabas C Open/Close コマンドの使用を制御します。

可能な設定	OFF	OPRB パラメータを "OFF" に設定した場合、Natural システムファイルに UPD (アクセス/更新) を要求する Adabas OP コマンドを発行して Natural セッションが開始されます。Natural でも、すべての ISN リストを解放するために RELEASE CID (Adabas RC) コマンドが発行されます (Natural FIND ステートメントの RETAIN 節で指定された ISN リストは解放されません)。
	OPRB=(string)	下記の構文に従って Open 要求を指定できます。リストの例も参照してください。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

次のいずれかの条件が当てはまる場合にこのパラメータが必要となります。

- アクセス/更新対象の Adabas ファイルの明示的なリストが提供される。例えば、Adabas クラスターの更新または排他ファイル制御が要求された場合、これが必要になります。
- 初期の Adabas OP コマンドで使用する Adabas レコードバッファを明示的に提供できる。データベースにアクセスするには、DBID とファイル番号をその対応するアクセス権とともに OPRB 文字列で指定する必要があります。
- Adabas フォーマット W の文字セットを指定します。データベースにアクセスするには、DBID と必要なエンコード名を指定する必要があります。

値に空白があってはならず、全体をカッコで囲む必要があります。関連する Adabas ドキュメントに定義されている規則に従います。

Adabas 構文に加えて、内部ファイル番号は $x-y$ 表記で指定できます (つまり、 $x\sim y$ の間のすべての番号)。

OPRB 文字列の構文

DBID=(*x*) では、次のアクセス権に対するデータベースを指定します。

UPD=(<i>file-list</i>)	ファイルリストのファイルに対して更新権限（読み取り/書き込み）を指定します。
ACC=(<i>file-list</i>)	ファイルリストのファイルに対してアクセス権限（読み取り）を指定します。
EXU=(<i>file-list</i>)	ファイルリストのファイルに対して排他的な更新権限（排他的読み取り/書き込み）を指定します。
WCODE= <i>encoding</i>	Adabas ユーザーセッションでの W フィールドのエンコードを指定します（メインフレーム向け Adabas）。メインフレーム上の Adabas に必要なエンコードコードは 4095 です。
WCHARSET= <i>charset</i>	Adabas ユーザーセッションのレコードバッファおよびバリュースタックの W フィールドに使用されるデフォルトの文字セットを指定します（UNIX、OpenVMS、および Windows 向け Adabas）。UNIX、OpenVMS、および Windows 上の Adabas に必要なエンコード名は UTF-16LE または UTF-16BE です。

レコードバッファの最後のドット (.) は、OPRB 文字列に自動的に追加されるため、省略できます。

DBID=0 では、デフォルトのレコードバッファのエントリを指定します。これが OPRB 文字列の最初の DBID である場合は省略できます。このデフォルトのレコードバッファは、要求されたデータベースに対する特定のエンタリがない場合に使用されます。

キーワード ACC、UPD、EXU、および WCODE または WCHARSET を組み合わせる場合、関連する Adabas ドキュメントに定義されている規則に従う必要があります。Natural では、Natural セッションの開始時に OP コマンドを発行し、セッションの終了時に CL コマンドを発行します。Natural プログラムの最後で、保持された ISN リストを解放するために必要な RC コマンドのみが発行されます。

例 1:

```
(ACC=2,3,4,DBID=15,UPD=3,4,ACC=5)
```

次のエントリが定義されました。

```
'UPD=3,4,ACC=5.' for DB 15  
'ACC=2,3,4.' for other databases (DB 0)
```

例 2 :

```
(DBID=15,ACC=2-7)
```

次のエントリが定義されました。

```
'ACC=2,3,4,5,6,7.' for DB 15; access to other databases is not permitted.
```

例 3 :

```
(DBID=0,ACC=2,3,4,5.)
```

次のエントリが定義されました。

```
'ACC=2,3,4,5.' for all databases (DB 0).
```



Note: Natural Security がインストールされている場合、オープン/クローズ処理は Natural Security を使用しない場合と同様に動作します。セキュリティプロファイルの OPRB パラメータは将来の使用のためにのみ用意されています。

例 4 :

```
(DBID=0,ACC=2,3,4,5,DBID=12,WCHARSET='UTF-16LE',UPD=3-10)
```

次のエントリが定義されました。

```
'ACC=2,3,4,5.' for all databases (DB 0).
```

```
WCHARSET='UTF-16LE',UPD=3,4,5,6,7,8,9,10. for DB 12.
```

137 PARM - 代替パラメータファイル

この Natural プロファイルパラメータでは、デフォルトのパラメータファイル NATPARM の代わりに使用するパラメータファイルを指定し、*PARM_PATH* によってポイントされるディレクトリ内の *NATPARM.SAG* の読み込みアクセスを必要とします。

可能な設定	1~8 文字	有効なファイル名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

138 PC - ピリオディックグループカウント

このセッションパラメータはレポートモードでのみ使用できます。DISPLAYまたはWRITEステートメントでインデックスを付けずにピリオディックグループ（またはピリオディックグループ内のフィールド）を指定したときに、デフォルトで出力するピリオディックグループオカレンスの数を決定します。

可能な設定	1 - 191	値の数。
デフォルト設定	1	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	INPUT DISPLAY WRITE PRINT	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

例：

```
FORMAT PC=5
```

139 PCHECK-CALLNAT ステートメントのパラメータ チェック

この Natural プロファイルパラメータは、Natural のコンパイラを制御するために使用されま
す。

可能な設定	ON	<p>コンパイラが、CALLNAT ステートメントで指定されたパラメータの数値、フォーマット、長さ、および配列インデックスの限度をチェックします。また、DEFINE DATA PARAMETER ステートメントの OPTIONAL 機能もパラメータチェックで考慮されます。</p> <p>パラメータチェックは、CALLNATパラメータと、呼び出されたサブプログラムの DEFINE DATA PARAMETER 定義との比較に基づいて行われます。</p> <p>このチェックを行うには、次の条件が必須です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 呼び出されるサブプログラム名が、英数字の変数としてではなく英数字の定数として定義されている。 ■ 呼び出されるサブプログラムが、カタログ化オブジェクトとして利用可能である。 <p>これに該当しない場合、PCHECK=ON には何の効力もありません。</p>
	OFF	パラメータチェックは実行されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	システムコマンド COMPOPT を参照してください。

140

PERSIST-パラメータファイルのパーシスタント

フラグ

 **Caution:** この Natural プロファイルパラメータは、開発中にパラメータ設定の取り扱いを容易にするためのものです。その使用は、単一の人物または特定のタスクによって使用されるパラメータファイルに制限する必要があります。同一のパーシスタントパラメータファイルに同時に複数のアクセスが行われると、予期しない障害が生じる可能性があります。

PERSIST は、コンフィグレーションユーティリティでのみ設定できます。

可能な設定	ON	PERSISTパラメータを"ON"に設定すると、パラメータファイルはパーシスタントとしてマークされます。つまり、Natural スタジオのセッション中に変更されるすべての設定が、セッション終了時に、現在使用されているパラメータファイルに保存されます。次回、Natural スタジオがそのパラメータファイルを使用して開始される時、同じパラメータ設定で再開されます。 保存される設定には、セッション開始時に行われたもの（Natural が起動されたときにオペレーティングシステムのコマンドプロンプトで発行されるダイナミックパラメータ）およびセッション中に（例えば、Natural システムコマンド GLOBALS、COMPOPT を使用して）変更されたものが含まれます。
	OFF	パラメータファイルには、パーシスタントとしてのフラグは設定されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

141 PM - 出力モード

■ プロファイルパラメータ PM	322
■ セッションパラメータ PM	322

以下では次のトピックについて説明します。

プロファイルパラメータ PM

この Natural プロファイルパラメータでは、フィールドの出力方法または表示方法を指定します。

可能な設定	I	プログラム実行時のデフォルトの画面方向は右から左です。 新しいダイアログの RTL 属性がチェックされます。
	R	プログラム実行時のデフォルトの画面方向は左から右です。 新しいダイアログの RTL 属性はチェックされません。
デフォルト設定	R	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	
アプリケーションプログラミング インターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

セッションパラメータ PM

このセッションパラメータは、フィールドの表示方法を指定するために使用します。

可能な設定	PM=I	フィールド方向が逆になります。
	PM=N	ハードコピー出力では、フィールドは無視されます（つまり、出力されません）。
デフォルト設定	なし	デフォルトのフィールド方向が使用され、ハードコピー出力用としてみなされます。
適用可能なステートメント	COMPRESS DEFINE DATA DISPLAY FORMAT INPUT MOVE PRINT WRITE	

設定 PM=I を使用する方法の詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』の「双方向言語サポート」を参照してください。

142 PRGPAR-終了時に制御を受け取るプログラムに渡されるデータ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural の終了時に制御を受け取るプログラムに渡されるデータを指定します（プロファイルパラメータ [PROGRAM](#) も参照）。

可能な設定	任意の有効な文字列	渡されるデータ。
デフォルト設定	空白	データは渡されません。
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

143 PROGRAM-セッション終了後に制御を受け取る

Natural 以外のプログラム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションの終了後に制御を受け取る Natural 以外のプログラムを指定します。

可能な設定	1~12 文字	Natural 以外のプログラム
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミング インターフェイス	USR6204N (すべてのプ ラットフォーム用)	『ユーティリティ』ドキュメントの 「SYSEXT-Natural アプリケーションプロ グラミングインターフェイス」を参照して ください。

プロファイルパラメータ PROGRAM で指定したプログラムには、TERMINATE ステートメントでデータを渡すことができます。

144

PS - Natural レポートのページサイズ

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY または WRITE ステートメントで作成される Natural レポートに使用されるページ当たりの最大行数を指定します。プロファイルパラメータとして使用する場合、PS パラメータはバッチモードでのみ有効で、物理ページサイズを定義します。オンラインモードでは、物理ページサイズは常に物理画面の高さに設定されます。

可能な設定	1 - 250	ページ当たりの最大行数	
	0	物理ページサイズが使用されます。 出力する最初のレポート（レポート0）に PS=0 を指定した場合、物理デバイスページサイズから 1 を引いた行数が使用されます。 レポート 1~31 に PS=0 を指定した場合、自動的な改ページ処理が抑制されます。つまり、自動改ページ処理は行われません。	
デフォルト設定	0		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT SET GLOBALS WRITE
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

『プログラミングガイド』の「ページサイズ-PS パラメータ」も参照してください。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

145 PSIGNF - パック十進数の正記号の内部表現

このNaturalプロファイルパラメータは、パック十進数の正記号の内部表現を定義するために使用します。

可能な設定	ON	パック十進数の正記号が内部的に H'F' と表現されます。
	OFF	パック十進数の正記号が内部的に H'C' と表現されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	『システムコマンド』ドキュメントのシステムコマンド COMPOPT を参照してください。

146 RCFIND-FIND ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理

この Natural プロファイルパラメータでは、FIND ステートメント処理ループの実行中に Adabas レスポンスコード 113（要求した ISN が見つからない）が返された場合の対処を指定します。

可能な設定	ON	レスポンスコード 113 によってプログラムが終了しました。
	OFF	レスポンスコード 113 は無視され、FIND ループの処理は次のレコードの読み込みに続きます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

147 RCGET - GET ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理

この Natural プロファイルパラメータでは、GET ステートメントの実行中に Adabas レスポンスコード 113（要求した ISN が見つからない）が返された場合の対処を指定します。

可能な設定	ON	レスポンスコード 113 によってプログラムが終了しました。
	OFF	レスポンスコード 113 は無視され、システム変数 *ISN が "0" に設定され、処理が継続します。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

148

RDACTIVE - リモートデバッグの有効化

この Natural プロファイルパラメータでは、Windows コンピュータ上でリモートデバッグを使用するかどうかを指定します。RDACTIVE は、システムコマンド DEBUG が使用されたときにのみ関連します。プロファイルパラメータ **RDNODE**（関連ノード名を指定）および **RDPORT**（ポート番号を指定）と組み合わせて使用します。

可能な設定	ON	リモートデバッグは有効になります。 DCOM（Windowsのみ）またはRPCサーバーの場合、リモートデバッグセッションが自動的に開始されます。
	OFF	リモートデバッグは有効ではありません。ただし、Natural スタジオに統合されているデバッグを使用することはできます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



Note: 詳細については、『デバッグ』ドキュメントを参照してください。

149

RDNODE - リモートデバッガノード名

この Natural プロファイルパラメータでは、リモートデバッガを呼び出す Windows コンピュータのノード名を指定します。

可能な設定	文字列	ノード名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



Note: 詳細については、『デバッガ』ドキュメントを参照してください。

150

RDPORT - リモートデバッグポート

この Natural プロファイルパラメータでは、Windows コンピュータ上のリモートデバッグがインストールされたポート番号を指定します。

可能な設定	0 - 9999	ポート番号。 デフォルトでは、デバッグサービスは Windows コンピュータのポート 2600 にインストールされます。したがって、デフォルトで UNIX コンピュータの RDPORT 設定を残すことができます。ただし、Windows 上のポート 2600 が別のサービス用に予約されており、別のポート番号が指定されている場合、それに応じて RDPORT を変更する必要があります。
デフォルト設定	2600	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



Note: 詳細については、『デバッグ』ドキュメントを参照してください。

151

RDS - リモートディレクトリサーバーの定義

この Natural プロファイルパラメータでは、最大 10 台のリモートディレクトリサーバーを定義できます。各リモートディレクトリサーバーに対して、最大 5 つのサブパラメータを指定します。

RDS はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	<i>server-name</i>	サーバー名 (1~8 文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。	
	<i>server-node</i>	サーバーノード (1~8 文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。	
	<i>subprogram</i>	インターフェイスとして使用する CALLNAT サブプログラムの名前 (1~8 文字、デフォルトは RDSSCDIR)。	
	<i>logon-indicator</i>	ログオンインジケータ。何も指定しない場合、空白がデフォルトになります。	
		L	クライアントは、クライアントの現在のライブラリのライブラリ名を使用して、サーバーへの Natural ログオンを開始します。
空白		サーバーログオンは実行されません。	
	Windows プラットフォームに関する注："L" の代わりに、選択ボックスをチェックしてください。		
	<i>transport-protocol-name</i>	使用されるトランスポートプロトコル。"ACI" 以外に設定可能な値はなく、これがデフォルトです。	
デフォルト設定	なし	サブパラメータのデフォルトについては、上記を参照してください。	
ダイナミックな指定	可	下記を参照してください。	

セッション内の指定	不可	
-----------	----	--

ダイナミック指定の構文は次のとおりです。

1 台のサーバーを使用：

```
RDS=(server-name,server-node-name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)
```

2～10 台のサーバーを使用：

```
RDS=((server-name,server-node  
name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)(server-name,server-node  
name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)...(server-name,server-node  
name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name))
```

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

152

RECAT - ダイナミックな再カタログ

この Natural プロファイルパラメータでは、現在実行中のプログラム内で定義したグローバルデータエリア定義に矛盾が検出された場合、つまり、プログラム内のグローバルデータエリアが現在使用中のグローバルデータエリアの定義と合致しない場合の Natural の処理を指定します。

可能な設定	ON	<p>重要: このプロファイルパラメータは、バージョン 2.3 以降の Natural オブジェクトにのみ適用されます。</p> <p>Natural は、エラーメッセージを発行し、システムコマンド CATALOG、PURGE、および SAVE を無効にします。</p> <p>RECAT パラメータが "ON" に設定されていて、オブジェクトがソースおよびカタログ形式の両方で存在する場合、ソースオブジェクトとカタログ化オブジェクトは別々に処理できません。ソースオブジェクトとカタログ化オブジェクトの整合性を維持するため、Natural はシステムコマンド CATALOG を無効にします (CATALL で呼び出されたときも同様)。また、対応するカタログ化オブジェクトが存在するソースに対してシステムコマンド PURGE および SAVE を無効にします。</p> <p>注意: 特定のコマンド (PURGE など) に対する条件を満たすオブジェクトのみが対応する選択ボックスに表示されます。</p>
	OFF	Natural はエラーメッセージを発行します。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

153 REINP-不正データに対する内部的な REINPUT ステートメントの発行

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、不正データに対する内部的な REINPUT を回避するために使用します。

デフォルトでは、INPUT ステートメントに回答して不正なデータが入力された場合、Natural は内部的な REINPUT ステートメントを自動的に発行します。このパラメータでは、このメカニズムをオフに切り替えることができます。それにより、アプリケーションでこのような入力エラーを独自に処理できるようになります。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ REINP をセッションパラメータ REINP で上書きできます。

可能な設定	ON	不正なデータが入力されたとき、内部的な REINPUT ステートメントが発行されます。	
	OFF	不正なデータが入力されたとき、内部的な REINPUT ステートメントは発行されません。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N		

154 ROSY-システムファイルへの読み取り専用アクセス

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural システムファイル **FDDM**、**FNAT**、**FUSER**、**FDIC***、および **FSEC*** に対する修正を無効にします。

* このプラットフォームではサポートされていません。

可能な設定	ON	システムファイルに対してデータの書き込み、変更、削除を行うことはできません。Natural は、これらのシステムファイルを修正する操作を実行する代わりに、エラーメッセージを発行します。
	OFF	システムファイルに対してデータの書き込み、変更、削除を行うことができます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

155 RTINT - ランタイム中断の許可

このNaturalプロファイルパラメータでは、オペレーティングシステムの中断用キーの組み合わせ（CTRL+BREAK）を使用して、応答のない実行中のNaturalアプリケーションを中断できるようにするかどうかを決定します。

可能な設定	ON	中断を許可します。
	OFF	中断を許可しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『プログラミングガイド』の「実行中のNaturalアプリケーションの中断」を参照してください。

156 SA - サウンド端末アラーム

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、端末アラーム機能を使用するかどうかを指定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ SA をセッションパラメータ SA で上書きできます。

可能な設定	ON	ユーザーが入力を促されるたびに端末アラームが鳴ります。	
	OFF	入力を促すために端末アラームは使用されません。ただし、REINPUTステートメントの SOUND ALARM オプションでアラームを有効にすることはできます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

157 SB - 選択ボックス

■ 構文上の考慮事項	354
■ ランタイムの考慮事項	355

INPUT ステートメントの選択ボックスは、メインフレームコンピュータでのみ利用可能です。他のプラットフォームでは、選択ボックスはマップエディタでのみ定義できます。

選択ボックスは入力フィールドに付加することができます。選択ボックスはコーディングをプログラム内で直接行うことができるため、フィールドにヘルプルーチンを添付する方法に代わる最適な選択肢です。ヘルプルーチンと同様に、特別なプログラムは必要ありません。

英字タイプのすべての INPUT 変数に対して、このフィールドが入力か出力かに関係なく、選択ボックス節を定義できます。

構文は次のとおりです。

```
SB=operand1 [,operand1]...
```

operand1 は、選択ボックスを項目で満たすために使用される値オペランドを表します。

オペランド	構文要素	フォーマット	ステートメント参照	ダイナミック定義
<i>operand1</i>	C S A	A	可	不可

SB では、選択ボックス内に表示する値を指定します。

選択ボックスをフィールドに割り当てるには

次の構文例を使用して、Natural プログラムの英字 INPUT フィールドに属性 SB を指定します。

```
INPUT #FLD (SB='value1', #ITEM1, #ITEM2(1:3), #ITEM3(*))
```

以下では次のトピックについて説明します。

構文上の考慮事項

選択ボックスとヘルプルーチンの両方を 1 フィールドに割り当てることができます。

選択ボックスは、INPUT ステートメントのすべての変数フィールドに定義できます。例外は次のとおりです。

システム変数	例：*PROGRAM、*COM
名前付き定数（メインフレームのみ）	DEFINE DATA ステートメントの CONST 節で定義されます。

SB 属性に加えて、他の属性（例：AD または CD）も同様に定義できます。

選択ボックスは、AD=A または AD=M の場合と同様に、修正可能である必要はありません。つまり、AD=0 のように書き込み保護されている出力フィールドにでも、選択ボックス（および選択値）を提供することが可能です。AD=0 を使用する場合、ユーザーは事前に定義された値のセットから選択するように強制されます。これらの値は選択ボックスに表示されます。

ランタイムの考慮事項

選択ボックスの位置

選択ボックスを含むプログラムを実行するとき、選択ボックスは、ヘルプウィンドウに使用される同じ位置決めアルゴリズムに従って画面に配置されます。つまり、選択ボックスのサイズと位置は、フィールドの「近く」に自動的に決定されます。

選択ボックスの属性

フィールドに割り当てられたカラーおよび高輝度属性は、対応する選択ボックスに表示される値にも適用されます。

選択ボックスの編集マスク

編集マスクがフィールドに定義されている場合、その編集マスクはすべての選択ボックスの値に適用されます。

フィールドに編集マスクを定義するには

INPUT ステートメントを使用して、フィールドに編集マスクを定義できます。次のコード例を参照してください。

```
DEFINE DATA  
LOCAL  
1 A(A4)  
END-DEFINE  
MOVE 'ABCD' TO A  
*  
SET KEY PF1 = HELP  
FORMAT KD=ON  
*  
INPUT A (AD=M EM=X.X.X.X SB='1234','WXYZ')  
WRITE A  
END
```

選択ボックスの行サイズ

選択ボックスの行サイズは、ボックスが対応するフィールドの長さに一致します。

選択ボックスに入力された値が選択ボックスの行サイズを超過した場合、値は切り捨てられます。

選択ボックスの値の順序

選択ボックスの値は、SB 属性に指定された順序で表示されます。

158

SD - 2 画面間の時間遅延

このNaturalプロファイルパラメータは、画面出力の表示時間を遅延させるために使用します。これは、非会話型書き込み処理時の2画面間の時間遅延です（Natural 端末コマンド %N を参照）。

可能な設定	0 - 100	指定する値の単位は0.1秒です。つまり、SD=10は1秒の遅延を意味します。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

159 SERVER-RPC サーバーセッションとしてのNatural セッションの開始

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションを RPC サーバーセッションとして開始するかどうかを指定します。クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

可能な設定	ON	Natural セッションは RPC サーバーセッションとして開始します。
	OFF	Natural セッションは RPC サーバーセッションとして開始しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

160 SF - フィールド間の空白

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントで作成される Natural レポート上で、列のフィールド設定間に挿入されるデフォルトのスペース数を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ SF をセッションパラメータ SF で上書きできます。

可能な設定	1 - 30	スペースの数。 SF パラメータを "0" に設定することはできません。つまり、レポートの列間には最低 1 つの空白文字が必要です。	
デフォルト設定	1		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

『プログラミングガイド』の「列の間隔 - SF パラメータと nX 表記」も参照してください。

161 SG - 符号桁

このセッションパラメータでは、符号桁を数値フィールドに割り当てるかどうかを決定します。

EM（編集モード）パラメータを指定すると、SGパラメータが上書きされます。

可能な設定	ON	符号桁が割り当てられます。	
	OFF	符号桁は割り当てられません。 SG=OFFでは、負の値の数値フィールドでもマイナス記号(-)なしで出力されます。	
デフォルト設定	ON		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT SG=OFF
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

162 SM-ストラクチャードモードでのプログラミング

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ストラクチャードモードを使用する必要があるかどうかを指定します。

Naturalのインストール時にNatural管理者によってストラクチャードモード (SM=ON) が指定された場合、このパラメータを"OFF"に設定することはできません。SM=OFFが指定された場合、必要に応じてモードを変更できます。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ SM=OFF をセッションパラメータ SM=ON で上書きできます。

可能な設定	ON	ストラクチャードモードの構文を使用する必要があります。セッション中に指定した場合、GLOBALS SM=OFFは無効になります。(メッセージ"レポーティングモードは使用できません"が表示されます)	
	OFF	ストラクチャードモードまたはレポーティングモードでプログラミングを行うことができます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	なし
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security がインストールされている場合：

- ライブラリのセキュリティプロファイル内のモードオプションの設定では、SMプロファイルパラメータを使用するかどうかを決定します。『Natural Security』ドキュメントの「プログラミングモード」も参照してください。

- ストラクチャードモードが特定ライブラリに常に有効であるという効果に対して、Natural Security でこのパラメータを無効にすることができます。

163 SNAT - 構文エラー時のベル

このNatural プロファイルパラメータでは、コンパイラでNatural プログラム内の構文エラーを検出したときにベルを鳴らします。

可能な設定	ON	構文エラーを検出したときにベルを鳴らします。
	OFF	構文エラーの場合でもベルを鳴らしません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

164 SORTSIZE - ソートバッファのサイズ

このNaturalプロファイルパラメータでは、SORTプログラムで使用するために予約するストレージの量を指定します。このソートバッファは、SORTステートメントを含むNaturalプログラムを実行するときのみ割り当てられます。

可能な設定	500 - 2048	KB 単位のバッファサイズ。 設定値を大きくすると、SORT 処理が速くなります（特に、ソート対象のすべてのデータがソートバッファに収まる時）。
デフォルト設定	500	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

165 SPODDEBUGPORT-SPoDでのデバッグ用のデバッ ガポート

このNatural プロファイルパラメータは、古いNatural デバッガをNatural 開発サーバーの以前のバージョン（NDV2.1）と組み合わせて使用する場合にのみ関連します。

マップされた環境でアプリケーションをデバッグするときに使用されるポート番号を指定します。

可能な設定	0 - 65535	ポート番号。 デフォルトでは、ポート番号は "0" に設定されます。その後、Natural スタジオで PC 上の空きポートが評価されます。評価されたポートは、Natural スタジオデバッガとリモートアプリケーション間の通信チャンネルとして使用されます。Natural 開発サーバー（NDV）を実行しているホストは、任意のポートで動作するように準備する必要があります。 ゼロ以外の値を指定した場合、Natural スタジオでは、Natural スタジオデバッガとリモートアプリケーション間の通信チャンネル用のデバッグポートとして、指定したポートが使用されます。NDV サーバーを実行しているホストで使用できるポートの数が限られている場合にのみ、このオプションを使用してください。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

166

SRETAIN - ソースのフォーマットの保持

この Natural プロファイルパラメータでは、既存のすべてのソースを元のエンコードフォーマットで保存する必要があることを指定します。

新しいソースが作成されると、プロファイルパラメータ SUTF8 の設定に応じて、現在のコードページフォーマットまたは UTF-8 フォーマットで保存されます。これは、SRETAIN の設定とは無関係です。

ソースをターゲットコードページフォーマットで保存できない場合（つまり、このコードページでソースに含まれるすべての文字が定義されていない場合）、問題の文字を削除するか、保存処理をキャンセルするかを選択できるメッセージが表示されます。

『Unicode and Code Page Support』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	ON	既存の Natural ソースの元のコードページが保持されます。プロファイルパラメータ SUTF8 も同様に定義した場合、新しいソースは UTF-8 フォーマットで保存されます。
	OFF	UTF-8 フォーマットの既存の Natural ソースについては、エンコードは変更されません。他のエンコードの既存のソースは、現在のコードページを使用して保存されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

167

SRVNAME - RPC サーバーの名前

この Natural プロファイルパラメータでは、プロファイルパラメータ `SRVNODE` で指定したノードに登録する RPC サーバーの名前を指定します。

サーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	1~192 文字	有効なサーバー名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

32 文字までの物理サーバー名または 192 文字までの論理サービス名を指定できます。論理サービス名の場合、`SRVNODE` パラメータでアスタリスク (*) を指定する必要があります (意図的に空にします)。

EntireX Broker ノードの場合、`SRVNAME` の値は、Broker 属性ファイルのサービスエントリの `SERVER` 属性の値に対応します (下記参照)。

```
CLASS=RPC, SERVICE=CALLNAT, SERVER=srvname
```

例:

```
SRVNAME='PRODUCTION_SERVER'           /* physical server name */  
SRVNAME='MY_LOGICAL_SERVICE,MY_SET'    /* logical server name */
```

ローケショントランスペアレンシおよび論理サービス名の詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

168 SRVNODE - ノードの名前

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC サーバーを登録するノードの名前を指定します。

サーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	1~192 文字	ノード名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

32 文字までの物理ノード名、192 文字までの論理ノード名、または `SRVNAME` に論理サービス名が含まれることを示すアスタリスク (*) (意図的に空にします) を指定できます。

EntireX Broker ノードの場合、物理ノード名は Entire Net-Work ノードまたは TCP/IP アドレスを参照できます。使用している Broker スタブは命名表記をサポートしている必要があります。ノード名の構造および Broker スタブによるサポートの詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。

次の例は EntireX 表記を基準にしています。

```
SRVNODE=ETB001 /* Entire Net-Work node */
SRVNODE=PCBROKER /* host name for a TCP/IP address */
SRVNODE='157.189.160.95:1958:TCP' /* TCP/IP address with port number */
SRVNODE='tcpip://host.com:1958' /* host name for a TCP/IP address
with port number */
SRVNODE='LOGBROKER=MY_LOGICAL_NODE,MY_SET' /* logical node name */
```

```
SRVNODE='*' /* logical service name in SRVNAME */
```

ホスト名を TCP/IP アドレス用に使用する場合、名前を DNS サーバーに認識させる必要があります。または、TCP/IP コンフィグレーションの `hosts` ファイルに定義する必要があります。

ポート番号を省略した場合、EntireXBroker スタブによってデフォルトのポート番号が使用されるか、ホスト名を使用する必要があります。そして、ホスト名を DNS サーバーに認識させるか、TCP/IP コンフィグレーションの `services` ファイルに定義する必要があります。

ロケーショントランスペアレンシおよび論理ノード名の詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

169

SRVUSER-RPC サーバーレジストリ用のユーザー

ID

この Natural プロファイルパラメータでは、プロファイルパラメータ `SVRNODE` で指定したノード上に RPC サーバーを登録するために必要なユーザー ID を指定します。

EntireX Broker ノードの場合、SRVUSER は EntireX Broker へのログオンにも使用されます。パスワードは、Natural Security（下記の *NSC を参照）から取得されるか、アプリケーションプログラミングインターフェイス USR2072N を介して指定されます。

SRVUSER はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	<i>user-ID</i>	有効なユーザー ID（*USER または *NSC）。1~16 文字。
	*USER	SRVUSER を *USER に設定した場合、Natural サーバーは、ノードにログオンするために現在の Natural ユーザー ID（システム変数 *USER を参照）を使用します。
	*NSC	SRVUSER を *NSC に設定し、Natural Security がインストールされている場合、Natural サーバーは、ノードにログオンするために現在の Natural ユーザー ID（システム変数 *USER を参照）および Natural Security でこのユーザーに定義されているパスワードを使用します。
デフォルト設定	<i>timestamp</i>	ユーザー ID を省略した場合、タイムスタンプが使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

170 SRVWAIT - RPC サーバーの待ち時間

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC クライアント要求に対するサーバーの待ち時間（秒数）を指定します。この時間を超過した場合、トランスポート層から RPC サーバーに通知されます。RPC サーバーは、対応するメッセージを Natural RPC サーバートレースファイルに書き込み、RPC クライアント要求を引き続き待ちます。

SRVWAIT はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	0 - 32767	待ち時間（秒数）。
デフォルト設定	0	待ち時間無制限。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

171 SSIZE - エディタによって割り当てられるソース エリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural エディタによってダイナミックに割り当てられる Natural ソースエリアの最大サイズを決定します。

可能な設定	1 - 100	Natural ソースエリアの最大サイズ (MB 単位)。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	



Note: 1つの Natural ソースメンバの最大サイズは 1 MB です (SSIZE とは無関係)。

172

STACK - スタックへのデータ／コマンドの配置

この Natural プロファイルパラメータは、Natural スタックにデータ／コマンドを配置するために使用します。



Note: STACK を使用する場合、プロファイル（またはセッション）パラメータ DC、HI、IA、および ID でコロン（:）を指定する必要があります。

可能な設定	任意の文字列
デフォルト設定	なし
ダイナミックな指定	可
セッション内の指定	不可

プロファイルパラメータ STACK は、Natural コマンドスタックにデータ／コマンドを配置するために使用します。このパラメータで渡されるデータの量は 512 バイトに制限されます。この制限を超過した場合、対応するエラーメッセージが返されます。

スタックには Natural コマンドとユーザー指定コマンドのシーケンスをデータとともに含め、Natural セッションの開始時に実行させることができます。コマンドスタックは、ユーザーが画面で入力を促される前に処理されます。

スタック処理中に INPUT ステートメントが検出された場合、スタック作成時に必要な入力データがコマンドで提供されていない場合は、対応する入力画面が生成されます。スタック処理中に生成されたレポートは、通常どおり表示されます。

各システムコマンドまたはユーザー定義コマンドの後に、オプションとして、コマンド処理中に必要な情報の要求を満たすために使用されるデータが続きます。コマンドがユーザーコマンド（つまり、ユーザープログラムの名前）の場合、使用するデータによってユーザープログラム内の INPUT ステートメントのデータ要件が解決されます。

1つの INPUT ステートメントの複数の設定は、コンマで区切られます。複数の INPUT ステートメントのデータは、コロン (:) で区切られます。複数のコマンドは、セミコロン (;) で区切られます。次の例を参照してください。

```
LOGON:USER1;UCMD1 A,B;UCMD2 C,D:E;FIN
```

ライブラリ USER1 にログオンし、コマンド UCMD1 および UCMD2 を対応する入力データで実行し、Natural セッションを終了します。

```
CMD DATA:DATA;CMD
```

コマンドおよびデータをスタックに配置します。一部のコマンド (GLOBALS など) は INPUT によってパラメータを読み込まないため、最初のパラメータのデータ要素からコマンドを区切るには、コロンではなく空白文字を使用する必要があります。

ダイナミックに指定する場合、STACK パラメータのデータとして使用する文字列は、アポストロフィで囲む必要があります。文字列に複数のコマンドが含まれている場合も、カッコで囲む必要があります。次の例を参照してください。

```
STACK="(LOGON SYSTEM;UCMND)"
```

ライブラリ SYSTEM にログオンし、コマンド UCMND を実行します。

173 STARTUP-システム変数 *STARTUP のプログラム名

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural システム変数 *STARTUP のプログラム名を指定します。名前が *STARTUP に含まれるプログラムは、Natural コマンド行が呼び出されるたびに実行されます。Natural プログラムで、別のプログラム名を *STARTUP に割り当てることができます。

可能な設定	1~8 文字	有効なプログラム名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	



Note: Natural Security がインストールされている場合、STARTUP は評価されません。使用する開始プログラムは、Natural Security で定義されているライブラリプロファイルから読み込まれます。

174

STEPLIB - *STEPLIB システム変数の初期設定

この Natural プロファイルパラメータでは、システム変数 *STEPLIB の初期設定を指定します。

可能な設定	1~8 文字	任意の有効なライブラリ名。
デフォルト設定	SYSTEM	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

システム変数 *STEPLIB の内容は、システムファイル内でのオブジェクトの検索順序に影響しません。

コンフィグレーションユーティリティを使用して、現在のライブラリ内では見つからないオブジェクトを検索する追加の STEPLIB を定義できます。『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「*Steplib*」を参照してください。

『Natural スタジオの使用』ドキュメントの「*Steplib*」および「オブジェクト実行の検索順序」も参照してください。

175

SUBCHAR - デフォルトコードページの置換文字

この Natural プロファイルパラメータでは、デフォルトコードページの置換文字を指定できます。Unicode 文字の現在のデフォルトコードページ（プロファイルパラメータ `CP` を参照）への変換が失敗し、`CPCVERR` が "OFF" に設定されているときに常に置換文字が自動的に挿入されます。

可能な設定	<i>n</i>	置換文字。
	OFF	"OFF" を指定した場合、ICU デフォルト置換文字が使用されます。詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

176

SUTF8 - ソースの UTF-8 フォーマット

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ソースの保存時に使用するデフォルトのフォーマットを指定します。

『Unicode and Code Page Support』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	ON	Natural ソースを保存するためのデフォルトのフォーマットは UTF-8 です。 すべてのソースが UTF-8 フォーマットで保存され、ソースの内容はインストールされたシステムコードページには依存しないようになります。 プロファイルパラメータ SRETAIN も "ON" に設定した場合、新しく作成されたソースのみが UTF-8 フォーマットで保存されます。既存のソースは元のエンコードで保存されます（可能な場合）。
	OFF	Natural ソースを保存するためのデフォルトのフォーマットは「コードページ」です。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

177

SYMGEN - シンボルテーブルの生成

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、シンボルテーブルを生成するかどうかを指定します。

シンボルテーブルには、Naturalプログラム（例えば、変数名）内で使用されるすべてのシンボルが含まれます。シンボルテーブルは、生成されたプログラムの一部であり、Naturalデバッガやダイアログエディタなどで必要になります。

セッション内で、プロファイルパラメータ SYMGEN をセッションパラメータ SYMGEN で上書きできます。

可能な設定	ON	シンボルテーブルが生成されます。	
	OFF	シンボルテーブルは生成されません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	なし
		適用可能なコマンド：	GLOBALS

178

SYNERR - 構文エラーの制御

このNaturalプロファイルパラメータでは、構文エラーをエラートランザクションプログラムに渡すかどうかを指定します。

可能な設定	ON	構文エラーはエラートランザクションプログラムに渡されます。
	OFF	構文エラーはエラートランザクションプログラムに渡されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミング インターフェイス	USR4007N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

エラートランザクションプログラムは、プロファイルパラメータ [ETA](#) で定義するか、Natural Security ライブラリプロファイル内で定義します。

179 TC - 末尾文字

このセッションパラメータで、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力のすぐ右側に表示される末尾の文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

パラメータ TC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、「*Natural* プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 末尾の文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT TC=*  
DISPLAY (TC='*B*')
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

180 TCU - Unicode 末尾文字

セッションパラメータ TCU は、セッションパラメータ TC と同一です。違いは、末尾文字が必ず Unicode フォーマットで保存されることです。そのため、ユーザーは別のコードページからの文字が混在した末尾文字を指定でき、インストールされているシステムコードページに関係なく、いつでも確実に正しい文字が表示されるようにすることができます。

このセッションパラメータで、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力のすぐ右側に表示される末尾の文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 末尾の文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」
- 「Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」

181 TD - 時差

この Natural プロファイルパラメータでは、コンピュータセンタの時刻／日付ではなく実際のローカル時刻／日付の使用を保証するために、Natural時刻／日付の設定に適用する時差を指定します。このパラメータは、リモートノードがコンピュータネットワークで使用される環境に適用できます。

可能な設定	-23,59~23,59	指定した時間を物理マシンタイムに対して加算または減算することで Natural で使用する時刻／日付を設定するには、表記 <i>hours,minutes</i> を使用します。 <i>minutes</i> (指定する場合は、00~59 にする必要があります)。
デフォルト設定	0,0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

例：

```
TD=6           (6 hours ahead)
TD=-11         (11 hours behind)
TD=(5,30)     (5 hours and 30 minutes ahead)
TD=(-6,30)    (6 hours and 30 minutes behind)
```


182

TF・データベース ID／ファイル番号の変換

 **Caution:** このパラメータはユーザーファイルにのみ適用されます。システムファイルには適用されません。

この Natural プロファイルパラメータは、本番データベースのデータベース ID／ファイル番号をテストデータベースのデータベース ID／ファイル番号に変換するために使用します。

ファイル番号の変換は、実稼働環境でアプリケーションを開発するときに関連します。これにより、テストデータベースでアプリケーションを開発し、完了したアプリケーションを本番データベースに転送できます。この際、アプリケーションを変更したり再コンパイルしたりする必要はありません。

転送は、アプリケーションのデータベース ID (DBID) とファイル番号 (FNR) の変換によって行われます。TFパラメータでは、本番 DBID/FNR とテスト DBID/FNR を指定します。その後、Natural オブジェクトが本番 DBID/FNR でカタログされます。ただし、データベースアクセスが実行されるたびに、本番 DBID/FNR がテスト DBID/FNR に変換されます。つまり、テストデータベースが使用されます。言い換えると、実際の稼働環境で稼働データではないデータを使ってテストを実行できます。

可能な設定	<i>production-DBID</i>	0～65535 (255を除く)、またはすべてのDBIDを表すアスタリスク (*) DBID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています (プロファイルパラメータ LFILE を参照)。
	<i>production-FNR</i>	1～5000、またはすべての FNR を表すアスタリスク (*)。
	<i>test-DBID</i>	0～65535 (255を除く)
	<i>test-FNR</i>	1～5000
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータは、ダイナミックに指定するか、Natural パラメータファイル NATPARM で指定できます。
セッション内の指定	不可	

production-DBID および *production-FNR* のアスタリスク (*) 表記は相互排他的です。

このパラメータは次のように指定します。

```
TF=(production-DBID,production-FNR,test-DBID,test-FNR)
```

TF パラメータは複数回指定できます。既存の指定は対応するリストボックスに表示されます。



Notes:

1. 本番データベースとテストデータベースは同じタイプである必要があります (例えば、Adabas/Adabas)。
2. データベースタイプが NATPARM で指定されていない場合、Adabas がデフォルトタイプとして使用されます。つまり、SQL および XML データベースは明示的に指定する必要があります。
3. SQL および XML データベースについては、ファイル番号は常に 1 に設定する必要があります。DBID は 0~254 の範囲にする必要があります。
4. プロファイルパラメータ **UDB** (ユーザーデータベース ID) は、TF パラメータが評価される前に評価されます。

183

THSEP - ダイナミック千桁単位セパレータ

このNaturalプロファイルパラメータは、コンパイル時に編集マスクのダイナミック千桁単位セパレータの使用を有効または無効にするために使用します。ランタイムに、ダイナミック千桁単位セパレータは、プロファイルおよびセッションパラメータ **THSEPCH** の値（千桁単位セパレータ文字）で置き換えられます。

可能な設定	ON	ダイナミック千桁単位セパレータが使用されます。文字列リテラルに含まれていないダイナミック千桁単位セパレータはすべて、ランタイムに、 THSEPCH で定義された千桁単位セパレータ文字で置き換えられます。
	OFF	ダイナミック千桁単位セパレータは使用されません。つまり、編集マスクの千桁単位セパレータはリテラルとして扱われ、ランタイムにそのまま表示されます。これが互換性のある設定です。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



Notes:

1. Natural ソースでは、ダイナミック千桁単位セパレータはコンマ (,) またはピリオド (.) になります。どちらが使用されるかは、プロファイルおよびセッションパラメータ **DC** (小数点文字) の現在の設定に基づきます。コンマが指定されている場合、ダイナミック千桁単位セパレータはピリオドになります。それ以外の場合は、コンマになります。
2. Unicode フォーマットのフィールドは、英数字 (A) または数値 (N) フィールドとして再定義しないでください。

以下の項目も参照してください。

- 『パラメータリファレンス』のプロファイルパラメータ **THSEPCH**
- 『プログラミングガイド』の「セパレータ文字の表示方法のカスタマイズ」

184

THSEPCH - 千桁単位セパレータ文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ランタイムに千桁単位セパレータとして使用する文字を指定します。編集マスクのダイナミック千桁単位セパレータは、この千桁単位セパレータ文字で置き換えられます。



Note: Natural ソースでは、ダイナミック千桁単位セパレータは常にコンマ (,) またはピリオド (.) で表されます。

可能な設定	任意の文字	ランタイムに、ダイナミック千桁単位セパレータはこの文字で置き換えられます。 コンマは個々のパラメータを区切るために使用するため、千桁単位セパレータ文字をコンマにするには、引用符で囲む必要があります。つまり、ダイナミックパラメータ機能を使用するとき THSEPCH=',' と指定します。 千桁単位セパレータ文字を引用符にするには、2つの引用符を引用符で囲んで指定する必要があります。つまり、THSEPCH=''' と指定します。	
デフォルト設定	, (コンマ)	デフォルトでは、コンマが千桁単位セパレータとして使用されます。	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	なし
		適用可能なコマンド:	GLOBALS

以下の項目も参照してください。

- 『パラメータリファレンス』ドキュメントのプロファイルパラメータ [THSEP](#)
- 『システムコマンド』ドキュメントの、システムコマンド [COMPOPT](#) のオプション [THSEP](#) に関する項目。
- 『プログラミングガイド』の「[セパレータ文字の表示方法のカスタマイズ](#)」

185 TIMEOUT - RPC サーバーレスポンスに対する待ち時間

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、RPC サーバーレスポンスに対するクライアントの待ち時間（秒数）を指定します。この時間を超過した場合、リモートプロシージャコールは対応するエラーメッセージで終了します。

TIMEOUT はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	0~32767	秒
デフォルト設定	55	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	このパラメータの設定を GLOBALS システムコマンドで変更できます。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

186

TMPSORTUNIQ - ソートワークファイル名を生成するための代替アルゴリズム

Natural起動コマンドでプロファイルパラメータを指定した場合、Naturalはソース処理用のワークファイル名を生成するときに標準のアルゴリズムとは異なるアルゴリズムを使用します。必要なすべてのワークファイルに対し一意なファイル名が強制的に生成され、ETIDパラメータの値とユーザーIDがファイル名に埋め込まれることはありません。

標準のデフォルトアルゴリズムでは、ETID設定の値とユーザーIDを埋め込んだワークファイル名が生成されます。通常このアルゴリズムによりファイル名は特定のNaturalセッションに一意になるのに対し、ETIDがファイル名内に無効な文字を含んでいるか、またはETID指定のない同じユーザーIDを使用する複数のNaturalセッションを実行している環境では問題が生じることがあります（したがって、ソート処理用に一意でないワークファイル名が生成される可能性があります）。

可能な設定	指定または指定なし	指定した場合、Naturalはソート処理用のワークファイル名を生成するときに標準のアルゴリズムとは異なるアルゴリズムを使用します。
デフォルト設定	指定なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

187

TQ - 引用符の変換

このパラメータは、Natural プロファイルパラメータ [TQMARK](#) に対応しています。

188 TQMARK - 引用符の変換

このNaturalプロファイルパラメータでは、Naturalテキスト定数内の引用符 (") の変換を制御します。コンパイル時にのみ影響があります。

可能な設定	ON	テキスト定数内の各引用符はシングルアポストロフィとして出力されます。
	OFF	テキスト定数内の引用符は変換されず、引用符として出力されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	システムコマンド COMPOPT を参照してください。

 **Note:** 引用符 (") とダブルアポストロフィ (") を混同しないでください。テキスト定数内のダブルアポストロフィは、TQMARK パラメータの設定に関係なく、常にシングルアポストロフィ (') として出力されます。

例 1 (TQMARK=ON) :

```
WRITE 'THERE"S A QUOTATION MARK'
```

上記の表示形式 : THERE'S A QUOTATION MARK

例 2 (TQMARK=OFF) :

```
WRITE 'THERE"S A QUOTATION MARK'
```

上記の表示形式 : THERE"S A QUOTATION MARK

例 3 (TQMARK=ON または OFF) :

```
WRITE 'DOUBLE APOSTROPHES'' OUTPUT IS A SINGLE APOSTROPHE'
```

上記の表示形式：DOUBLE APOSTROPHES' OUTPUT IS A SINGLE APOSTROPHE

189 TRACE - Natural RPC サーバーのトレースレベル の定義

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC トレース機能を有効にし、使用するトレースレベル n を決定します。詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「サーバートレース機能の使用」を参照してください。

可能な設定	0	トレースされません。
	1	メッセージのみ (Natural エラーを含む) がトレースされます。
	(1, E)	エラーが発生した場合にのみ、メッセージがトレースされます。
	2	メッセージおよびクライアントに対する送受信データがすべてトレースされます。
	(2, E)	エラーが発生した場合にのみ、メッセージおよびクライアントに対する送受信データがトレースされます。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

コンフィグレーションユーティリティの選択ボックスに表示される値 3~9 も受け入れられます。これらの値は将来使用するためのもので、TRACE=2 のように動作します。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

190

TRANSP - サーバートランスポートプロトコル

このNaturalプロファイルパラメータでは、使用するサーバートランスポートプロトコルを決定します。ACIを使用する場合、トランスポートメソッドも指定できます。

サーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	ACI	ACIが使用されます。トランスポートメソッドはEntireX Brokerで定義されます。
	ACI,TCP	ACIがTCP/IPと組み合わせて使用されます。
	ACI,NET	ACIがEntire Net-workと組み合わせて使用されます（つまり、Adabasプロトコルを使用）。
	ACI,TCP-NET	ACIをTCPと組み合わせて使用しようとしています。利用できない場合、ACIはNETと組み合わせて使用されます。
	ACI,NET-TCP	ACIをNETと組み合わせて使用しようとしています。利用できない場合、ACIはTCPと組み合わせて使用されます。
デフォルト設定	ACI	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

SRVNODEで完全なノード名を指定できるようになったため、TRANSPを使用する必要はなくなりました。ただし、互換性の理由で引き続きサポートはされています。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

191 TRYALT - 代替サーバーアドレスの試行

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、RPCクライアントに代替サーバーでRPC要求を実行させるかどうか（ON/OFF）を決定します。詳細については、『Natural リモートプロシージャコール（RPC）』ドキュメントの「RPCサーバーアドレスの指定」を参照してください。

TRYALT はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	ON	指定したノードで要求を実行できなかった場合、RPCクライアントはその要求を送信する代替サーバーアドレスを検出しようとします。
	OFF	代替サーバーを使用しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	このパラメータの設定を GLOBALS システムコマンドで変更できます。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール（RPC）』ドキュメントを参照してください。

192 UC - 下線付き文字

このセッションパラメータでは、次の項目に対する下線付き文字を決定します。

- DISPLAY ステートメントで生成される列ヘッダー
- UNDERLINED オプション付きの WRITE TITLE/WRITE TRAILER ステートメントで生成されるページタイトル/トレーラ

可能な設定	任意の文字	下記の注も参照してください。	
	OFF		
デフォルト設定	- (ハイフン)		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT WRITE TITLE WRITE TRAILER
		適用可能なコマンド：	なし

 **Note:** 列ヘッダーを下線付きにしない場合は次のオプションを使用します。

- UC=- 下線の代わりに空白行が出力されます。
- UC=OFF - ヘッダー行の下に空白行は出力されずにフィールド値が出力されます。

UC=OFF は DISPLAY ステートメントのステートメントレベルでのみ指定できます。この場合、そのステートメントの個々のフィールドに対しては他の UC 指定を行うことはできません。

例：

```
FORMAT UC=*  
DISPLAY (UC= ) NAME AGE (UC=+)
```

『プログラミングガイド』の「タイトルおよびヘッダーの下線付き文字-UC パラメータ」も参照してください。

193

UDB - ユーザーデータベース ID

この Natural プロファイルパラメータでは、ランタイムにデータベースアクセス用に使用する DBID を指定します。Natural オブジェクトの実行時に、UDB パラメータで指定したデータベース ID によって DBID 0 が置き換えられます。

可能な設定	0~65535、255 は除く	有効なデータベース ID。データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ <code>LFILE</code> を参照）。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N USR1040N*	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。



Notes:

1. コンフィグレーションユーティリティの DBMS 割り当てテーブルで指定する DBID0 のデータベースタイプと、UDB パラメータで指定する DBID のデータベースタイプは同じか（例えば、ADA/ADA、ADA2/ADA2、SQL/SQL、または XML/XML）、一致している（ADA/ADA2）必要があります。
2. 使用されている DDM の DBID が 0 の場合、コンパイル時に DBMS 割り当てテーブルエントリ DBID=0 からデータベースタイプが取得されます。UDB パラメータで指定する DBID のデータベースタイプはランタイムにのみ使用されます。
3. DBMS 割り当てテーブルで DBID0 が指定されていない場合、デフォルトのデータベースタイプは ADA に設定されます。

4. 使用されている DDM で DBID が指定されていない場合、UDB プロファイルパラメータで指定された DBID がアクセスするデータベースを決定します。その場合、UDB プロファイルパラメータを有効な DB 番号に設定する必要があります。
5. UDB は、プロファイルパラメータ `ETDB` が指定されていない場合にトランザクションデータを保存 (Stow) するための DBID の指定にも使用されます。

194 ULANG - ユーザー言語

この Natural プロファイルパラメータでは、日付編集マスク、システムメッセージ、ユーザーメッセージ、ヘルプテキスト、ヘルプルーチン、および複数言語マップに使用する言語を指定します。Natural システム変数 *LANGUAGE を設定するために使用します。

可能な設定	1 - 60	言語コード。 例えば、1 は英語、2 はドイツ語、3 はフランス語に割り当てられます。 言語コードの詳細なリストについては、*LANGUAGE 変数に関するドキュメントの表を参照してください。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミング インターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「画面設計」の「スキル別ユーザーインターフェイス」

195 USEDIC - ディクショナリサーバーの共通論理名

このNaturalプロファイルパラメータでは、メインフレームまたはUNIXホストでリモートディクショナリアクセスを有効にするために、NaturalRPCで定義されたディクショナリサーバーに対して共通論理名を指定します。

『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「ディクショナリサーバー割り当て」も参照してください。

可能な設定	任意の有効なサーバー名	リモートディクショナリアクセスは有効です。
デフォルト設定	空白	リモートディクショナリアクセスは無効です。
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

196

USER - ユーザー ID

この Natural プロファイルパラメータは、ユーザー ID を入力するために使用します。デフォルト設定を使用する場合、オペレーティングシステムのログインユーザー ID が適用されます。

可能な設定	任意の有効なユーザー ID
デフォルト設定	空白
ダイナミックな指定	不可
セッション内の指定	不可



Note: Natural Security では、このパラメータは無視されます。

197 USEREP - リポジトリの使用

この Natural プロファイルパラメータでは、リポジトリの使用を有効にします。

可能な設定	ON	リポジトリの使用を有効にします。
	OFF	リポジトリの使用を無効にします。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

198

USIZE - ユーザーバッファのサイズ

このNaturalプロファイルパラメータでは、仮想メモリ内のユーザーバッファのサイズを指定します。ユーザーバッファには、Naturalによって動的に割り当てられているすべてのデータが含まれます。

可能な設定	10 - 1024	MB 単位のバッファサイズ。
	0	USIZE=0 の場合、メモリ容量は無制限になります。
デフォルト設定	20	
動的な指定	不可	
セッション内の指定	不可	

199

WEBIO - Web I/O インターフェイスの使用

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural 入出力 (I/O) を変更しないまま残すかどうか (つまり、SPoD の場合は端末エミュレーション)、また Web I/O インターフェイスを使用するかどうかを定義します。

Web I/O インターフェイスでは、Web ブラウザに入出力データを表示します。Windows 以外のプラットフォームの場合、Web I/O インターフェイスでは、現在のコードページに含まれない文字の U フォーマットフィールドを表示および入力することのみが可能です。

『Unicode and Code Page Support』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	ON	I/O は Web I/O インターフェイスを介します。
	OFF	I/O は変更されません (端末エミュレーション)。Windows 上の Natural 開発サーバーでアプリケーションを実行している場合、この設定は無視されます。この場合、Web I/O インターフェイスが常に使用されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

200

WFOPFA - ワークファイルのオープン

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural でワークファイルをオープンするタイミングを指定します。

可能な設定	ON	ワークファイルは、READ WORK FILE または WRITE WORK FILE ステートメントによって最初にアクセスされたときにオープンされます。つまり、実際にアクセスされたワークファイルのみがオープンされます。ただし、オープンされなかったワークファイルの内容は削除されません。
	OFF	Natural オブジェクトで参照されるすべてのワークファイルが、このオブジェクトの実行を開始したときにオープンされます。実行されなかった WRITE WORK FILE ステートメントでワークファイルが参照されている場合、クローズ時にワークファイルの内容が削除されることがあります。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

WFOPFA=OFF はメインプログラムにのみ影響します。ルーチンに対しては常に WFOPFA=ON が適用されます。

201 WH - ホールド状態でのレコードの待機

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Adabas データベースのみが適用されます。

処理に必要なレコードが別のユーザーによってホールド状態にされているために使用できなくなっている場合の処理を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ WH をセッションパラメータ WH で上書きできます。

可能な設定	ON	要求したレコードが使用できるようになるまで、またはレコードをホールド状態にしようとするときに時間などの制限を超過したことで Adabas エラーメッセージが発行されるまで、ユーザーは待ち状態になります。	
	OFF	これらのレコードをホールド状態にできない場合、エラーメッセージが返されます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

 **Note:** 後で更新／削除処理を行うために、Adabas レコードを読み込む Natural ステートメントを実行すると、Natural は Adabas に対してそのレコードをホールド状態にするように要求します。ホールド処理の詳細については、Adabas の『コマンドリファレンス』ドキュメントを参照してください。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

202 WORK - ワークファイルの割り当て

このNaturalプロファイルパラメータでは、セッション中に使用するワークファイルの数を定義します。

可能な設定	0 - 32	ワークファイルの数。
デフォルト設定	32	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

WORK=*nn*

WORK が *nn* (1~32) に設定されている場合、この設定では Natural セッションに使用できる最大ワークファイル番号を定義します。

『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイル」も参照してください。

203 XADB - トランザクション処理調整用のデータベース

この Natural プロファイルパラメータは将来の使用のために予約されています。

トランザクション処理がTPモニタシステムによって調整されるデータベースを指定します。パラメータのデータベースリストボックスで該当するデータベースをすべてマークしてください。

可能な設定	ON / OFF	チェックボックスを使用して関連データベースを指定します。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

204 XREF - Natural 用の XRef データの作成

- 拡張 XRef データ生成（内部使用のみ） 451

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural 用の XRef データの作成を有効または無効にするために使用します。このデータは次の 2 つの場合に生成されます。

- Natural コンパイラは、Natural プログラムおよびデータエリア用の XRef データをそのカタログ時に書き込みます (XREF パラメータが "ON" または "FORCE" に設定されている場合。下記を参照)。
- Natural Security は、アプリケーションで起動、再起動、またはエラートランザクションとして使用されるプログラム用、または特別なリンクとして使用されるプログラム用の XRef データを書き込みます (アプリケーションの Natural Security 定義で XREF パラメータが "ON" または "FORCE" に設定されていて、アプリケーション用にユーザーシステムファイルが定義されている場合)。

このパラメータでは、次の 2 つの観点でコンパイルを制御します。

- 1 つは上記の場合における XRef データの生成についてです。
- もう 1 つは実装オブジェクトのドキュメントするための前提条件を満たすためです。この前提条件の準拠は、Predict FDIC システムファイルまたは Natural Single Point of Development (SPoD) で使用される開発サーバファイルでドキュメントされるオブジェクトに対してのみカタログ処理を完了できるようにすることで保証されます。

また、このパラメータでは、Natural ユーティリティ SYSMAIN または INPL、あるいはオブジェクトハンドラを使用して Natural メンバが処理される時の XRef データの扱い方を決定します。

可能な設定	ON	XRef データが上記の場合に生成されます。ドキュメントの前提条件はチェックされません。
	OFF	XRef データは生成されません。ドキュメントの前提条件はチェックされません。
	FORCE	Natural オブジェクトをカタログできるのは、この実装オブジェクトに対応するドキュメンテーションオブジェクトが存在する場合に限られます。XRef データが上記の場合に生成されます。
	DOC	Natural オブジェクトをカタログできるのは、このオブジェクトに対応するドキュメンテーションオブジェクトが存在する場合に限られます。XRef データは生成されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	注意: セッション内で、このパラメータの設定を GLOBALS システムコマンドで変更できます。セッション内で、このパラメータの設定を XREF システムコマンドで変更できます。

Natural XREF パラメータを設定する別の方法もあります。

- Natural パラメータファイルで設定します。
- Natural セッションの開始時にダイナミックパラメータとして設定します。

- Natural Security で設定します。Natural Security を使用して XREF パラメータが設定されている場合、XREF コマンドでのみこの設定を有効にすることができます（そのためには、"ON" から "FORCE" に変更するか、"OFF" から "ON" または "FORCE" に変更します）。
- Natural XREF コマンドで設定します。Natural Security がインストールされていない場合、XREF パラメータは通常 Natural XREF コマンドを使用して設定されます。Natural コマンド XREF ? では、XREF パラメータの現在の設定を表示します。

拡張 XRef データ生成（内部使用のみ）

 **Important:** 拡張 XREF パラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

拡張 XREF パラメータの構文は次のとおりです。

```
XREF=(normal-xref-setting,extended-xref-setting)
```


205

YSLW - 年スライド／固定ウィンドウ

この Natural プロファイルパラメータでは、「年スライドウィンドウ」または「年固定ウィンドウ」で扱う年の範囲を指定します。

スライドウィンドウまたは「年固定ウィンドウ」メカニズムでは、2桁年の日付が100年の「ウィンドウ」内にあると仮定します。これらの100年以内で、各2桁年の設定は特定の世紀に一意に関連します。したがって、どの世紀を表しているかについて混乱することはありません。

可能な設定	標準設定	0	パラメータを "0" に設定すると、現在の世紀であるとみなされます。スライド／固定ウィンドウ機能は使用されません。
	スライドウィンドウ	1 - 99	<p>パラメータを "1~99" の値に設定することで、100年の範囲が過去のどの時点で始まるかを決定します。YSLW 設定は、ウィンドウ範囲の最初の年を決定するために現在の年から減算されます。</p> <p>例：</p> <p>現在の年が 2002 で、YSLW=40 を指定した場合、スライドウィンドウは 1962~2061 年に対応します。それに応じて、"62"~"99" の 2桁年設定 <i>nn</i> は "19<i>nn</i>" と解釈され、"00"~"61" の 2桁年設定 <i>nn</i> は "20<i>nn</i>" と解釈されます。</p>
	固定ウィンドウ	1582~2600	<p>パラメータを "1582~2600" の値に設定することで、100年の範囲の最初の年を決定します。100年の範囲の上限は、指定した値に "99" を加算することで評価されます。</p> <p>例：</p> <p>YSLW=1985 を指定した場合、固定ウィンドウは 1985~2084 年に対応します。それに応じて、85~99 の 2桁年設定 "<i>nn</i>" は "19<i>nn</i>" と解釈され、"00"~"84" の 2桁年設定 "<i>nn</i>" は "20<i>nn</i>" と解釈されます。</p>
デフォルト設定	0		スライド／固定ウィンドウ機能は使用されません。

ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

YSLW パラメータは、2桁の年コンポーネントの英数字日付設定が日付変数に移動されるときにランタイムに評価されます。これは、次の場合の日付設定に適用されます。

- 算術関数 VAL で使用される日付設定
- 論理条件の IS(D) オプションで使用される日付設定
- スタックから入力データとして読み込まれる日付設定
- マップに入力データとして入力された日付設定

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」セクションも参照してください。

206 ZD - ゼロ割り算のチェック

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、"0"（ゼロ）による割り算を行おうとした場合の処理を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ZD をセッションパラメータ ZD で上書きできます。

可能な設定	ON	"0" による割り算を行おうとすると、Natural はエラーメッセージを発行します。	
	OFF	Natural は、"0" による割り算の結果を "0" にします。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

207 ZP - ゼロ出力

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、すべてゼロの設定を含むフィールドの出力方法を指定します。つまり、すべてゼロの値を含む数値フィールド（フォーマットN、I、P、またはF）または時間フィールド（フォーマットT）の表示を省略するために使用します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータZPをセッションパラメータZPで上書きできます。

可能な設定	ON	すべてゼロのフィールド値は、右揃えのゼロ1つ（数値フィールド）またはすべてゼロ（時間フィールド）として出力されます。	
	OFF	すべてゼロのフィールド値は省略されます。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT REINPUT SET GLOBALS WRITE
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

索引

A

ACIVERS
 パラメータ, 9
ACTPOLICY
 パラメータ, 11
AD
 パラメータ, 13
AL
 パラメータ, 21
AUTO
 パラメータ, 23
AUTOREGISTER
 パラメータ, 25
AUTORPC
 パラメータ, 27

B

BATCH
 パラメータ, 29
BATCHMODE
 パラメータ, 31
BMBLANK
 パラメータ, 33
BMCONTROL
 パラメータ, 35
BMFRAME
 パラメータ, 37
BMSIM
 パラメータ, 39
BMTIME
 パラメータ, 41
BMTITLE
 パラメータ, 43
BMVERSION
 パラメータ, 45
BPID
 パラメータ, 47
BPID2
 パラメータ, 49
BPNAME
 パラメータ, 51
BPSFI
 パラメータ, 53

C

CC
 パラメータ, 55
CD
 パラメータ, 57
CDYNAM
 パラメータ, 59
CF
 パラメータ, 61
CLEAR
 パラメータ, 63
CM
 パラメータ, 65
CMOBJIN
 パラメータ, 67
CMPRINT
 パラメータ, 69
CMPRTnn
 パラメータ, 71
CMSYNIN
 パラメータ, 73
CMWRKnn
 パラメータ, 75
COMPR
 パラメータ, 77
COMSERVERID
 パラメータ, 79
CP
 パラメータ, 81
CPCVERR
 パラメータ, 83
CPOBJIN
 パラメータ, 85
CPPRINT
 パラメータ, 87
CPRPC
 パラメータ, 89
CPSYNIN
 パラメータ, 91
CV
 パラメータ, 93
CVMIN
 パラメータ, 95

D

DBSHORT
 パラメータ, 97

DBUPD
パラメータ, 99
DC
パラメータ, 101
DD
パラメータ, 103
DF
パラメータ, 105
DFOUT
パラメータ, 107
DFS
パラメータ, 109
DFSTACK
パラメータ, 111
DFTITLE
パラメータ, 113
DL
パラメータ, 115
DTFORM
パラメータ, 117
DU
パラメータ, 119
DY
パラメータ, 121
DYNPARM
パラメータ, 127

E

ECHO
パラメータ, 129
EDTBFSIZE
パラメータ, 131
EDTLFILES
パラメータ, 133
EJ
パラメータ, 135
EM
パラメータ, 137
EMFM
パラメータ, 153
EMU
パラメータ, 155
ENDIAN
パラメータ, 157
ENDMSG
パラメータ, 159
ES
パラメータ, 161
ESCAPE
パラメータ, 163
ESXDB
パラメータ, 165
ET
パラメータ, 167
ETA
パラメータ, 169
ETDB
パラメータ, 171
ETEOP
パラメータ, 173
ETID
パラメータ, 175
ETPDB

パラメータ, 177
ETPSIZE
パラメータ, 179

F

FC
パラメータ, 181, 183
FCDP
パラメータ, 185
FDDM
パラメータ, 187
FDIC
パラメータ, 189
FL
パラメータ, 191
FNAT
パラメータ, 193
FREEGDA
パラメータ, 195
FS
パラメータ, 197
FSEC
パラメータ, 199
FUSER
パラメータ, 201

G

GC
パラメータ, 203
GFID
パラメータ, 205

H

HC
パラメータ, 207
HE
パラメータ, 209
HI
パラメータ, 215
HW
パラメータ, 217

I

IA
パラメータ, 219
IC
パラメータ, 223
ICU
パラメータ, 225
ID
パラメータ, 227
IKEY
パラメータ, 229
IM
パラメータ, 231
INIT-LIB
パラメータ, 233
IP
パラメータ, 235
IS

パラメータ, 237

K

KC

パラメータ, 239

KCHECK

パラメータ, 241

KD

パラメータ, 243

L

LC

パラメータ, 245, 247

LCU

パラメータ, 249

LDB

パラメータ, 251

LE

パラメータ, 253

LFILE

パラメータ, 255

LOGONRQ

パラメータ, 259

LS

パラメータ, 261

LT

パラメータ, 265

M

MADIO

パラメータ, 267

MAINPR

パラメータ, 269

MASKCME

パラメータ, 271

MAXBUFF

パラメータ, 273

MAXCL

パラメータ, 275

MAXYEAR

パラメータ, 277

MC

パラメータ, 279

MFSET

パラメータ, 281

ML

パラメータ, 283

MP

パラメータ, 285

MS

パラメータ, 287

MSGSF

パラメータ, 289

MT

パラメータ, 291

N

NATLOG

パラメータ, 293

NATVERS

パラメータ, 297

NC

パラメータ, 299

NCFVERS

パラメータ, 301

NL

パラメータ, 303

NOAPPLERR

パラメータ, 305

O

OPF

パラメータ, 307

OPRB

パラメータ, 309

P

PARM

パラメータ, 313

PC

パラメータ, 315

PCHECK

パラメータ, 317

PERSIST

パラメータ, 319

PM

パラメータ, 321

PRGPAR

パラメータ, 323

PROGRAM

パラメータ, 325

PS

パラメータ, 327

PSIGNF

パラメータ, 329

R

RCFIND

パラメータ, 331

RCGET

パラメータ, 333

RDACTIVE

パラメータ, 335

RDNODE

パラメータ, 337

RDPORF

パラメータ, 339

RDS

パラメータ, 341

RECAT

パラメータ, 343

REINP

パラメータ, 345

ROSY

パラメータ, 347

RTINT

パラメータ, 349

S

SA

パラメータ, 351
SB
パラメータ, 353
SD
パラメータ, 357
SERVER
パラメータ, 359
SF
パラメータ, 361
SG
パラメータ, 363
SM
パラメータ, 365
SNAT
パラメータ, 367
SORTSZE
パラメータ, 369
SPODDEBUGPORT
パラメータ, 371
SRETAIN
パラメータ, 373
SRVNAME
パラメータ, 375
SRVNODE
パラメータ, 377
SRVUSER
パラメータ, 379
SSIZE
パラメータ, 383
STACK
パラメータ, 385
STARTUP
パラメータ, 387
STEPLIB
パラメータ, 389
SUBCHAR
パラメータ, 391
SUTF8
パラメータ, 393
SYMGEN
パラメータ, 395
SYNERR
パラメータ, 397

T
TC
パラメータ, 399
TCU
パラメータ, 401
TD
パラメータ, 403
TF
パラメータ, 405
THSEP
パラメータ, 407
THSEPCH
パラメータ, 409
TIMEOUT
パラメータ, 411
TMPSTORTUNIQ
パラメータ, 413
TQ
パラメータ, 415

TQMARK
パラメータ, 417
TRACE
パラメータ, 419
TRANSP
パラメータ, 421
TRYALT
パラメータ, 423

U

UC
パラメータ, 425
UDB
パラメータ, 427
ULANG
パラメータ, 429
USEDIC
パラメータ, 431
USER
パラメータ, 433
USEREP
パラメータ, 435
USIZE
パラメータ, 437

W

WEBIO
パラメータ, 439
WFOPFA
パラメータ, 441
WH
パラメータ, 443
WORK
パラメータ, 445

X

XADB
パラメータ, 447
XREF
パラメータ, 449

Y

YSLW
パラメータ, 453

Z

ZD
パラメータ, 455
ZP
パラメータ, 457

せ

セッションパラメータ
概要, 1
はじめに, 5

は

パラメータ
概要, 1

ふ

プロファイルパラメータ
概要, 1
はじめに, 3

